新潟県埋蔵文化財調査報告書　第289集

一般国道49号

# 阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XVII

## 境 塚 遺 跡 Ⅳ　第４次調査

２０２１

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道49号

# 阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XVII

## 境塚（さかいづか）遺跡Ⅳ　第４次調査

２０２１

新　潟　県　教　育　委　員　会

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 序

一般国道 49 号は、太平洋側の福島県いわき市と日本海側の新潟市を結ぶ主要幹線道路です。また、同路線は沿線市町村と新潟市を結び、日常生活や地域経済を支える重要な基盤道路としての役割を果たしています。

しかし、現道は阿賀野市街地での幅員減少等の問題を抱え、近年の著しい交通量の増加に十分対応できておりません。その結果、交通混雑、交通騒音、交通事故の増加等、生活環境に悪影響を与える様々な問題が生じています。

そこで、阿賀野市六野瀬から同市下黒瀬を結ぶ延長 13.7km の阿賀野バイパスの建設が計画されました。同バイパスは、安全で円滑な交通の確保と都市機能活性化のために重要な役割を果たすものと大いに期待されています。

本書は、阿賀野バイパスの建設に先立ち、2019（平成 31・令和元）年度に実施した境塚遺跡第 4 次調査の報告書です。調査面積は小さいものの、鎌倉時代以降の掘立柱建物や井戸、溝などの遺構が見つかりました。遺構には重なっているものがあることから、同じ場所に継続して集落が営まれていたことがわかります。また、下の層から古墳時代前期の土器がまとまって出土した場所もあり、当地域の古墳時代の様相を知るうえでの貴重な調査事例となりました。

今回の調査成果が、地域の歴史を解明するための基礎資料として広く活用されるとともに、県民の方々の埋蔵文化財に対する理解と認識を深める契機となれば幸いです。

最後に、この調査に関して多大な御支援と御協力をいただいた阿賀野市教育委員会、並びに地元住民の方々、そして、発掘調査から報告書刊行に至るまで格別のご高配をいただいた国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所に対して厚くお礼申し上げます。

2021（令和 3）年 3 月

新潟県教育委員会

教育長　稲　荷　善　之

# 例　　言

1　本報告書は、新潟県阿賀野市月崎字六日野境に所在する境塚遺跡の第４次発掘調査記録である。

2　発掘調査は一般国道 49 号阿賀野バイパスの建設に伴い国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所（以下、国交省）から新潟県教育委員会（以下、県教委）が受託したものである。

3　発掘調査は県教委の依頼を受けた公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が 2019 年度に実施した。発掘作業、整理作業および関連諸工事等の一部業務は吉田・帆苅特定共同企業体（株式会社吉田建設・株式会社帆苅組）に委託した。発掘調査面積は延べ 1,119m$^2$ である。

4　出土品及び調査に係る各種資料は、すべて県教委が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。データの有無や閲覧希望は、県教委に問い合せ願いたい。

5　出土遺物には、原則として調査年度の下二桁と遺跡の略称を合わせた「19 サカイ」に続けて通し番号を付した。

6　遺構図版に付した方位記号の北は、国家座標Ⅷ系の座標北を示す。

7　遺跡の土層及び出土遺物の色調は、『新版標準土色帖』［日本色研事業株式会社 1998］に基づき記述した。

8　引用文献は、著者及び発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

9　作成した図版のうち、既成の地図を使用した場合は、それぞれにその出典を記した。

10　調査成果の一部は、『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』で公表しているが、本書をもって正式な報告とする。

11　本書の執筆は、石川智紀・塩野寛人（以上、埋文事業団）、笹澤正史・松井　智・中俣　茂（以上、株式会社吉田建設）、高橋　均・石橋夏樹（以上、株式会社帆苅組）があたり、編集は石川智紀が行った。執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章：石川
第Ⅱ章：笹澤・高橋
第Ⅲ章：石川・中俣
第Ⅳ章１：石川、２～ 3A：中俣、3B：高橋・松井、3Ca・c・d：石橋、3Cb・D：塩野
第Ⅴ章：笹澤
第Ⅵ章：石川

12　遺構・遺物図の各種図版作成・編集に関しては、有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。

13　図書館等（著作権法第 31 条第１項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。

14　発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力を賜った。ここに記して厚くお礼申し上げる。　（敬称略　五十音順）

阿賀野市教育委員会　阿賀野川土地改良区　国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所

# 目　　次


第Ⅰ章　序　　説 …… 1

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調 査 経 過 …… 2

A　試 掘 調 査（2008 年度） …… 2

B　本発掘調査（第 1 ～ 3 次調査、2009・2014・2015 年度） …… 3

C　本発掘調査・整理（第 4 次調査、2019 年度） …… 3

D　調査・整理の体制 …… 5

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 6

1　地理的環境 …… 6

2　歴史的環境 …… 7

A　古 墳 時 代 …… 7

B　古代・中世 …… 8

第Ⅲ章　調査の概要 …… 12

1　グリッドの設定 …… 12

2　層　　序 …… 13

第Ⅳ章　遺　　構 …… 15

1　記述の方法と遺構の分類 …… 15

A　基 本 方 針 …… 15

B　遺構の表記方法 …… 15

C　遺構の形態分類 …… 15

D　掘立柱建物 …… 16

2　概　　要 …… 16

遺構・遺物の検出状況 …… 16

A　L 区の遺構 …… 16

B　M 区の遺構 …… 17

1）古墳時代の遺構 …… 17　　2）中世以降の遺構 …… 18

C　N 区の遺構 …… 22

D　O 区の遺構 …… 25

遺構・遺物の検出状況 …… 25

各　　説 …… 25

第Ⅴ章　遺　　物 …… 27

1　古 墳 時 代 …… 27

A　遺構出土遺物 …… 27

B　包含層出土遺物 …… 28

C　小　　結 …… 28

２　古　　代 …… 28
３　中　　世 …… 28
Ａ　土　　器 …… 28
1）Ｌ　　区 …… 28　2）Ｍ　　区 …… 29
3）Ｎ　　区 …… 29　4）Ｏ　　区 …… 29
Ｂ　石　製　品 …… 30
Ｃ　金属製品 …… 30
Ｄ　木　製　品 …… 30
Ｅ　小　　結 …… 30

第Ⅵ章　ま　と　め …… 31

《引用・参考文献》 …… 33
《観　察　表》 …… 35

## 挿図目次

第 1 図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置 …… 1
第 2 図　試掘トレンチ位置 …… 2
第 3 図　境塚遺跡（第４次調査）の調査経過 …… 4
第 4 図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川 …… 6
第 5 図　境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡の分布 …… 8
第 6 図　白河荘の区分 …… 9
第 7 図　周辺の中世遺跡分布 …… 10
第 8 図　グリッド設定と調査区 …… 12
第 9 図　基本層序柱状図と位置図 …… 13
第 10 図　遺構の平面・断面形態の分類 …… 15
第 11 図　遺構覆土の堆積形状の分類 …… 15
第 12 図　古墳時代前期土器の器種組成 …… 27
第 13 図　中世遺構全体図 …… 32
第 14 図　検出遺構と土地更正図 …… 32

## 表　目　次

第 1 表　境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡一覧 …… 8
第 2 表　周辺の中世遺跡一覧 …… 11

# 図 版 目 次

【図面図版】

図版 1　調査範囲図
図版 2　中世遺構全体図
図版 3　M区　古墳時代遺構分割図・遺構個別図
図版 4　L区　中世遺構分割図・遺構個別図
図版 5　M区　中世遺構分割図
図版 6　M区　中世遺構個別図（1）
図版 7　M区　中世遺構個別図（2）
図版 8　M区　中世遺構個別図（3）
図版 9　M区　中世遺構個別図（4）
図版 10　N区　中世遺構分割図
図版 11　O区　中世遺構分割図
図版 12　N区　中世遺構個別図（1）
図版 13　N区　中世遺構個別図（2）
図版 14　N区　中世遺構個別図（3）
図版 15　N区　中世遺構個別図（4）・
　　O区　中世遺構個別図
図版 16　古墳時代の土器（1）
図版 17　古墳時代の土器（2）、
　　古代の土器・陶磁器、
　　中世の土器・陶磁器（1）
図版 18　中世の土器・陶磁器（2）
図版 19　中世の石製品・金属製品・木製品

【写真図版】

図版 20　境塚遺跡Ⅳ　全景
図版 21　古墳時代の遺構・中世の井戸
図版 22　M区　基本層序・古墳時代の遺構
図版 23　M区　古墳時代の遺構・L区　中世の遺構
図版 24　L・M区　中世の遺構
図版 25　M区　中世の遺構
図版 26　M区　中世の遺構
図版 27　M区　中世の遺構
図版 28　M区　中世の遺構
図版 29　M区　中世の遺構
図版 30　M・N区　中世の遺構・N区　基本層序
図版 31　N区　中世の遺構
図版 32　N区　中世の遺構
図版 33　N区　中世の遺構
図版 34　N区　中世の遺構・O区　基本層序
図版 35　O区　中世の遺構
図版 36　古墳時代の土器、古代の土器・陶器、
　　中世の土器・陶磁器（1）
図版 37　中世の土器・陶磁器（2）、
　　石製品、金属製品、木製品

# 第Ⅰ章　序　　説

## 1　調査に至る経緯

一般国道49号（福島県いわき市～新潟市）は、太平洋側と日本海側を結ぶ重要な幹線道路である。県内では、沿線の阿賀町・阿賀野市と新潟市を結ぶ主要幹線道路として重要な役割を果たしている。道路は阿賀野市の市街地（旧安田町・旧水原町・旧京ヶ瀬村）を通過しており、幅員が狭小なため、その交通量に対応できず、交通混雑、交通騒音、交通事故等都市機能や生活環境に与える影響が問題となっている。これらの問題を解消し、安全かつ円滑に交通を処理することを目的に、「一般国道49号安田バイパス」（阿賀野市六野瀬～同市寺社間5.6km）と「一般国道49号水原バイパス」（阿賀野市寺社～同市下黒瀬間8.1km）が計画された。これら二つのバイパスは、平成16年の市町村合併に伴う阿賀野市の誕生を機に、「阿賀野バイパス」と呼称することとなった（第1図）。

阿賀野バイパスのうち、安田バイパス区間は1985（昭和60）年の一部暫定供用を経て、2006（平成18）年に暫定2車線が開通している。水原バイパス区間は、1999（平成11）年3月に都市計画が決定し、2000（平成12）年度に事業化が決定した。2003（平成15）年度に用地取得に着手したことを受けて、国土交通省（以下、国交省）と新潟県教育委員会（以下、県教委）との間で、道路法線内の埋蔵文化財の取り扱いに関する協議が本格化した。水原バイパス区間の分布調査は、県教委から委託を受けた財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（当時。以下、埋文事業団）が2003（平成15）年12月に実施した。分布調査の結果、周知遺跡（石船戸遺跡）以外でも広範囲で古代・中世の遺物が採取されたことから、全域に対して試掘確認調査が必要である旨を県教委に報告した。

2005（平成17）年4月以降、阿賀野バイパスの試掘確認調査が本格化し、国交省から依頼を受けた県教委が、埋文事業団に委託する形で実施した。なお境塚遺跡は、バイパス事業に隣接する県営湛水防除事業に伴う試掘調査で、2008（平成20）年に阿賀野市教育委員会（以下、市教委）によって新規登録されている。バイパス事業16工区の区間の内、境塚遺跡周辺の試掘調査は、2008年5～7月に実施した。検出

**第1図　阿賀野バイパスの路線と遺跡の位置**
（国土地理院発行「新潟」「新津」1：50,000原図）

された遺構・遺物の粗密を検討し、延べ面積 38,461m² に対して本発掘調査が必要であることを県教委に報告した。本発掘調査は、国交省から依頼を受けた県教委が、埋文事業団に委託して実施した。2009（平成 21）年度が第 1 次調査で、18,167m²（図版 1：A ～ D 区）を調査した。

その後、水原バイパス全域の試掘確認調査が終了したことから、国交省と県教委は 2012（平成 24）年 12 月 10 日に「水原バイパスの建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する覚書」（以下、覚書）を締結し、完成 4 車線施工時と暫定 2 車線施工時の本発掘調査対象範囲を確定した。バイパスの早期開通のため、当面は暫定 2 車線施工範囲を対象に、本発掘調査を実施することとした。その後、2014（平成 26）年度の第 2 次調査で延べ 6,480m²（E ～ G 区）、2015（平成 27）年度の第 3 次調査で延べ 6,579m²（H ～ K 区、D 区下層）の調査を実施し、覚書に基づく暫定 2 車線施工範囲の調査を完了した。

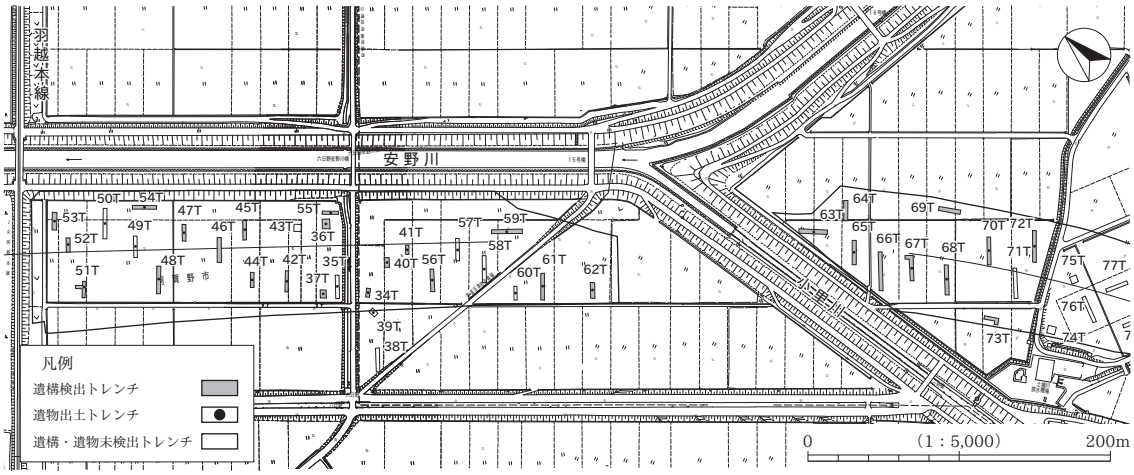
覚書締結時の工事設計に基づく範囲の調査は完了していたが、2019 年 2 月に設計変更が国交省から示された。本発掘調査完了範囲と照合の結果、未調査範囲（= 調査必要範囲）が生じた。国交省と県教委は協議し、一部事業計画を変更して対応することにした。国交省から本発掘調査の依頼を受けた県教委は、埋文事業団に調査を委託した。2019（平成 31）年度当初の依頼面積は、4 地点で延べ 950m² である。バイパスの本体工事が進んでいること、調査対象地点ごとに現況が異なっていることから、工程を精査して 4 月から事前準備及び調査に着手した。

# 2 調 査 経 過

## A 試 掘 調 査（2008 年度）

試掘調査は、埋文事業団が 2008 年 5 月 23 日～ 7 月 2 日に行った。調査地点は、一般国道 49 号阿賀野バイパス用地である JR 羽越本線－小里川間と小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間である（第 2 図）。

調査対象面積は 79,261m²、実質調査面積は 1,325.7m²、試掘率は 1.7% である。試掘調査は、調査対象地に試掘坑（試掘トレンチ：略号 T）を任意に設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構･遺物の有無を確認した。その後、土層堆積状況、トレンチ位置、遺構･遺物の検出状況等を図面･写真等に記録した。遺物はトレンチ西端及び北端から 4m ごとに区切り、層序別に取り上げた。試掘トレンチは、JR 羽越本線－小里川間（34T ～ 62T）29 か所、小里川右岸堤下－県道新関水原停車場線間（63T ～




**第 2 図　試掘トレンチ位置**（国交省新潟国道事務所阿賀野バイパス平面図に加筆）

105T）43 か所の合計 72 か所を設定した。

JR 羽越本線－小里川間では、西側（42T ～ 53T）と東側（40T ～ 60T）の大きく 2 つの範囲で遺構・遺物を検出した。西側では土坑・溝などの遺構と、古代・中世の遺物が見つかった。また、49T で縄文時代晩期の土器を見つけたが、これに伴う明確な遺構は検出できなかった。東側では、59T ～ 62T で土坑・溝などの遺構が濃く分布する傾向が認められ、検出状況から古代と中世の遺構が重複するものと推測した。この遺構・遺物の分布状況は、市教委が実施した隣接事業用地の試掘結果と同じで、境塚遺跡の遺跡範囲と認識された。小里川右岸の試掘では、63T ～ 73T で溝を主体とする遺構を検出し、古代・中世に所属する遺物が出土した。このことから、当該範囲は小里川左岸から境塚遺跡が続くものと想定した。また、これらの区間は昭和初期の耕地整理により遺物包含層の大半が削平されており、水田耕作土直下で遺構が検出されることも分かった。

以上の結果、バイパス本線に沿って長さ約 670m の範囲が境塚遺跡と判断され、延べ 38,461m² について本発掘調査が必要であると報告した。

## B　本 発 掘 調 査（第 1 ～ 3 次調査、2009・2014・2015 年度）

阿賀野バイパス建設予定地内における、境塚遺跡の本発掘調査対象の当初面積は約 38,461m² であった。耕地整理の影響で遺物包含層が削平を受けていたこともあり、当初は古代・中世の 1 面調査と考えられていた。しかしその後の調査によって、部分的に古墳時代（中層）、縄文時代（下層）の遺構・遺物が検出されたこと、また調査不要と判断した範囲も調査対象に変更になったことなどから、本発掘調査対象の面積は増加している。よって各年度調査の合計面積は、調査終了の平面積と同一ではない。2019 年度までに、3 回の本発掘調査（第 1 ～ 3 次調査）が実施されている。2009 年度の第 1 次調査で 18,176m²（図版 1:A ～ D 区）、2014 年度の第 2 次調査で 6,480m²（E ～ G 区）、2015 年度の第 3 次調査で 13,363m²（H ～ K 区、D 区下層）の本発掘調査を行った。それぞれの成果は『境塚遺跡』［荒川・村上ほか 2012］、『境塚遺跡Ⅱ』［荒川・村上ほか 2016］、『境塚遺跡Ⅲ』［飯坂・荒川ほか 2018］として報告・刊行されている。また、調査区に隣接して阿賀野市教育委員会（以下、市教委）が県営湛水防除事業（安野川拡幅工事）に伴い 2008・2009 年度に 3,412m²（阿賀野市 A・B 区）の調査［古澤ほか 2011］を行っている。

## C　本発掘調査・整理（第 4 次調査、2019 年度）

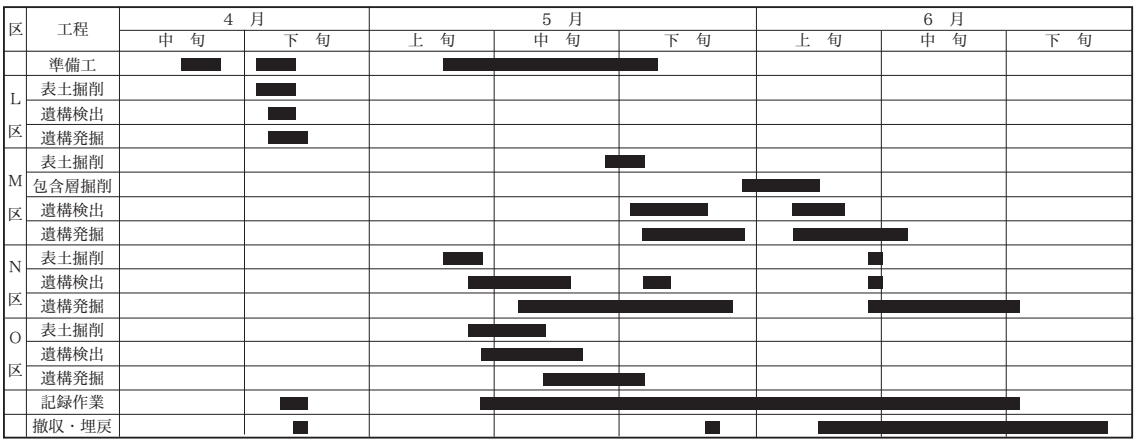
2012 年の覚書締結以降にバイパス工事の設計変更があったことから、国交省は本発掘調査を県教委に依頼した。第 4 次調査（境塚遺跡Ⅳと呼称）は県教委から委託を受けた埋文事業団が、2019（平成 31・令和元）年 4 月 22 日から 6 月 21 日の期間で行った。年度当初の依頼面積は 4 地点で 950m² であるが、工事内容や工事の影響範囲を考慮し、最終的な調査範囲を確定した。

調査対象範囲は 4 地点に分かれており、過年度調査と隣接していることから、調査区名を引き継いで呼称することにした。南東側から L ～ O 区と仮称した。各調査区によって様相は異なるが、バイパスの本体工事が進んでいたため、工事用の搬出入路・駐車場・仮盛土などが存在し、過年度調査時の現況とは大きく異なっていた。各施工業者と調整を図り、調査の事前準備を進め、支障物件が比較的少ない L 区の調査を 4 月 22 日から着手した。各調査区における表土掘削、包含層掘削、遺構検出、遺構発掘の作業経過は第 3 図のとおりである。記録作業（図面作成・写真撮影など）、事前準備、撤収作業、埋戻しについては、各調査区の進捗で重複する部分も多いことからまとめて示した。

**L 区**　調査範囲に支障物件は存在しなかったが、地盤高が低く、工事の集水場となっていたため、短期で調査終了する必要があった。4 月 22 日に表土掘削を開始し、翌日から遺構検出を行った。その結果、過年度調査区境まで表土掘削が及んでいないことが判明し、部分的に拡張した。近世以降の可能性が高い溝 SD3015 を検出し、埋土の中位まで重機で慎重に掘削し、その後は人力で遺構掘削した。24・25 日に検出遺構の掘削・記録作業（図面作成・写真撮影）を行い、25 日午前中までに終了させた。全体写真撮影後、午後に県教委の終了確認を受け、そのまま埋戻し作業に着手し、4 月 26 日に終了した。

**M 区**　調査範囲は公共工事排土が置かれ、また橋脚工事用の進入路が存在したので、工事関係者との調整を要した。進入路をルート変更することで合意し、4 月 25 日から盛土除去を開始した。5 月 16 日に至り、調査区の範囲設定が可能となった。5 月 20 日から本格的に調査区内の表土掘削を開始したが、上層の遺構検出面まで耕地整理や現代の攪乱が及んでいることが判明した。また古墳時代の遺物も上層遺構検出面付近で多く出土することから、部分的に中層まで影響を受けていることを確認した。5 月 23 日から遺構掘削に着手したが、上層で検出できる遺構は、近世以降の遺構も含むことから、壁面の堆積状況や遺構埋土の色調に留意して調査を進めた。方形区画溝やピットを多数検出したが、近世以降と確証が得られない遺構は調査対象とした。5 月 30 日までに上層の遺構掘削を終了し、31 日に県教委の終了確認を受けた。その後、中層の包含層掘削に着手したが、遺物の出土分布は調査区北半に限られることから、南半は幅 2m のトレンチを 3 か所掘削して終了した（図版 3）。6 月 7 日まで包含層掘削と遺構検出作業を併行し、10 日から遺構掘削・記録作業を開始した。6 月 13 日に終了確認を受け、14 日に上層の全体撮影をした。上層遺構の埋土は地山との識別が困難な部分もあったことから、平面測量後に重機で慎重に掘り下げを行った。未検出遺構を追加で調査し、埋戻しも含めたすべての作業を 6 月 20 日に終了した。

**N 区**　調査範囲に公共工事排土が存在したため、4 月下旬に調査区外南側に搬出し、その後調査範囲の設定を行った。5 月 7 日から表土掘削を開始し、北側と西側で過年度調査区との境を確認した。遺構は SD3066 以北に集中することが確認され、また調査区東壁際で、調査区外に延びる大型の遺構を検出した。この大型遺構の取扱いについて県教委と国交省は協議し、後述するように、調査区を法線際（堤体に影響が出ない範囲）まで拡張して調査することにした。5 月 13 日から遺構掘削を開始し、東壁際の大型遺構以外の掘削を 17 日までに完了した。また同日午後に調査区全体の完掘写真を撮影した。平面図測量後、M 区同様に 5 月 22 日から重機で掘り下げを実施した。その結果、十数基の遺構を検出し、遺構掘削・記録作業を行い、5 月 29 日に終了した。




※L・N・O 区は古代・中世の包含層なし。

**第 3 図　境塚遺跡（第 4 次調査）の調査経過**

東側の調査区拡張の許可が６月７日に国交省から得られ、10 日に重機及び人力による表土掘削を行った。拡張区では大型遺構も含めて十数基の遺構を検出したが、遺構掘削は大型遺構のみを対象とする前提であったことから、その他の遺構は平面プランの検出までに留めた。大型遺構は井戸（SE6006）であることが判明し、略完掘が終了した 20 日に合わせて、県教委からＮ区上層の終了確認を受けた。翌日、井戸側の取り上げが困難であることから、重機で西側を半割して最後の記録作業を行った。

**Ｏ区**　調査範囲はバイパス工事関係の駐車場及び資材置場となっていたので、工事関係者と工程を調整し、５月９日から 14 日にかけて砕石・造成土の除去及び表土掘削を行った。14 日から遺構精査を開始したが、周辺調査区の状況と同様に、溝が主体の範囲であることが判明した。集落の周辺と想定されたが、水田などの生産域が検出される可能性があったので、留意して検出作業を行った。溝は埋土の観察ベルトを残して遺構掘削を行った。17 日に遺構掘削を終了し、20 日にＮ区と共に上層の完掘写真を撮影した。その後、平面図などの記録作業を実施し、30 日にすべて終了した。

**全体**　Ｍ・Ｎ・Ｏ区の上層の空撮は、５月 30 日に行った。ただしこの段階ではＮ区の拡張区は許可が得られていない。調査区の埋戻し方法は、国交省と協議の上、土壌改良はせずに発生土をそのまま使用した。埋戻し及び撤収作業を６月 26 日までに終了し、28 日に国交省へ現地を引き渡した。

整理作業は、本発掘調査と並行して遺物の洗浄・注記・接合・復元を株式会社吉田建設の整理室で行い、12 月の上野遺跡調査終了後から本格的に開始した。整理期間は短いが、調査面積及び遺物量を勘案し、年度内に編集を終了させることにした。遺構図面修正・写真整理・遺構台帳などの基礎整理から開始し、遺物の実測、遺構・遺物の観察表の作成、各種図版作成、原稿執筆を行った。各種図版及び挿図を含む本文の編集作業は、有限会社不二出版に委託して作業の効率化を図った。

## Ｄ　調査・整理の体制

新潟県教育委員会が主体となり、以下の体制で行った。

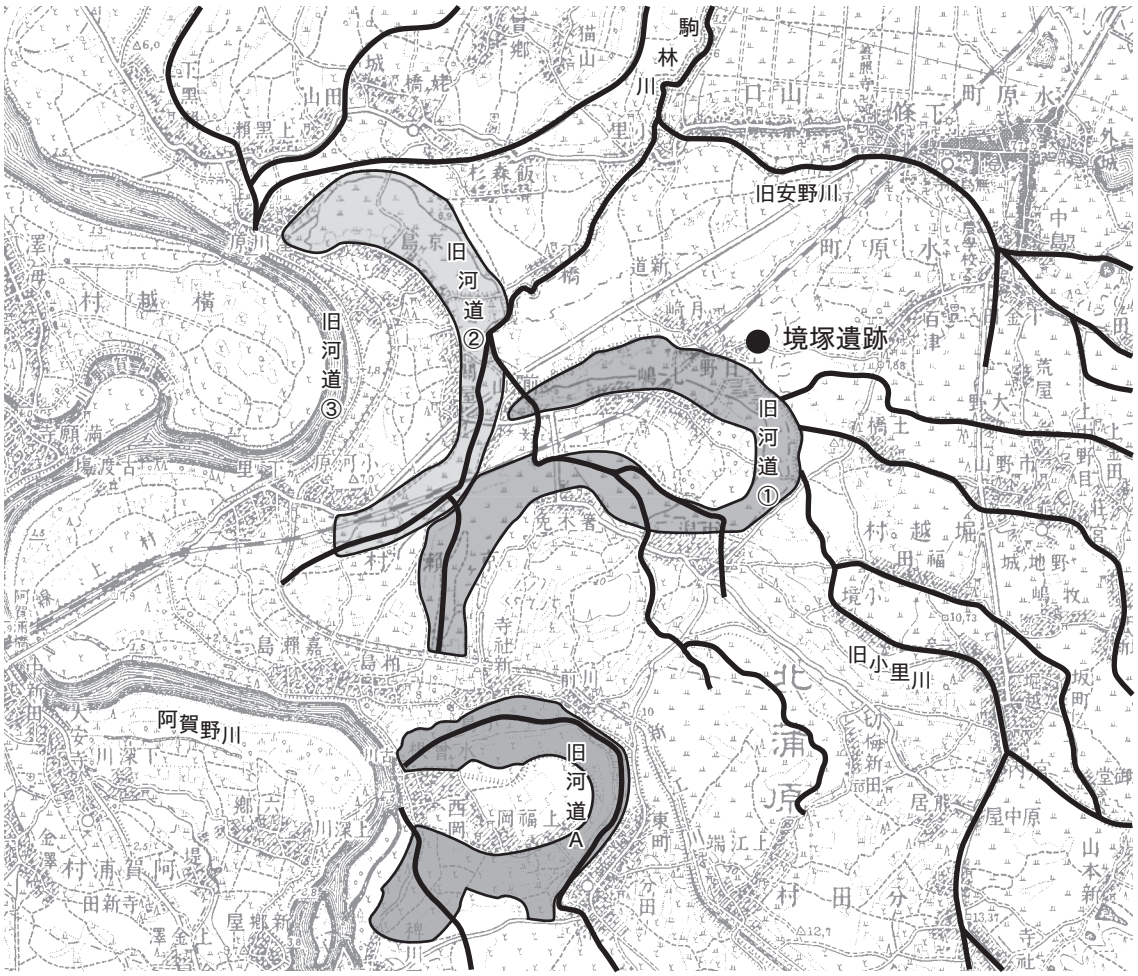
| | 本発掘調査・整理作業（2019年度） | 試掘調査（2008年度） |
|---|---|---|
| 調査次数 | 第4次調査 | － |
| 調査期間 | 2019年4月22日～6月21日 | 2008年5月23日～7月2日 |
| 整理期間 | 2019年12月16日～2020年3月31日 | － |
| 調査主体 | 新潟県教育委員会（教育長　稲荷善之） | 新潟県教育委員会（教育長　武藤克己） |
| 調　　査 | 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 | 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 総　　括 | 清野　一善（事務局長） | 木村　正昭（事務局長） |
| 管　　理 | 松田　　祐（総務課長） | 斉藤　　栄（総務課長） |
| 庶　　務 | 小野澤浩嗣（総務課班長） | 長谷川　靖（総務課班長） |
| 調査総括 | 沢田　　敦（調査課長） | 藤巻　正信（調査課長） |
| 調査担当 | 石川　智紀（調査課課長代理） | 田海　義正（調査課試掘担当課長代理） |
| 調査職員 | 塩野　寛人（調査課文化財調査員） | 畠野　義昭（調査課主任調査員） |
| 支援組織 | 吉田建設・帆苅組特定共同企業体 | |
| | 現場代理人：小川昭二（吉田建設） | |
| | 調査員：笹澤正史、中俣　茂、松井　智<br>田中万里子、野口沙愛（以上、吉田建設）<br>高橋　均、石橋夏樹（以上、帆苅組） | |

# 第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

## 1　地 理 的 環 境

境塚遺跡は、阿賀野市百津字境塚16番地1ほかに所在する（第4図）。阿賀野市は、新潟県の北東部に位置し、2004年4月に安田町・水原町・笹神村・京ヶ瀬村の4町村が合併して誕生した人口約4万1千人の新市である。周囲は、新潟市・新発田市・五泉市・東蒲原郡阿賀町と接する。阿賀野市の地勢は、東に標高973.5mの菱ヶ岳を主峰とする山々が北北東－南南西方向に約20km連なる五頭山地と、山地との間に低地を挟んで標高100mほどの笹神丘陵が分布し［笹神団体研究グループ1976・1980］、西・南・北には信濃川と阿賀野川の沖積作用により形成された越後平野が広がる。

五頭山地の大部分は、五頭花崗岩類と呼ばれる風化が著しいマサ化した花崗岩からなり［笹神団体研究グループ1976・1980］、山地からは折居川・大荒川・安野川などの小河川が笹神丘陵を開析して平野に流れ込んでいる。これらの小河川は、北西から南東方向に狭い帯状の自然堤防を形成して福島潟へと流入し、福島潟の排水路としての機能を持つ新井郷川を経由して阿賀野川へと合流している［新潟県1975］。




**第4図　遺跡周辺における阿賀野川の旧河道と河川**（第232集『境塚遺跡』から転載・一部加筆）
（大日本帝國陸地測量部発行　大正8年「新潟」「新津」1：50,000原図）

阿賀野川は、福島県南会津郡南会津町の荒海山を水源とし、会津盆地を抜け新潟・福島県境の峡谷を通過して五泉市馬下付近で越後平野へ入り、阿賀野市水曽根・金渕乙、新潟市沢海付近で大きく蛇行を繰り返しながら新潟市笹山付近で直線的な流路となって日本海へ注ぐ。現在の河口付近の流路は、1730（享保15）年の新発田藩による松ヶ崎堀割り開削とその後の洪水による流路変更で本流となった［北陸地方整備局阿賀野川工事事務所 1988］もので、堀割り開削以前は新潟砂丘の手前で南に折れて信濃川と合流していた。この地は現在新潟港となっており、古代においては延喜式に記載される「蒲原津」として機能したと推定されている。

阿賀野川水害地形分類図［北陸地方整備局阿賀野川工事事務所 1984］や航空写真を見ると、かつての阿賀野川は笹神丘陵近くを流れていた痕跡があり、蛇行を繰り返す中で沖積作用により西へ流路を変更した結果、平野に自然堤防や微高地、潟湖、後背湿地を数多く残した。1645（正保2）年「正保越後国絵図」には、境塚遺跡に隣接する六日野の近くに「百津潟」が描かれており、また、1816（文化13）年「越後輿地全図」にも「古川蹟」と書かれた三日月状の範囲が記されていることから、阿賀野川の流路変更に伴い三日月湖となったものが百津潟と考えられている［成田 2000］（第4図）。さらに、1823（文政6）年「九月調の絵図」には百津潟に笹神丘陵から小河川が幾つか流れ込んでいた様子も描かれていて[注1)]、近世の頃には百津潟が福島潟同様に内水面交通の結節点として機能していたと推測されている［成田 2000］。

現在の境塚遺跡周辺は、1927 ～ 1931（昭和2 ～ 6）年ころに行われた耕地整理により水田地帯となっているが、これ以前は桑畑を中心とする畑地であり、比較的標高の高い場所であった。安定した自然堤防が存在し、旧阿賀野川を利用した内水面交通の便に適した場所であったことが、この地に境塚遺跡が成立した理由のひとつと考えられよう。

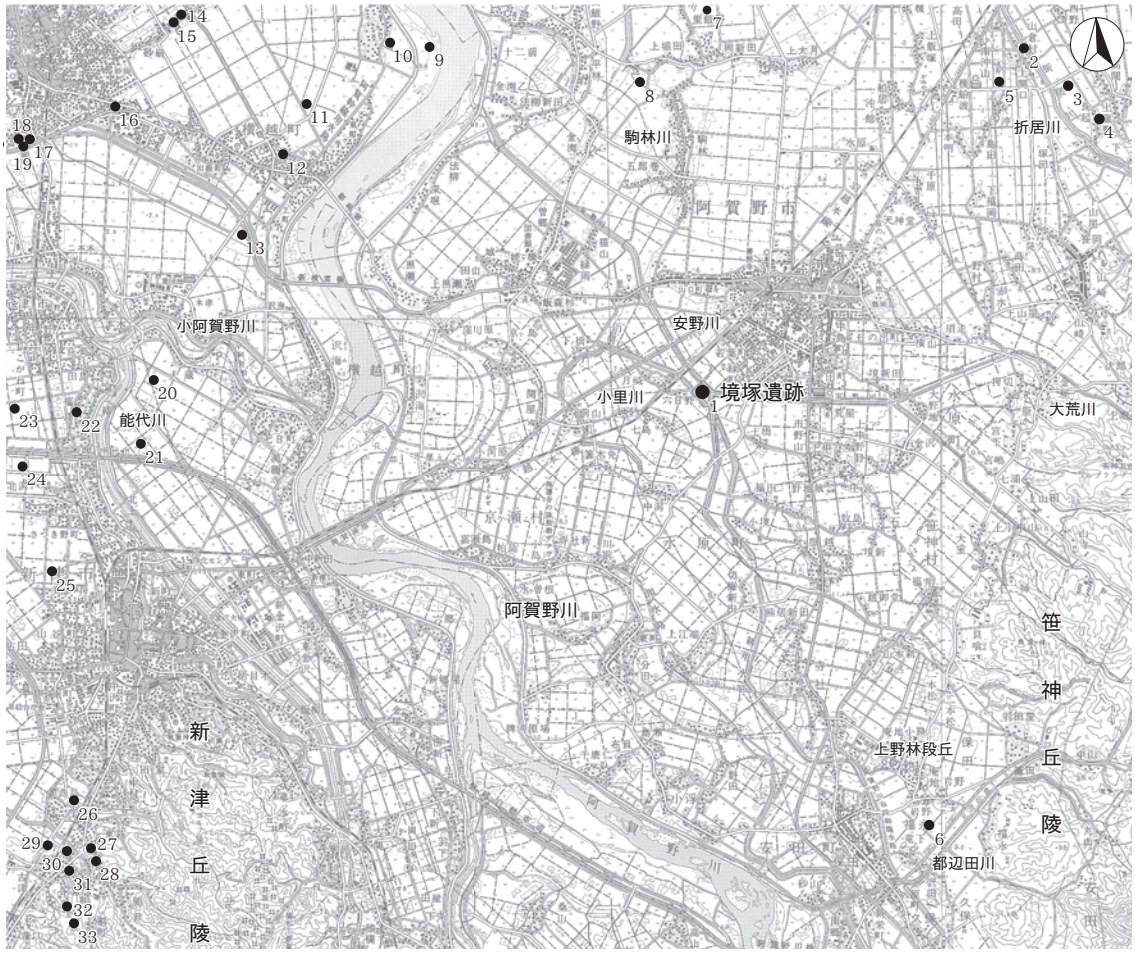
## 2　歴史的環境

### A　古墳時代

阿賀野市域の古墳時代の遺跡は、分布調査を含めても5遺跡に過ぎない。隣接する市町村まで範囲を広げても境塚遺跡周辺では50遺跡に満たず、現状での古墳時代の遺跡数は非常に少ない（第5図）。

これまで調査された古墳時代の遺跡は、旧阿賀野川により形成されたと考えられる自然堤防（1・6・10 ～ 12）、中・小河川の自然堤防（2 ～ 5・7・8・21・22）、後背湿地の微高地（13・20・23 ～ 25）、砂丘または砂丘間低地（14 ～ 19）、丘陵または丘陵縁辺（26 ～ 33）に立地している。自然堤防や丘陵・砂丘に遺跡が多く分布するのは、より安定した土地を居住の場とした結果であろう。一方で、低地の微高地にも幾つかの遺跡があり、多少不安定な土地であっても居住地や耕作地の拡充を図るために積極的に低地を開発していったものと考えられる。また、新津丘陵には、弥生時代後期～古墳時代初頭の高地性環濠集落である古津八幡山遺跡［渡邊ほか 2001］や古墳時代前期末～中期初頭の古津八幡山古墳［相田ほか 2014］があり、阿賀野川流域の拠点となっていた。

境塚遺跡周辺の古墳時代の遺跡は、旧阿賀野川と考えられる大河川の自然堤防に境塚（1）［古澤ほか 2011・荒川ほか 2016］・雲雀田遺跡（6）［渡辺 1973］、小河川である折居川の自然堤防に腰廻（2）［川上 2002］・上高関（4）［中山・渡辺 2001］・前田（3）［川上 1999］・高畑遺跡（5）［遠藤 2003］が分布する。雲雀田遺跡の遺物は、詳細は不明ながらも報告写真から古墳時代前期と推定できる。境塚遺跡も前期の遺物のみの出土であり、旧阿賀野川と推定される河川の自然堤防に立地する遺跡は、流路変更による浸食・




**第５図　境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡の分布**

（国土地理院地形図　2005「新潟」・1997「新津」・1997「天王」・1999「津川」 1：50,000 を改変）

| No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 境塚 | 6 | 雲雀田 | 11 | 宮尻郷 | 16 | 亀田六枚田 | 21 | 沖ノ羽 | 26 | 東島大道下 | 31 | 高矢C |
| 2 | 腰廻 | 7 | 居浦 | 12 | 新田郷南 | 17 | 日水南 | 22 | 内畑 | 27 | 山脇 | 32 | 古津八幡山古墳 |
| 3 | 前田 | 8 | 山鳥屋敷 | 13 | 上郷A | 18 | 日水 | 23 | 中田 | 28 | 森田 | 33 | 古津八幡山 |
| 4 | 上高関 | 9 | 小杉中州 | 14 | 山ん家 | 19 | 日水前 | 24 | 上浦B | 29 | 船戸 | | |
| 5 | 高畑 | 10 | 松願寺 | 15 | 前郷 | 20 | 中谷内 | 25 | 山谷北 | 30 | 塩辛 | | |

**第１表　境塚遺跡周辺の古墳時代遺跡一覧**

氾濫等を受けやすかったためか短期間で廃絶している。一方、折居川の自然堤防に立地する遺跡は、左岸に位置する高畑遺跡を除き古墳時代前期～中期もしくは後期まで存続しており、流路変更の影響が少ない丘陵側の右岸を主な生活の場としたことにより、長期に及ぶ活動が可能となったのであろう。

## B　古 代 ・ 中 世

1134（長承３）年に藤原忠道の娘である嘉門院領として白河荘が立荘される。中野豈任は、白河荘の範囲は現在の阿賀野市域とおおよそ一致するとし（第６図）、その開発は荘名の由来となったと考えられる大荒川（白川）流域を中心に笹神丘陵西縁辺から進められたとしている［中野 1967］。この地域は、福島潟へ流入する各小河川を利用した内水面交通による輸送の便もあり、丘陵で須恵器製作・製鉄などの手工業生産が行なわれるなど、古代においても盛んに開発が行われた。また、「健児（こんでい）」木簡が出土し「兵庫（ひょうご）」があったと考えられている発久（ほっきゅう）遺跡や、腰廻遺跡などの官衙関連施設も設置されており［相沢 2004］、笹神丘陵西縁辺は、古代における越後国の開発拠点の一つとして機能していた。

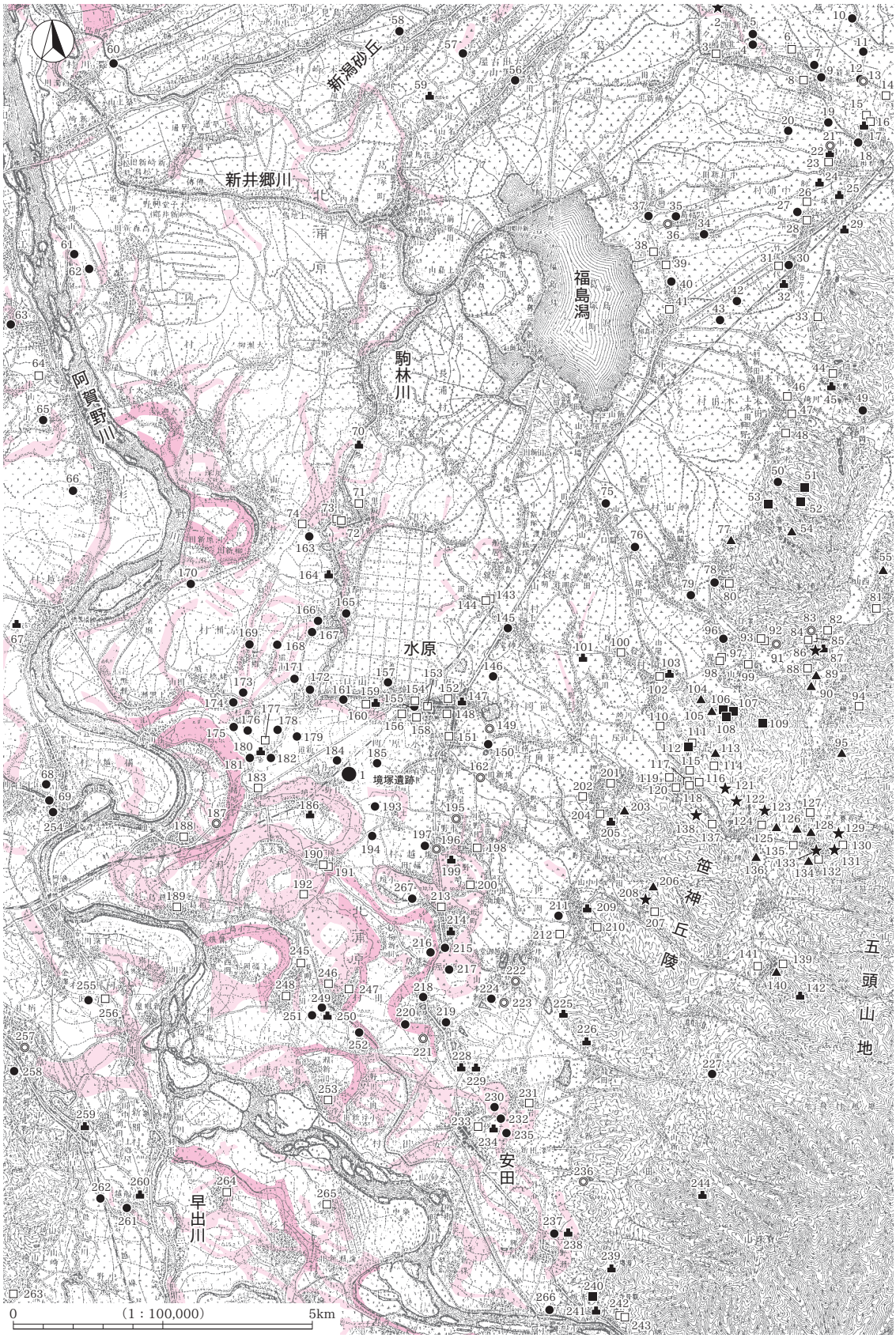
その後、白河荘は1180（治承4）年に嘉門院から猶子の九条良通へと譲与されて九条家領となるが、当時の阿賀野市域は「白川御館」と呼ばれた城助職を中心とする越後平氏の城氏一族の勢力下にあった［樋口2004］。阿賀野市寺社に所在する大坪遺跡は、11世紀後半～12世紀初頭頃の有力者層の居宅と考えられる大型四面庇付掘立柱建物や多数の建物、木棺墓が検出され、新潟県内では抜きんでた量の白磁Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ類椀が出土していることから、旧阿賀野川の内水面流通網を掌握して成立した城氏の本拠地と目されている［荒川ほか2006］。白河荘立荘の背後には城氏の積極的な関与も指摘されており［樋口2004］、白河荘成立以前の城氏一族の経済活動や権勢を推測させる遺跡として注目される。

治承・寿永の内乱後城氏は没落し、越後国は源頼朝の将軍知行国となって鎌倉幕府の管轄となり、鎌倉御家人の大見氏が地頭職を得て入部する。大見氏が白河荘の地頭職を得た時期は明らかでないが、1281（弘安4）年に大見行定が譲状を作成していることからこれ以前であり、源頼朝の挙兵に応じた大見秀家が新恩で得たとされる［田村1987］。

鎌倉時代の白河荘は、上条の安田条と下条の山浦四箇条（やまうらしか）・水原条・船江条に区分され、下条の山浦四箇条を大見氏の惣領が、それ以外が庶子に伝領された。しかし、鎌倉時代末期に安達時顕が地頭職を拝領して以後は、1336（建武3）年の大見能登権守代加治岡政光軍忠状に「白河庄山浦条地頭大見能登権守」が見え、鎌倉幕府滅亡後大見氏が地頭職を再び一時的に掌握した可能性も考えられている［樋口2004］が、以後の史料からは大見氏が室町時代以降も地頭職を得ていたかは不明である。地頭職罷免後は、一分地頭職と

**第6図　白河荘の区分**（中野［1967］から転載・加筆）

注1）「九月調の絵図」は、描かれている村の位置が作成されたとされる1823（文政6）年当時と異なる部分がいくつかあることから、1823年以前の1757（宝暦7）年～1776（安永5）年ころの状況を描いたものと推測されている［成田2000］。




**第７図　周辺の中世遺跡分布**（第 278 集『境塚遺跡Ⅲ』から転載）

（大日本帝國陸地測量部発行　大正３年「津川」大正８年「新潟」「新発田」「新津」　1:50,000 原図、旧河道は大矢･加藤［1984］を参照。）

もいうべき下級の地頭職を得て命脈を保ち、以後山浦氏・安田氏・水原氏を名乗って「白川之面々」と呼ばれる国人領主として所領の一部を保持して勢力を維持していたとされる［樋口 2004］。

阿賀野市域の中世の遺跡は、平野の旧阿賀野川流域と中小河川の自然堤防に館や集落が立地し、丘陵と山地に山城や寺社・塚・石塔などの宗教関連施設、窯や製鉄などの生産遺跡が分布する（第 7 図）。

中世の境塚遺跡の盛期は、既往の調査成果から判断すれば、掘立柱建物の形式が梁間一間または二間主体であること、及び遺物の時期と年代測定値から 13 世紀中葉～ 14 世紀前半にあり、大見氏の地頭在職期間とおおむね一致している。検出された遺構は、道路状遺構を基軸として、溝で区画された複数の敷地内に建物や井戸等が配置されており、一定の計画の下に集落が形成された状況を示している［荒川ほか 2012・2016］。荒川隆史は、区画のあり方や建物規模、大型井戸・埋納銭・埋設甕等の遺構分布状況と、場所によって遺物組成が異なる点に注目して、境塚遺跡の集落構造を「居館エリア」、「町場エリア」、「流通エリア」と仮称して区分し、大見氏が関与して成立した『町』と評価している［荒川 2016］。また、上述の大坪遺跡は、13 世紀～ 14 世紀の遺物が定量出土していることから、城氏滅亡以降も水運の要所としての立地を生かして集落が再編されたと考えられる。文献史学の立場からも、白河荘内の館跡が水運や陸上交通の要所に点在し、付近に舟着場や市が存在したとの見解［中野 1967］が出されており、鎌倉御家人の入部以降、地頭をはじめとした有力者層が、白河荘内で館を拠点に物資を管理・輸送するのに適した場所で、土地開発を積極的に推進した様子が窺える。

| No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 | No. | 遺跡名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 境塚 | 40 | 曽根 | 79 | 壱本杉 | 118 | 地蔵堂石仏 | 157 | 居浦 | 196 | 七ツ塚 | 235 | 竜下 |
| 2 | 真昌寺 | 41 | 天王石塔 | 80 | 徳昌寺石仏 | 119 | 横山家蔵石仏 | 158 | 無為信寺の石仏 | 197 | 原 | 236 | 院殿塚 |
| 3 | 常福寺石造物群 | 42 | 加冶万代弁天郷 | 81 | 岩村寺石仏 | 120 | 遠藤家石仏 | 159 | 下条館跡 | 198 | 渡辺家蔵の石仏 | 237 | 北郷 |
| 4 | 五反畑 | 43 | 切替 | 82 | 稲荷社石仏 | 121 | 法華山墓跡群 | 160 | 浄楽寺の石造物 | 199 | 野地城跡 | 238 | 六野瀬館跡 |
| 5 | 本屋敷 | 44 | 岡屋敷石仏群 | 83 | 上の山塚群 | 122 | 庵入寺墓跡群 | 161 | 土居内 | 200 | 円福寺の石仏 | 239 | ハチマキ山城跡 |
| 6 | 西宮内養泉寺石仏群 | 45 | 岡屋敷城跡 | 84 | 観音堂石仏 | 123 | 真光寺墓跡 | 162 | 泣塚 | 201 | 大通庵石仏 | 240 | 赤坂山中世窯跡 |
| 7 | 境田 | 46 | 真如庵石仏群 | 85 | 椎野家蔵石仏 | 124 | 羽黒石仏 | 163 | 山島屋敷 | 202 | 熊沢の石仏 | 241 | 赤坂山砦跡 |
| 8 | 西糞口の石仏 | 47 | 仲山寺石仏群 | 86 | 上ノ山墓跡群 | 125 | 多須田製鉄関連 | 164 | 駒林要害跡 | 203 | 金屋 | 242 | 十二神社石仏 |
| 9 | 北糞口 | 48 | 清水小屋石仏群 | 87 | 女堂館跡 | 126 | 道下 | 165 | 土居内西 | 204 | 地蔵院石仏 | 243 | 草水石仏 |
| 10 | 荒神裏A | 49 | 月岡カリオンパーク | 88 | 女堂石仏 | 127 | 賽ノ河原石仏 | 166 | 轟 | 205 | 山浦城跡 | 244 | 赤松山城跡 |
| 11 | 蚤取橋 | 50 | 源氏山 | 89 | 西山A | 128 | 道上 | 167 | 善四郎谷内C | 206 | 金クソ沢 | 245 | 村下の石仏 |
| 12 | 上沢田 | 51 | 北沢窯 | 90 | 西山B | 129 | 経沢中世墓域 | 168 | 大割 | 207 | 山寺石仏 | 246 | 祥雲寺の石仏 |
| 13 | 北糞口の塚 | 52 | 砥石沢窯跡 | 91 | 沢口塚 | 130 | 華報寺石造遺物群ほか16 | 169 | 曽郷前 | 208 | アバヤシキ | 247 | 上江端の石仏 |
| 14 | 二ツ堂神明宮石仏 | 53 | 堤上窯跡 | 92 | 沢口石仏 | 131 | 目洗沢中世墓域 | 170 | 下谷地 | 209 | 大室城跡 | 248 | 玉泉寺の石仏 |
| 15 | 長円寺板碑 | 54 | オガノB | 93 | 泉秀院石仏 | 132 | 五頭山荘前石仏群ほか1 | 171 | 大曲川端 | 210 | 洞雲寺石仏群 | 249 | 新明野 |
| 16 | 長円寺石仏 | 55 | 花水 | 94 | 天樹院石仏 | 133 | 蓮台野中世墓域ほか1 | 172 | 羽萱場 | 211 | 鶴渕 | 250 | 分田館跡 |
| 17 | 池之端館跡 | 56 | 中黒山 | 95 | 岩倉B | 134 | 大石沢製鉄 | 173 | 本田裏 | 212 | 江上板碑 | 251 | 内山王 |
| 18 | 橋場 | 57 | 松影A | 96 | 家の前 | 135 | 遠藤家石仏石塔群 | 174 | 町道上 | 213 | 中島家蔵の石仏 | 252 | 成田屋敷 |
| 19 | 九枚田 | 58 | 内島見C | 97 | 光円寺石仏 | 136 | 今板 | 175 | 村前 | 214 | 堀越館跡 | 253 | 大岡家蔵石仏群 |
| 20 | 鶴田 | 59 | 城山館跡 | 98 | 鳳林寺石仏 | 137 | 金鉢山石造遺物群 | 176 | 村前東A | 215 | 鴨深北 | 254 | 長崎（城跡） |
| 21 | 能化山の塚 | 60 | 寺ノ山 | 99 | 上一分石仏 | 138 | 金鉢山墓跡群 | 177 | 清水家石仏 | 216 | 狐塚 | 255 | 細池寺道 |
| 22 | 下中ノ目館跡 | 61 | 下前川原 | 100 | 中山家石仏 | 139 | 薬師堂石仏 | 178 | 柄目木 | 217 | 鴨深甲 | 256 | 盛岩寺石仏 |
| 23 | 下中ノ目石仏 | 62 | 森下古銭出土地 | 101 | 滝沢屋敷跡 | 140 | 村杉製鉄 | 179 | 山口 | 218 | 寺社家浦B | 257 | 尻池の塚 |
| 24 | 法正館跡 | 63 | 大淵 | 102 | 諏訪社石仏群 | 141 | 村杉石仏 | 180 | 下ノ橋館跡 | 219 | 大坪 | 258 | 愛宕澤 |
| 25 | 乙次館跡 | 64 | 細山石仏 | 103 | 笹岡城跡 | 142 | 村杉城跡 | 181 | 紺野 | 220 | 六九 | 259 | 大関館跡 |
| 26 | 則持石仏群 | 65 | 城山 | 104 | 中ノ沢 | 143 | 篭田の観音様脇石仏 | 182 | 藤の木 | 221 | 六九塚群 | 260 | 下条館跡 |
| 27 | 細田 | 66 | 居附A | 105 | 狼沢 | 144 | 篭田臼井家の石仏 | 183 | 諏訪神社 | 222 | 法塔場塚 | 261 | 船越古銭その1 |
| 28 | 吉浦石仏 | 67 | 横越館跡 | 106 | 狼沢中世窯跡 | 145 | 唐着 | 184 | 山口野中 | 223 | 横峯経塚 | 262 | 船越古銭その2 |
| 29 | 志村屋敷館跡 | 68 | 居屋敷跡 | 107 | 堤上窯跡 | 146 | 十ヶ袋 | 185 | 三辺稲荷 | 224 | 山本新家浦 | 263 | 丸田石仏群 |
| 30 | 竹俣万代 | 69 | 寺島 | 108 | 兎沢中世窯跡 | 147 | 水原館跡 | 186 | 七島館跡 | 225 | 手代山砦跡 | 264 | 桑山石仏 |
| 31 | 竹俣万代墓地石塔 | 70 | 長馬館跡 | 109 | 背中炙窯跡 | 148 | 斉藤家の石仏 | 187 | カナクラ様 | 226 | 源直屋敷跡 | 265 | 高山石造物群 |
| 32 | 加冶万代館跡 | 71 | 里飯野石仏 | 110 | 法華山出土石造遺物群 | 149 | 外城庚申塚 | 188 | 小河原 | 227 | 滝山 | 266 | 六野瀬 |
| 33 | 万代新田石仏群 | 72 | 上堀田石仏C | 111 | 権兵衛沢石仏 | 150 | 四ツ橋長者屋敷 | 189 | 嘉瀬島諏訪神社 | 228 | 字見屋敷跡 | 267 | 蕪木 |
| 34 | 大坪 | 73 | 上堀田石仏B | 112 | 権兵衛沢窯跡 | 151 | 長福寺石仏 | 190 | 中潟神明宮の石仏 | 229 | 物見山砦跡 | | |
| 35 | 福島 | 74 | 上堀田石仏A | 113 | 堀切沢 | 152 | 長楽寺の石仏 | 191 | 中潟の観音様石仏 | 230 | 宮ノ越 | | |
| 36 | 屋敷付塚 | 75 | 腰廻 | 114 | 山ノ神石仏 | 153 | 吉田家蔵 | 192 | 天神林の石仏 | 231 | 庚申様石仏 | | |
| 37 | 上曽根 | 76 | 上高関 | 115 | 高徳寺石造遺物群 | 154 | 雙善寺 | 193 | 新町 | 232 | 門前 | | |
| 38 | 三ツ椚A石仏 | 77 | 旭塚製鉄 | 116 | 磐栄川神社石仏 | 155 | 七面堂 | 194 | 石船戸東 | 233 | 孝順寺石仏群 | | |
| 39 | 三ツ椚B石仏 | 78 | 徳昌寺前 | 117 | 山崎家石仏 | 156 | 西福寺石仏群 | 195 | 久祢添の庚申様 | 234 | 安田城跡 | | |

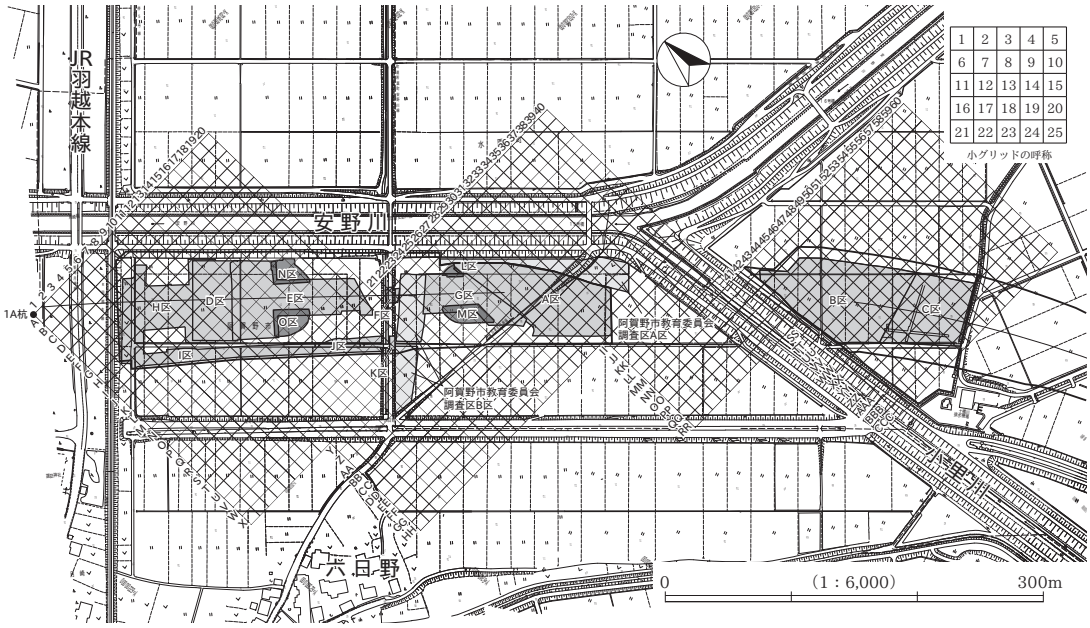
**第 2 表　周辺の中世遺跡一覧**（第 278 集『境塚遺跡Ⅲ』から転載）

# 第Ⅲ章　調 査 の 概 要

## 1　グリッドの設定

グリッドの設定は、2009 年度に設定したものを踏襲した（第 8 図）。グリッドの方向は真北を基準に設定し、国家座標の X 座標 =203340.000（北緯 37 度 49 分 49.23542 秒）[1)]、Y 座標 =62300.000（東経 139 度 12 分 27.87838 秒）[1)] を基点（1A 杭）[2)] とし、南北・東西それぞれ 10m の方眼を組み、大グリッドとした。なお、座標値は 2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（気象庁）」に伴う地殻変動の影響により、地震の前後で値に変動が生じた。地震後の 1A 杭の座標値は X 座標 =203339.784（北緯 37 度 49 分 49.22816 秒）、Y 座標 =62301.0296（東経 139 度 12 分 27.92042 秒）である。

大グリッドの呼称は、遺跡を覆う方眼を西から東に向けて算用数字（1・2・3…）、北から南へ向けてアルファベット（A・B・C…）を付し、これを組み合わせた。両者の組み合わせにより「16K」「25X」のように表示した。小グリッドは大グリッドの中を 2m 四方に 25 分割した。小グリッドには 1 ～ 25 の番号を付し、北西隅を 1、南東隅を 25 となるように配列した。グリッドは大グリッドと小グリッドを組み合わせ、「16K2」「25X25」のように表記した。遺構の検出位置および、包含層出土遺物の地点などは、基本的に大グリッドと小グリッドを組み合わせて記録した。なお、本発掘調査区と阿賀野市教育委員会の調査区とはグリッド設定・呼称を統一している。

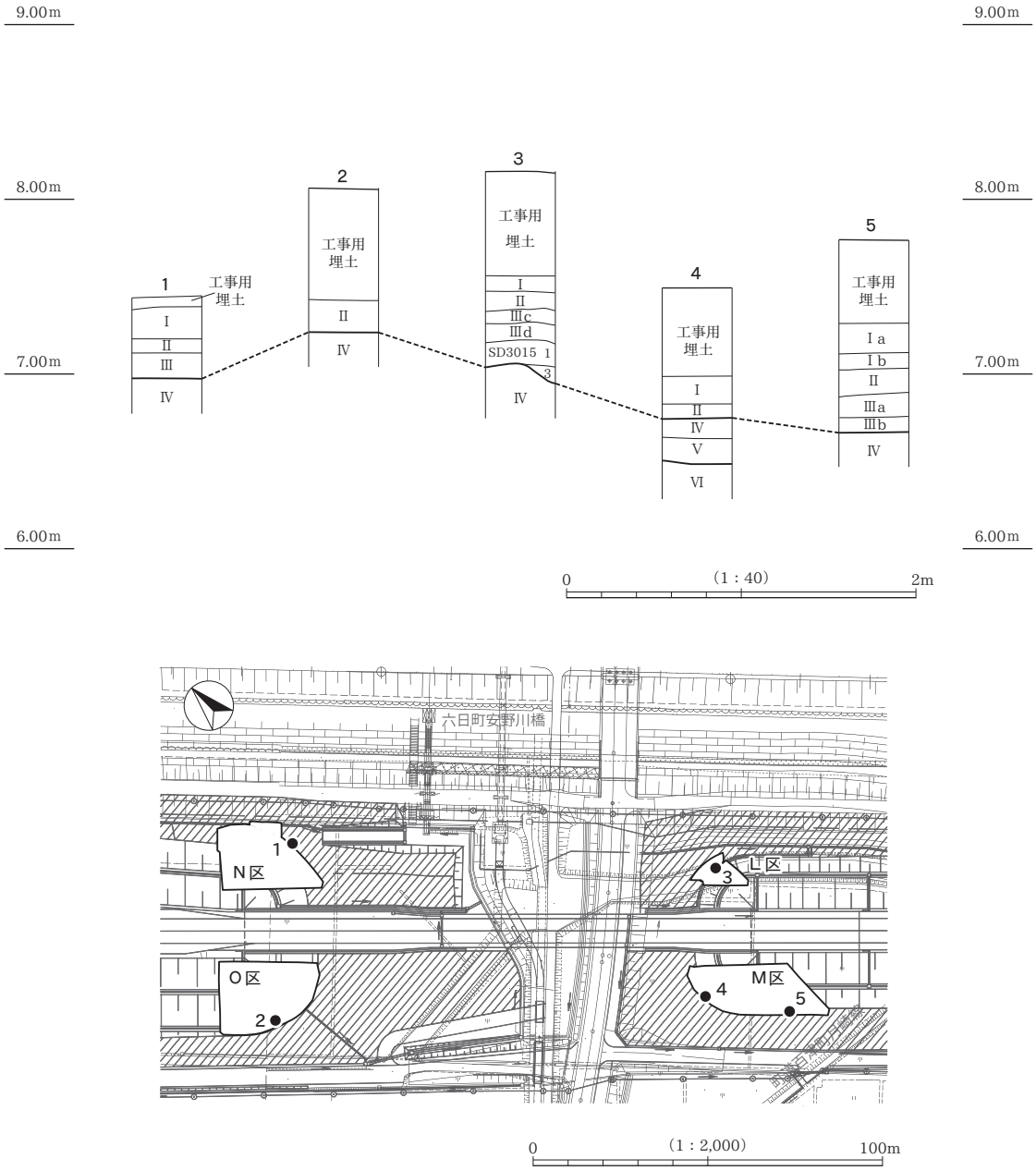



第 8 図　グリッド設定と調査区

1）『境塚遺跡』［荒川ほか 2012］・『境塚遺跡Ⅱ』［荒川ほか 2016］報告の経緯度は間違いである。本報告の数値に訂正する。
2）『境塚遺跡』『境塚遺跡Ⅱ』『境塚遺跡Ⅲ』の各報告書における「基点（A0 杭）」は誤表記で、「基点（1A 杭）」に改める。

## 2　層　　序

遺跡は旧阿賀野川右岸の自然堤防上に立地する。現況は工事用の埋土で覆われており、以前の状態は、水田であった。調査区は昭和初期の耕地整理・開田によって遺物包含層が削平されており、耕作面直下が遺構検出面となる範囲が多い。基本層序は2014年度調査［荒川ほか2016］に準じてⅠ～Ⅵ層に分層した（第９図）。遺構面は、上層・古代中世（Ⅳ層）、中層・古墳時代（Ⅵ層）、下層・縄文時代晩期（Ⅶ層）の３面に存在することが明らかになっている［荒川ほか2012、2016］。今回の調査区では、遺跡全体に広がっていた上層面と、Ｍ区北側で検出した中層面の調査を行った。




第９図　基本層序柱状図と位置図

Ⅰ層　表土・耕作土。M 区南側で 2 層に細分され、Ⅰa 層・灰色シルト（N5/）は現代の耕作土、Ⅰb 層・褐灰色シルト（10YR4/1）は現代の圃場整備時における盛土である。

Ⅱ層　黄灰色シルト（2.5Y5/1）炭化物を微量含む。M 区においては褐灰色シルト（10YR5/1）となり、スコリアらしき層を含む。近世以降～昭和以前の耕作土と考えられる。

Ⅲ層　褐灰色シルト（10YR4/1）を主体とする層である。L・M 区では 2 層に細分できる。M 区ではⅢa 層（褐灰色シルト 10YR4/1）とⅢb 層（灰黄色シルト 2.5Y6/2）の 2 層に、L 区ではグライ化が進むためか、M 区と若干色調が異なりⅢc 層（灰黄褐色シルト 10YR6/2）とⅢd 層（褐灰シルト 7.5YR5/1）の 2 層に細分した。総じて中世の遺物包含層と考える。

Ⅳ層　黄褐色シルト（10YR5/6）を主体とする層である。Ⅳ層上面は、2019 年度調査区での中世の遺構検出面となっている。

Ⅴ層　黄褐色シルト（10YR5/6）を主体とする層である。M 区北側では多くの古墳時代の土師器が確認されており、古墳時代の遺物包含層と考えられる。

Ⅵ層　黄灰シルト（10YR6/1）を主体とする層である。2014 年度調査では古墳時代の遺構検出面の可能性を示唆していたが、今回の調査でⅥ層上面が古墳時代の遺構検出面であることが確認できた。

# 第Ⅳ章　遺　　構

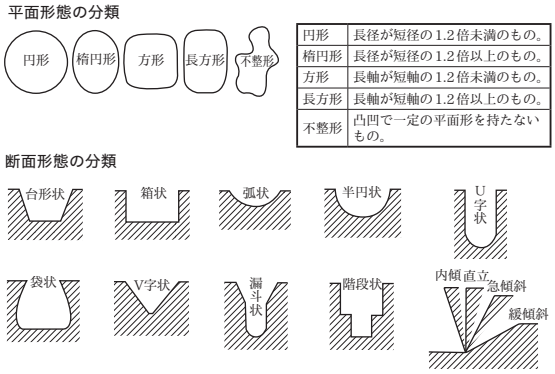
## 1　記述の方法と遺構の分類

### A　基　本　方　針

遺構の説明は、本文（遺構各説）・観察表・図面図版・写真図版を用いた。すべての遺構について種別・グリッド・出土遺物・規模等を記載した観察表を作成した。遺構の平面形態及び計測値は、遺構検出面での数値である。特に重要と思われる遺構について、本文・図面図版・写真図版での解説を加えた。写真図版は選択して掲載した。遺構各説は、基本的に下記の種別（SB → SE → SK → SD → P）、遺構番号（小→大）の順で記述した。土層の色調は『新版　標準土色帖』［小山・竹原 1998］に拠った。

### B　遺構の表記方法

遺構名は、遺構種別の略号と数字の組み合わせとした。遺構種別の略号は、掘立柱建物を「SB」、井戸を「SE」、土坑を「SK」、溝を「SD」、ピットを「P」とした。遺構番号（算用数字）は、時代・グリッド・種別に関係なくすべて検出順の通し番号とし、遺構種別の後ろに番号を付した。過年度調査との番号の重複を避けるため、2019 年度調査は 6001 番から 6247 番を使用した。掘立柱建物も認識された時点で同様に番号を付したが、個々の柱穴の遺構名はそのままとした。なお、N 区拡張区で検出された井戸（SE6006）以外の遺構は、今年度調査で掘削対象外とされたことから、別個に（1）～（11）の仮番号を付し、図版 10 及び遺構観察表に記載した。



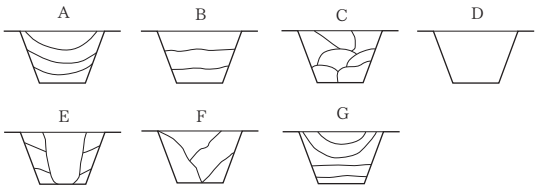

| | |
|---|---|
| 円形 | 長径が短径の 1.2 倍未満のもの。 |
| 楕円形 | 長径が短径の 1.2 倍以上のもの。 |
| 方形 | 長軸が短軸の 1.2 倍未満のもの。 |
| 長方形 | 長軸が短軸の 1.2 倍以上のもの。 |
| 不整形 | 凸凹で一定の平面形を持たないもの。 |

| | |
|---|---|
| 台形状 | 底部に平坦面を持ち、緩やか～急斜度に立ち上がるもの。 |
| 箱状 | 底部に平坦面を持ち、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 弧状 | 底部に平坦面を持たない弧状で、緩やかに立ち上がるもの。 |
| 半円状 | 底部に平坦面を持たない椀状で、急斜度に立ち上がるもの。 |
| U字状 | 検出面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの。 |
| 袋状 | 検出面の径よりも底部の径が大きく、内傾した後に垂直ないし外傾して立ち上がるもの。 |
| V字状 | 点的な底部を持ち、急斜度に立ち上がるもの。 |
| 漏斗状 | 下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの。 |
| 階段状 | 階段状の立ち上がりを持つもの。 |

**第 10 図　遺構の平面・断面形態の分類**［加藤 1999］

### C　遺構の形態分類

遺構の平面形態及び断面形態は［加藤 1999］の分類基準、埋土の堆積状況の分類基準は［荒川 2004］に準拠した（第 10・11 図）。平面形の規模は主軸方向を考慮して計っているが、部分的に極端な張り出しがある場合は、全体の形状を考慮して、残存率が高い位置で計測している。短径は基本的に長径と直交する方向の最長部で計測した。深度（深さ）は遺構検出面からの最深部を計




| | |
|---|---|
| A　レンズ状 | 複数層がレンズ状に堆積する。 |
| B　水平 | 複数層が水平に堆積する。 |
| C　ブロック状 | ブロック状に堆積する。 |
| D　単層 | 覆土が単一層のもの。 |
| E　柱痕 | 柱痕と思われる土層が堆積するもの。 |
| F　斜位 | 斜めに堆積するもの。 |
| G　水平－レンズ | 覆土下位は水平に、上位はレンズ状に堆積するもの。 |

**第 11 図　遺構覆土の堆積形状の分類**［荒川 2004］

測した。井戸と土坑の分類については、規模及び埋土堆積状況や遺物出土状況を考慮して判断した。主軸方向は遺構の長軸を基準に真北から東西に傾く角度を測定し、「N-10°-E」のように表記した。

重複関係は「<」・「>」・「=」・「≠」の記号を用い、観察表に記した。記号の内容は「<P1」とは、P1に切られ、「>P1」とはP1を切っていることを示し、「=P1」はP1と同時期、「≠P1」はP1と重複関係にあるが、新旧が不明なことを示す。

### D 掘立柱建物

柱穴（ピット）が方形または長方形に一定の間隔で並ぶものを掘立柱建物とした。柱間の多い方向を「桁行・桁間」（長軸）、少ない方向を「梁行・梁間」（短軸）とした。規模および床面積の値を本文及び観察表に示したが、桁行長・梁行長は最大値とし、床面積はその乗算値とした。軸方位は、主軸長の方向について真北を基準として東西に傾く角度を計測した。

## 2 概　　要

### 遺構・遺物の検出状況

今回の調査において遺構は、調査区のほぼ全域で検出したが、一部N区南側およびO区北側で若干の遺構密度の希薄な一帯も確認できた。検出した遺構の大半は、Ⅳ層上面（中世以降）で検出した。内訳を調査区別にみると、L区では土坑1基、溝2条、ピット4基、M区では掘立柱建物4棟、土坑13基、溝14条、ピット99基（掘立柱建物の柱穴も含む）、N区では掘立柱建物3棟、井戸1基、土坑6基、溝3条、ピット87基、O区では溝8条、ピット5基である。このうちM区の土坑2基、溝1条、ピット2基はⅥ層上面で検出できたことから古墳時代の所産と考えられる。

古代遺構の遺物は全体的に包含層のものも含めて少量であった。古墳時代の遺物はM区23・24X・Yグリッドの V 層およびSK6231・SD6232から比較的多く出土した。また、N区の中世の井戸SE6006から曲物を利用した水溜（71）とそれを固定するための杭（70）が出土した。

### A L区の遺構

#### a 土　　坑（SK）

**SK6001**（図版4・23）

26W4グリッドに位置する。平面は円形で、断面は台形状を呈する。埋土は単層で、径10～20mmほどの大きさの地山ブロックを多量に含むことから、人為的に埋め戻された可能性が高い。

#### b 溝（SD）

**SD3015**（図版4・24）

26Vグリッドに位置する。2014年度調査G区のSD3015と同一遺構と判断したため、同一番号を付して調査を行った。また、M区SD6167および、阿賀野市調査A区のA2-117とも繋がると思われる。この溝の構築時期について、阿賀野市調査区では時期不明、県調査区（G区）では近世以降と判断されている。特徴的な形態として、両岸にテラス状の高まりを持っている。埋土はレンズ状に4層堆積しており、その状況から2時期にかけて埋まっていったものと推測できる。出土遺物は、26V1層から瀬戸・美濃焼

（30）、青磁（31 ～ 33）等の陶磁器が出土し、近世以降の遺物は出土しなかった。

**SD3025**（図版 4・24）

26V グリッドに位置する。2014 年度調査 G 区の SD3025 と同一遺構と判断したため、同一番号を付して調査を行った。埋土はレンズ状に 4 層堆積しており、その状況から SD3015 と同じく、2 時期にかけて埋まっていったものと推測できる。出土遺物は土師質土器が 2 層から出土した。

## B　M 区の遺構

### 1）古墳時代の遺構

#### a　土　　坑（SK）

土坑は 2 基検出した。土坑内及び土坑周辺の包含層からも多量の古墳時代の土師器壺、高杯、鉢、有孔鉢、甕が出土した。

**SK6227**（図版 3・21・22）

23X14・15・19・20、24X16 グリッドに位置する。西側が調査区外で不明だが、平面形は主軸方位 N-72°-W の長方形に近い形状と考えられる。東側は深さ 5cm 程だが、西側は 1 段落ち込み、深さは 51cm となる。埋土は灰黄色シルトを主体とし、落ち込み部のみ 2 層に分層できたが、2 層からの遺物の出土はなかった。遺物は SK6231・SD6232 出土遺物と接合し、1 層出土の土師器壺（1・2）の 2 点を図化した。

**SK6231**（図版 3・21 ～ 23）

23Y15・20、24Y11・16 グリッドに位置し、西側が調査区外となる。SD6232 と一部重複し、これより古い。主軸方位は N-74°-E で、平面形は不整形を呈し、断面形は台形状で、深さは約 15cm である。西側半分は現代の攪乱を受けていたが、残存する埋土は灰色シルトを主体とし、2 層に分層できる。調査区全体の遺物分布状況でもこの遺構内外に遺物が集中することから、竪穴住居の可能性も考えたが、柱穴や明確な掘り込みが認められないことから土坑と判断した。遺物は埋土 1 層から土師器が多量に出土し、その中から壺（1・2）、器台か鉢の脚部（3・4）、鉢（5・6）、有孔鉢（7）、甕（8 ～ 16）の 15 点を図化した。

#### b　溝状遺構（SD）・ピット（P）

溝状遺構 1 基、ピット 2 基を検出した。溝状遺構 SD6232 の出土遺物は、SK6227・6231 の出土遺物と接合が確認されていることから、周溝の可能性も考えられる。

**SD6232**（図版 3・22・23）

24Y12 グリッドを中心に位置し、平面形は帯状の不整形で深さも浅く、南側は後世の地形改変で削られて形態が不明となる。遺物の出土状況や断面形態から溝状遺構とした。中世の遺構 SD6168、P6183・6199・6215・6218・6230・6245 に切られている。SK6231、P6246 と重複しこれより新しい。主軸方位は N-38°-E で、断面形は弧状を呈し、深さは 20cm である。埋土は灰白色シルトの単層で、土師器が多量に出土した。SD6232 内に P6246 が、東側に近接して P6247 が検出され、ピットを結ぶラインは、SD6168 の主軸方位に直交することから関連する遺構の可能性が考えられる。遺物は土師器の器台（18）、壺（1・2・19）、甕（20）の 4 点を図化した。

## 2）中世以降の遺構

### a 掘立柱建物（SB）

上層では掘立柱建物を４棟検出した。すべて側柱建物になる。SB6145 は西側が調査区外に続いていて、全容は不明である。SB6248 は 2014 年度調査 G 区のピット群に繋がる可能性がある。G 区の調査では、SD3015（M 区 SD6167）以東で検出された遺構は、埋土が灰色系のシルトを主体とする点が共通する。近世以降の遺物が多数出土するものが多く、また直線状の溝は明治時代の土地更正図と一致するものが認められる。よって近世以降の遺構である可能性が高いと判断され、平面形状の記録のみで調査を終了している。M 区で検出した遺構も時代が降る可能性はあるが、ピット内から近世以降に属する遺物が出土しないこと、SD3015 以西で検出した掘立柱建物（SB6145・6249）と主軸方位や柱穴で共通性が認められることから、今回は調査対象とした。ピット内からの出土遺物は、SB6249 の P6197 から瀬戸・美濃焼片が１点出土した。その他に明確な時期を特定できる遺物の出土はない。掘立柱建物の重複があるので少なくとも２時期の変遷が考えられる。

**SB6138**（図版 6・24・25）

24・25Y・Z グリッドに位置する。主軸方位の異なる SB6248 の建物範囲と重複するが新旧関係は不明である。梁間１間、桁行３間の側柱建物で、P6148 と P6123 のほぼ中間に P6122 が位置するので、建物を構成する柱穴と判断した。梁行長 4.03m、桁行長 7.67m、梁間柱間長 4.03m、桁間柱間長 2.25 ～ 3.32m、面積 30.91m$^2$、主軸方位は N-68°-W である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はＵ字状または階段状を呈し、径 29 ～ 45cm、深さは 26 ～ 46cm である。

**SB6145**（図版 6・25・26）

24X・Y グリッドに位置する。SB6249 と建物範囲が重複し、P6215（SB6145）と P6218（SB6249）の新旧関係から SB6249 より古い。梁間１間、桁行３間以上の側柱建物で、梁行長 4.83m、桁行長 5.80m、梁間柱間長 4.83m、桁間柱間長 1.67 ～ 2.54m、面積 28.01m$^2$ 以上、主軸方位は N-77°-W である。桁行は西側調査区外に続く可能性がある。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は半円またはＵ字状、階段状を呈し、径 27 ～ 57cm、深さは９～ 53cm である。遺物は P6218・6230 から古墳時代の土器が出土しているが混入である。

**SB6248**（図版 7・25・26）

25Y グリッドに位置し、SB6138 と建物範囲が重複するが新旧関係は不明である。北東側が過年度調査で不明だが、梁間２間、桁行２間以上の側柱建物と考えられる。梁行長 3.56m、桁行長 3.29m、梁間柱間長 1.46 ～ 2.05m、桁間柱間長 1.43 ～ 1.90m、面積 11.71m$^2$ 以上、主軸方位は N-80°-E である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面は半円またはＵ字状を呈し、径 28 ～ 37cm、深さは 15 ～ 51cm である。遺物は P6166 から時期・種別不明の鉄製品が出土した。

**SB6249**（図版 7・25・26）

24X・Y グリッドに位置する。梁間１間、桁行３間の側柱建物と考えられる。柱筋から南西隅柱を検出できなかったが、SB6145 の P6182 と共有する可能性がある。SB6145 の建物範囲と重複するが、前述のとおり SB6145 より新しい。梁行長 3.78m、桁行長 5.98m、梁間柱間長 3.78 ～ 4.32m、桁間柱間長 1.74 ～ 2.22m、面積 22.60m$^2$、主軸方位は N-72°-W である。柱穴は平面が円形または楕円形、断面はＵ字状または階段状を呈し、径 30 ～ 48cm、深さは 18 ～ 43cm である。遺物は P6197 の埋土１層

から瀬戸・美濃焼片（34）が１点出土した。

### b　土　　坑（SK）

土坑は９基検出した。９基のうち６基は掘立柱建物に近接もしくは重複して検出されている。土坑も掘立柱建物と同様に、重複関係から少なくとも２時期の変遷が考えられる。遺物は、押印のある瓷器系陶器壺、古墳時代の土師器が出土している。

**SK6095**（図版８・27）

23Y4・5グリッドに位置する。SD6191、SK6189と重複し、これより新しい。西側半分が調査区外となる。SB6145に近接し、平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは70cmである。主軸方位はN-31°-Eである。調査区西壁面で観察した埋土は５層に分層でき、全体にシルト質で、炭化物を少量含む黄褐色シルトを主体とするが、４層は黒褐色シルトとなる。

**SK6139**（図版８・27）

24Y15、25Y11グリッドに位置する。SD6167、SB6248のP6166と重複し、これより新しい。平面形は円形を呈し、断面形は弧状で、深さは25cmである。主軸方位はN-48°-Eである。埋土は褐灰色シルトで、２層に分層できる。

**SK6147**（図版８・27）

24Z4グリッド、SB6138の南隅に近接する。SD6113とほぼ重複するが、これより古い。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは25cmである。主軸方位はN-12°-Eである。埋土は黄褐色シルトを主体とし、２層に分層できる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが混入である。

**SK6163**（図版８・27）

調査区南東隅の25AA9グリッドに位置する。東側1/3が、2014年度調査区に位置するが、検出されていない。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは32cmである。主軸方位はN-6°-Eである。埋土はマンガン粒子を含む黄灰色粘土で、２層に分層できる。

**SK6189**（図版８）

23Y5・9・10グリッドに位置する。SK6095より古く、SD6187・6191より新しい。平面形は不整形を呈し、断面形は弧状で、深さは23cmである。主軸方位はN-6°-Eである。

**SK6201**（図版８・27）

24Y9グリッドに位置し、SB6249の東側梁間に近接する。SK6202と重複し、これより新しい。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは23cmである。主軸方位はN-9°-Eで、単層の埋土は炭化物を少量含む褐色シルトである。

**SK6202**（図版８・27）

24Y9・14グリッドに位置し、SK6201より古い。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは28cmである。主軸方位はN-39°-Wである。埋土は黄褐色シルト、褐色シルトの２層に分層できる。

**SK6207**（図版８・28）

23X20・24・25グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、断面形は弧状で、深さは15cmである。主軸方位はN-41°-Eである。埋土は褐灰色シルト、灰黄色シルトの２層に分層できる。

**SK6213**（図版８・28）

24Y13・14・18・19グリッドに位置し、SB6145の建物範囲と重複するが、SB6145との新旧関係

は不明である。P6220 より新しい。平面形は楕円形を呈し、断面形は弧状で、深さは 17cm である。主軸方位は N-28°-E で、東側に隣接する SD3015 の主軸方行とほぼ同じである。埋土は暗褐色シルト、灰黄褐色シルトの 2 層に分層でき、炭化物を少量含む。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが混入である。

**SK6223**（図版 8・28）

24Y10 グリッド、SB6249 の東側に位置する。SD6167 と重複し、これより新しい。平面形は円形を呈し、断面形は弧状で、深さは 14cm である。主軸方位は N-63°-W である。埋土は黄褐色シルトを主体とし、2 層に分層できる。土坑底面からは押印のある瓷器系陶器壺（35）が出土した。

### c　溝（SD）

溝は 14 条検出した。北東から南西方向、主軸方位 N-22°～ 29°-E の範囲の溝が 4 条、その溝に直交もしくは L 字状、コの字状を呈す溝が 9 条である。全体が方形区画の溝は、他の調査区にも認められる。ほとんどの溝が 2014 年度調査 G 区の溝と繋がる。現代の溝である SD3007 と主軸方向がほぼ同じ（平行・直交）溝が多いが、それは平坦な地形の勾配に規制された場所に溝が構築された結果と考える。遺物は、土師質土器、珠洲焼、鉄製品、古墳時代の土師器が出土した。

**SD6111**（図版 5・9・28）

24・25Z グリッドに位置する。一辺の長さ約 2.5m、現状ではコの字状を呈する溝で、南西側が調査区外に続いている。SD6132、P6185・6214 と重複し、これより古い。断面形は弧状で、深さは 6 ～ 8cm である。主軸方位は、東西 N-76°-W、南北 N-21°-E である。埋土は単層で、粘性の強い灰色粘土である。

**SD6113**（図版 5・9・28・29）

2014 年度調査 G 区で検出された溝の延長で、24・25・26Zグリッドを東西方向に延びる。重複する SD6167、P6133 より古く、SD6177、SK6147 より新しい。断面形は弧状で、深さは 9 ～ 16cm である。主軸方位は N-71°-W である。埋土は単層で、粘性としまりの強い褐灰色シルトである。

**SD6114**（図版 5・9・28）

25Z・AA グリッドを東西方向に延び、西側は調査区外に続く直線状の溝である。重複する P6135 より古く、P6174 より新しい。断面形は V 字状で、深さは 11 ～ 50cm である。主軸方位は N-73°-W である。埋土は 3 層に分層でき、灰白色シルト、灰色シルトに分かれる。2014 年度調査 G 区の検出状況から SD6132・6164 と同一溝または関連する溝の可能性がある。

**SD6115**（図版 5・9・29）

25Z グリッドに位置する。北から南方向に延び、南端で西に屈曲して調査区外に続く逆 L 字状の溝である。北側が SD6132 に切られ、平行・直交の関係にあることから、一連の溝の可能性もある。断面形は弧状で、深さは 18 ～ 25cm である。主軸方位は N-12°-E である。埋土は 2 層に分層でき、粘性の強い灰色粘土、灰色シルトに分かれる。

**SD6132**（図版 5・9・29）

2014 年度調査 G 区で検出された溝（遺構番号なし）の延長で、24・25Z グリッドを東から西方向に延びる。25Z11 グリッドで南側に直角に曲がり、24Z10 グリッドで調査区外に続く。SD6111・6113・6115・6177 と重複し、これより新しい。断面形は V 字状で、深さは 12 ～ 40cm である。主軸方位は

東西方向 N-75°-W、南北方向 N-21°-E である。埋土は 2 層に分層でき、粘性の強い灰色粘土、灰白色シルトに分かれる。SD6114・6164 と一連の溝で、全体形状が長方形状を呈する可能性がある。

**SD6164**（図版 5・9・29）

25･26AA グリッドに位置する。南西から北東に直線状に延びる溝で調査区外に続く。断面形は弧状で、深さは 12 ～ 40cm である。主軸方位は N-25°-E である。埋土は 2 層に分層でき、褐色シルト、黄橙色シルトに分かれる。SD6114・6132 と一連の溝の可能性がある。

**SD6167**（図版 5・9・29）

2014 年度調査 G 区で検出された溝(SD3015)の延長で、24Y・Z グリッドを南北方向に直線状に延びる。南側は調査区外に続く。重複する SK6139・6223、P6103・6106・6117・6119・6120・6170・6172 より古く、SD6113、P6169・6179・6221 より新しい。断面形は台形状で、深さは 12 ～ 40cm である。主軸方位は N-29°-E である。埋土は単層で黄灰色シルトとなる。遺物は珠洲焼及び古墳時代の土師器が出土している。昭和初期の土地更正図と照合すると大字前山と大字百津の字境に位置する、近世の溝の可能性もあるが、今回は L 区も含めて中世以前の遺物しか検出されていない。

**SD6177**（図版 5・9・29）

2014 年度調査 G 区検出溝の延長で、25Y・Z グリッドを北東から南西方向に直線状に延びる。重複する SD6113・6132、P6157 より古く、P6152 より新しい。断面形は弧状で、深さは 8 ～ 18cm である。主軸方位は N-22°-E である。埋土は 2 層に分層でき、褐灰色シルト、黄橙色シルトに分かれる。SD6167 と並行関係にあり、主軸方向が同じ SB6138 がこの両溝の間に収まる。

**SD6186**（図版 5・9・29）

23・24X・Y グリッドに位置する。西側は調査区外に続き、現状ではコの字状の溝である。重複する SD6187、P6228・6245 より新しく、SD3007、P6178 より古い。断面形は台形状で、深さは 17 ～ 41cm である。主軸方位は東西 N-76°-W、南北 N-17°-E である。埋土は 4 層に分層でき、にぶい黄褐色シルト、灰黄褐色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが、混入である。

**SD6187**（図版 5・9・30）

23Y、24X・Y グリッドに位置する。東西方向に直線状に延びる溝で、重複する SK6095、SD3007・6186 より古く、P6217 より新しい。断面形は弧状で、深さは 12 ～ 40cm である。主軸方位は N-83°-E である。埋土は場所により違いが見受けられ、単層から 3 層に分層され、灰黄褐色シルト、にぶい黄褐色シルト、灰黄色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器、時期・種別不明の鉄製品が出土した。土師器有孔鉢（17）は混入である。

**SD6191**（図版 5・8）

23Y、23・24X グリッドに位置する。南東側を現代溝 SD3007 に切られ、重複する SK6095・6189、SD6186 より古く、SD6187・6209 より新しい。断面形は弧状と推察される。深さは 3 ～ 24cm で、主軸方位は N-32°-E である。埋土は、大部分を SD3007 に切られているため詳細は不明である。

**SD6209**（図版 5・9・30）

23・24X グリッドに位置する。東西方向に直線状に延びる溝で、SD6186 と並行する。SD3007・6191 と直交して重複しこれより古いが、SD3007 を越えた位置では検出されなかった。断面形は弧状で、深さは 5 ～ 11cm、主軸方位は N-67°-W である。埋土は 2 層に分層でき、褐灰色シルト、灰黄色シルトに分かれる。遺物は古墳時代の土師器が出土しているが、混入である。

## C N 区 の 遺 構

### a 掘 立 柱 建 物（SB）

**SB6025**（図版 12・30・31）

16・17L グリッドに位置する梁間 2 間、桁行 3 間の側柱建物である。10 基の柱穴で構成され、平面形は梁行の中央がやや外側に張り出す胴張形で、主軸方向は N-60°-W、床面積は 10.81m² である。梁間柱間長は 0.94 ～ 1.61m、桁行柱間長は 1.19 ～ 1.56m である。柱穴の形状は平面が円形または長方形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.25 ～ 0.47m、深さ 0.11 ～ 0.51m である。柱穴の内、7 基で柱痕を確認した（P6026・6042・6068・6072・6076・6084・6087）。埋土の色調は、柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。一方で地山との区別が不明瞭なものもあった。また、埋土の堆積状況から P6087 は柱の切取り、P6042・6072 は柱の抜取りが行われたと想定できる。遺物は P6042 の掘形から土師質土器片が 1 点出土した。SB6035 の建物範囲と重複するが、新旧関係は不明である。また、北東に位置する SB6059 と主軸が平行関係にあり、南東側の梁間は SB6059 の北西側梁間のラインとほぼ一致する。

**SB6035**（図版 13・30・31）

16・17L グリッドに位置する梁間 1 間、桁行 3 間の側柱建物である。8 基の柱穴で構成され、床面積は 32.96m²、主軸方向は N-39°-E である。梁間柱間長は 3.60 ～ 3.72m、桁行柱間長は 1.98 ～ 3.51m である。北東側桁行の柱間が他よりも狭く、廂が付属したか、または間仕切であった可能性がある。柱穴の形状は平面が円形または楕円形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.34 ～ 0.56m、深さ 0.41 ～ 0.68m である。柱穴の内、6 基で柱痕を確認した（P6036・6037・6046・6048・6049・6071）。埋土の色調は、柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。また、埋土の堆積状況から、P6048 は柱を切取ったと想定できる。P6040・6047・6093 と重複し、P6040・6093 より新しく、P6047 より古い。遺物は P6070 の 1 層から土師質土器皿（42）、P6046 の 3 層から土師質土器片 1 点、P6049 の 1 層から土師質土器片 2 点が出土した。主軸方向がほぼ直交する SB6025・6059 の建物範囲と重複するが、新旧関係は不明である。SB6059 とは P6071 を共有するが、P6071 内で切り合いを確認できなかった。

**SB6059**（図版 12・30 ～ 32）

17L グリッドに位置する梁間 2 間、桁行 2 間の側柱建物である。8 基の柱穴で構成され、床面積は 11.68m²、主軸方向は N-58°-W である。梁間柱間長は 1.76 ～ 2.20m、桁行柱間長は 1.12 ～ 1.72m である。柱穴の形状は平面が円形、断面は U 字状または半円状である。規模は長径 0.24 ～ 0.43m、深さ 0.12 ～ 0.42m である。柱穴の内、7 基で柱痕を確認した（P6050・6060・6061・6064・6071・6088・6089）。埋土の色調は柱痕が褐灰色～灰黄褐色で、掘形が地山ブロックを含む黄褐色系の組み合わせが多い。一方で地山との区別が不明瞭なものもあった。また、埋土の堆積状況から P6089 は柱を切取ったと想定できる。遺物は P6063 の 1 層から土師質土器片が 1 点出土した。SB6035 と建物範囲が重複するが、新旧関係は不明である。南側に位置する SB6025 は主軸方向を同じくし、建物の規模もほぼ同じであることから同時期に存在した可能性がある。SB6035 とは P6071 を共有するが、P6071 内で切り合いを確認できなかった。

### b　井　　戸（SE）

**SE6006**（図版 14・21・32・34）

17L20・25、18L11・16・21 グリッドに位置する。SD3066・P6233・P6234 と重複し、これらの遺構より古い。主軸方向は N-29°-W である。形状は平面隅丸方形、断面漏斗状で、規模は長辺 288cm、短辺 245cm、深さ 220cm である。また、底面には水溜用の曲物（71）が設置されており、東壁面と曲物との隙間には固定用の木製杭（70）が打ち込まれている。埋土は、23 層に分層できる。1 ～ 14 層は黄褐色基調のシルトがレンズ状に堆積しており、自然堆積層と考えられる。11 層中で検出した扁平な自然礫は下部の水溜施設のほぼ中央に位置することから、井戸の廃棄行為に伴う礫の可能性がある。15・18・22 層は灰黄色基調の粘土層で、層の両側面（層境）は遺存する水溜施設とほぼ同じ幅で垂直に立ち上がる。また調査中にこの層境で埋土の剥離が認められた。よって、これらの層は井戸使用時の堆積層と考えられ、井戸の中層まで水溜施設が存在した可能性が高い。23 層は、灰黄色砂質シルトで、砂質の透水層から堆積したものと考えられる。16・17・19 ～ 21 層は、灰黄褐色基調の粘土と粘性の強いシルトが充填されており、水溜施設を据えるための裏込めの埋土と考えられる。出土遺物は、3・4 層から土師質土器小皿（43、44）、4 層から珠洲焼片口鉢（45）、8 層から砥石（66）、水溜施設内の 22 層から種子が出土している。21・22 層の層境に見られる階段状の痕跡は、水溜施設が複数の曲物によって構築された 2014 年度調査 E 区の SE3057 の検出状況［荒川 2012］が参考になる。曲物と曲物が上下に重ね合わされている部分の堆積と似ており、当井戸も最低 2 段の曲物を据えていたものと考えられる。

### c　土　　坑（SK）

**SK6008**（図版 14・33）

17L15 グリッドに位置する。平面は楕円形、断面は半円状である。主軸方位は N-7°-E である。埋土は 2 層に分層した。どちらも黒褐色シルトを主体とする。SD6007 の溝幅とほぼ一致するが、検出面で確認した切り合いから SK6008 が新しい。南西側に近接する SK6009 も同様に全体が SD6007 と重複することから、同じような性格をもった遺構の可能性がある。遺物は出土しなかった。

**SK6009**（図版 14・33）

17L14・15・19・20 グリッドに位置する。平面は楕円形、断面は半円状である。主軸方位は N-28°-E である。埋土は褐色シルトを主体とし、3 層に分層した。レンズ状に堆積し、2 ～ 3 層が底面に自然堆積したと考えられるのに対し、厚く堆積する 1 層は地山ブロックを多量に包含することから、人為的に埋め戻した可能性がある。SD6007 と主軸方向を同じくして重複し、SK6009 が新しい。同様な状況で検出した北東側の SK6008 と共通性がうかがえる。遺物は 1 層から青磁椀（46）が出土した。

**SK6010**（図版 14・33）

17M2・7 グリッドに位置する。平面は楕円形、断面は半円状で、主軸方位は N-41°-W である。埋土はレンズ状に堆積し、2 層に分層した。1 層が黒褐色シルト、2 層が暗褐色シルトである。遺物は出土しなかった。主軸方向が南東側の SD6007 とほぼ直交することから、同時期の可能性がある。

**SK6024**（図版 15・33）

17L24・25、17M4 グリッドに位置する。平面は方形、断面は孤状で、主軸方位は N-39°-W である。埋土はほぼ水平に堆積し、2 層に分層した。1・2 層ともに黄褐色シルトを主体とする。SK6096、

SD3066・6007、P6125・6126・6127・6128・6154・6155・6156 と重複し、SK6096、SD3066、P6125・6126・6127・6128・6154・6155・6156 より古く、SD6007 より新しい遺構である。平面形状や規模から土壙墓の可能性を考慮して調査したが、土層断面や底面に木棺等の痕跡を認めることは出来なかった。遺物の出土はない。

**SK6077**（図版 15・34）

17L8・9 グリッドに位置し、SB6035 の建物範囲と重複する。平面形は不整形な長方形、断面は台形状で、主軸方位は N-43°-E である。埋土はレンズ状に堆積し、2 層に分層した。1 層が黒褐色シルト、2 層が灰黄褐色シルトである。遺物は 1 層から鉄滓が少量出土した。

**SK6096**（図版 15・34）

17L24・25、17M4・5 グリッドに位置する。平面は方形、断面は半円状で、主軸方位は N-28°-E である。埋土は 3 層に分層した。1 層は暗褐色シルト、2・3 層は明黄褐色シルトである。1 層のみ土質が異なり、2・3 層を切るように堆積することから、掘り直された可能性がある。SK6024、SD3066 と重複し、SD3066 より古く、SK6024 より新しい。遺物は出土しなかった。SK6024 の南東側、長軸延長方向に位置することから、一連の遺構の可能性も考えたが、別遺構と判断した。また、遺構の中心が溝（SD3066）の中軸に位置する状況は SK6008・6009 と共通する。

### d　溝（SD）

**SD3066**（図版 10・14・15・34）

17・18L、17M グリッドに位置する。2014 年度調査で検出された SD3066 の延長と想定されることから、同じ番号を付して調査を行った。また、O 区で検出した SD6051 または SD6052 と同一遺構の可能性がある。主軸方位は N-31°-E で、北東－南西方向に延び、北西側に SD6007 が約 1m 間をあけて並走する。断面は半円状で、埋土は 2 層に分層した。1 層が暗褐色シルト、2 層が褐色シルトであり、2014 年度調査で検出された SD3066 埋土と類似する。SE6006、SK6024・6096 と重複し、これらの遺構より新しい。遺物は土師質土器椀（47）・皿（48）、青磁椀（49）、珠洲焼壺（50）の他、少量の土師質土器片と鉄釘 1 点が出土した。17L・M グリッドにかけて、いずれも 1 層から出土した。

**SD3069**（図版 10・15・34）

16L・M グリッドに位置する。2014 年度調査で検出された SD3069 と同じ遺構の可能性があることから、遺構番号を SD3069 として調査した。南側の延長線上に 2014 年度調査区の SD3073 が存在するが、平面的に段差が生じるので、同一遺構か不明である。主軸方位は N-26°-E で、北東－南西方向に延びる。断面は半円状で、埋土は 2 層に分層でき、1 層が黒褐色シルト、2 層が灰黄褐色シルトである。溝底面にはマンガンの沈着がみられた。遺物は出土しなかった。

**SD6007**（図版 10・15・34）

17・18L、16・17M グリッドに位置する。主軸方位は N-28°-E で、北東－南西方向に延びる。南東側に約 1m の間を空けて SD3066 と並走するが、北東端で北方向に強く屈曲して調査区外へと延びる。また、O 区で検出した SD6051 または SD6052 と同一遺構の可能性があるが、2014 年度調査区で検出されていないので不明である。SK6008・6009・6024、P6011・6013・6015・6018・6094 と重複し、これらの遺構より古い。並行する SD3066 は SK6024 より切り合いで新しいことから、同時期ではなくほぼ同じ位置に掘り返された溝の可能性がある。断面は台形状で、埋土は 3 層に分層した。1 層は暗褐色

シルト、2 層は褐色シルト、3 層はにぶい黄褐色シルトである。遺物は 17M グリッドの 1 層から土師質土器片が 1 点出土した。

## D　O　区 の 遺 構

### 遺構・遺物の検出状況

O 区の北側・西側は、2014 年度調査の E 区に隣接する。検出した遺構は、溝 8 条とピット 5 基である。これらの遺構の検出面はすべてⅣ層であることから、中世以降の遺構と考えられる。出土遺物は SD6051・6052・6053・6054、P6080 から土師質土器と須恵器、砥石が出土した。

### 各　　説

**SD6051**（図版 11・15・35）

15P3 から 15Q2 グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。北西側に SD6052 が最大 1m の間をあけて並走するが、北東端で重複する。主軸方向は N-22°-E である。SD6052・6053・6054 と重複し、これより古い。断面形は台形状で、深さは 11 ～ 18cm である。埋土は 2 層に分層でき、共に灰褐色シルトである。遺物は 15P7 グリッドの 1 層から古代の土師器長胴甕（27）が出土した。北東の延長線上に、主軸方向が近似する N 区 SD3066 または SD6007 が検出されていることから、これらと同一溝または関連する溝の可能性がある。

**SD6052**（図版 11・15・35）

15P3 から 15P21 グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南東側に SD6051 が最大 1m の間をあけて並走するが、北東端で重複する。また、南西端は SD6053 に直交する形で切られ、詳細は不明である。重複する SD6051 より新しく、SD6053 より古い。主軸方向は N-26°-E である。断面形は弧状～台形状で、深さは 8 ～ 10cm である。埋土は 2 層に分層でき、共に黄橙色シルトである。遺物は 15P3 と 15P7 グリッドの 1 層から土師質土器皿が出土した。北東の延長線上に、主軸方向が近似する N 区 SD3066 または SD6007 が検出されていることから、これらと同一溝または関連する溝の可能性がある。

**SD6053**（図版 11・15・35）

15P16 から 15Q3 グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる直線的な溝で、南東側は調査区外に続く。SD6051・6052 と重複し、これらより新しい。主軸方向は N-52°-W である。断面形は半円状で、深さは 10 ～ 15cm である。埋土は単層で、灰褐色シルトとなる。遺物は 15P22 グリッドの 1 層から珠洲焼片口鉢（52）が出土した。北西端が SD6052 の南西端とほぼ同じ位置にあるが、両溝の関係は不明である。

**SD6054**（図版 11・15・35）

14O9 から 15Q1 グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。重複する SD6051、P6058 より新しく、SD6057 より古い。主軸方向は N-13°-W である。断面形は台形状で、深さは 20 ～ 31cm である。埋土は 2 層に分層でき、1 層が灰黄褐色シルト、2 層がにぶい黄色シルトである。2 層に地山を多量に含む。底面に高低差があり、特に 14P15・20・25 グリッドでは落ち込み部が存在し、破片であるが遺物がまとまって出土した。出土遺物は 14P15・20・25 グリッドの 1 層の検出面近くから土師質土器皿（53 ～ 56）、土師質土器小皿（57 ～ 64）、砥石（67）、14P9 グリッ

ドの 2 層から須恵器が出土した。北側の延長線上には 2014 年度調査 E 区 SD3061 が検出されている。

**SD6055**（図版 11・15・35）

14P9 から 14Q5 グリッドにかけて位置する。南北方向に延びる溝で、南側は調査区外に続く。全体を通じて、形状が緩やかに湾曲し、北端部が SD6056 の端部と近接する。SD6057 と重複し、これより古い。主軸方向は N-10°-W である。断面形は弧状で、深さは 6 ～ 15cm である。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。

**SD6056**（図版 11・15・35）

14P9 から 14P21 グリッドにかけて位置する。北東から南西方向に延びる溝で、南西側は調査区外に続く。SD6057 と重複し、これより古い。主軸方向は N-42°-E の直線的な溝であるが、14P8・9 グリッドで、東側に向かってわずかに湾曲する。断面形は弧状で、深さは 7 ～ 12cm である。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。溝幅や深さが近似する SD6055 の北端部が 14P9 グリッドで近接することから、両溝は一連の遺構の可能性がある。

**SD6057**（図版 11・15・35）

14P1 から 15P21 グリッドにかけて位置する。北西から南東方向に延びる直線的な溝で、重複する SD6054・6055・6056 より新しい。主軸方向は N-50°-W である。断面形は台形状で、深さは 6 ～ 18cm である。埋土は単層で、にぶい黄橙色シルトとなる。溝の南東端は、規模及び主軸方向が近似する SD6053 の北西端と、15P21 グリッド付近で南西方向にずれるような位置関係である。

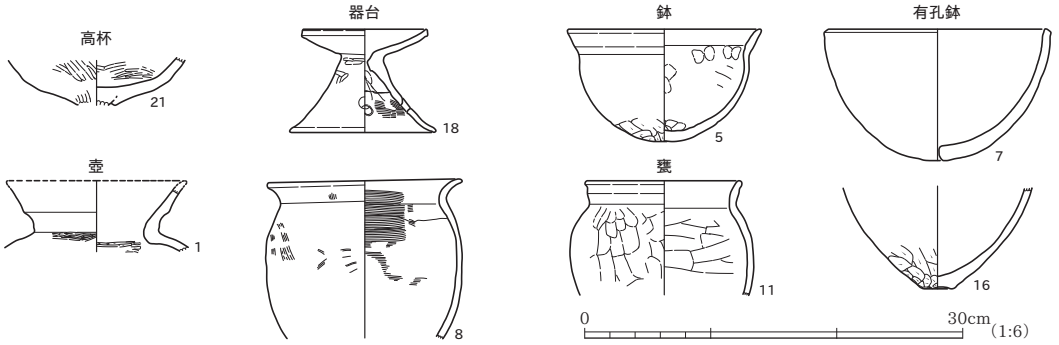
**SD6058**（図版 11・15・35）

14O14 から 15O16 グリッドにかけて位置する。東西方向に延びる溝で、南東側は調査区外へ続き、北西側は SD6054 に切られる。主軸方向は N-75°-W である。断面形は台形状で、深さは 13 ～ 19cm である。埋土は 2 層に分層でき、灰褐色シルト、にぶい黄橙色シルトに分かれる。ただし、SD6054 を超えた位置に、延長の溝が検出できなかったことから、SD6054 と一連の溝である可能性を残す。

# 第Ⅴ章　遺　　物

## 1　古　墳　時　代

古墳時代の遺物は、すべて前期に所属し、M 区からのみ出土している。隣接する 2014 年度調査 G 区［荒川ほか 2016］と阿賀野市調査 B 区［古澤ほか 2011］からも同時期の遺物が出土しており、遺跡範囲の南西側に古墳時代前期の集落が存在したと想定される。遺物量は少なく土器に限られるが、阿賀野市域の遺跡から古墳時代前期の遺物がまとまって出土した例は限られ、当地域の土器様相を知るための貴重な資料が得られた。器種は、高杯・器台・鉢・壺・甕がある（第 12 図）。以下、遺構出土遺物、遺構外出土遺物の順に記述する。




第 12 図　古墳時代前期土器の器種組成

### A　遺構出土遺物（図版 16・17・36）

**SK6227**（1・2）

有段口縁壺の口縁下部から肩部の破片（1）と、壺底部破片（2）が図化できた。ほかの遺物は、細片である。共に胴部が球胴に近い器形になると推測され、1 は SK6231 及び SD6232 出土土器と接合する。口縁有段部の形状から漆町編年［田嶋 1986］8 群または新潟シンポ編年［シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現実行委員会 2005］8 期前後の所産であろう。2 は、SD6232 出土土器と接合する。

**SK6231**（3 ～ 16）

今回の調査で、最も多くの土器が出土した。比較的器種も豊富で、器台または台付鉢の脚部（3・4）、鉢（5・6）、有孔鉢（7）、甕（8 ～ 16）がある。弥生時代後期以来の有段鉢は存在しない。甕は、図化できたものでは口縁端部が丸縁のもの（8・11・15）よりも面取りするもの（9・10・12 ～ 14）が多い。胴部外面の調整は、ハケメ調整（8）とヘラナデ・ケズリ調整（11・16）の 2 様がある。ヘラナデ・ケズリ調整が一定量あるのは、地域性や時期的な特徴を示すものか。時期は、口縁端部を面取りする甕が主体で有段鉢が存在しないことと、甕 8・鉢 5 の大きさや器形的な特徴から新潟シンポ編年 8 期並行であろう。

**SD6187**（17）

有孔鉢の底部 1 点のみ出土している。外面をハケメ、内面をハケメ後ヘラナデ調整している。

**SD6232**（18 ～ 20）

遺物の出土量は多かったが、接合しない細片が多く、図化できたものは少ない。器種は、器台（18）・

壺（19）・甕（20）がある。器台は、全形が分かる好資料で、口縁端部を面取りしている。風化のため、調整は観察しづらいが、外面をヘラミガキ、脚部内面をハケメ調整している。漆町編年８群の標識資料である白江・ネンブツドウ B2 区土器ダマリ上層に類例があり、当該期並行に位置づけられる。

### B　包含層出土遺物（図版 17・36）

包含層出土遺物は、破片のみで全形を知り得るものはない。高杯（21）と壺（22）と甕（23 ～ 25）が図化できた。21 は、杯底部片で厚手でやや雑なつくりであり、新しい様相を示す。甕は、口縁部の断面が「コ」の字状で、口縁端部をつまみ上げるもの（24・25）がある。

### C　小　　結

全体の様相は、高杯・器台が少なく鉢が多いこと、甕の口縁端部を面取りするものが主体となることから、漆町編年８群・新潟シンポ編年８期を中心とした時期に収まると考えられる。既往の調査では阿賀野市調査Ｂ区の土坑１から新潟シンポ編年７期ころの月影系の高杯（図版 52-88）や甕（同 79）が、B2-20 号遺構から新潟シンポ編年９期ころの鉢や器台が出土しており、付近を一定期間生活の場として利用していた状況を示している。また、胴部をヘラナデ・ケズリ調整する甕については、北関東・南東北との交流が推測され、阿賀野川流域の交通路を利用した当地域と他地域との交流関係も想定される。

## 2　古　　代

古代の遺物は、数点出土している。遺物の出土は、遺跡南側に集中する。既往の調査では、阿賀野市調査地での遺物出土量が卓越しており、今回の調査結果とも調和している。古代の遺跡は古墳時代の遺跡範囲と重複しており、古墳時代から古代までは共通した立地に集落が営まれていたと推測される。

26 は、土師器小甕の底部と見られ、ロクロ成形されている。Ｌ区 P6002 から出土した。27 は土師器長胴甕の胴部片で、タタキ成形されている。Ｏ区の中世の溝 SD6051 に混入して出土した。28 はＭ区、29 はＬ区から出土した須恵器片で、共に佐渡小泊窯跡群産である。

## 3　中　　世

中世は、境塚遺跡の盛期である。今回の調査は、調査面積が狭いため遺物の出土量は少なく、土器類が大半を占める。器種は、土師質土器皿・小皿、珠洲焼、珠洲・瓷器系陶器、瀬戸・美濃焼、青磁がある。土器以外は、曲物、杭などの木製品と砥石・石鉢がある。以下、遺物の種類別に記述する。

### A　土　　器（図版 17・18・36・37）

#### 1）L　　区

**SD3015**（30 ～ 33）

30 は、瀬戸・美濃焼の平底末広椀か平椀［藤沢 2008］の口縁部片と判断したが、判然としない。31 ～ 33 は、龍泉窯系青磁である。31 は、大宰府分類［山本 2000］の小椀Ⅲ-1a 類で、13 世紀中ごろ～14 世紀初頭前後に位置づけられる。32 は椀Ⅱ-b 類、33 が椀Ⅱ-a 類で、共に 13 世紀前半に位置づけられる。

## 2）M　　区

**SB6249**（34）

34 は P6197 から出土した瀬戸・美濃焼の口縁部片で、古瀬戸と思われるが器種が判然としない。花瓶や小瓶の類であろうか。

**SK6223**（35）

35 は、五頭山麓窯［鶴巻 2010］産瓷器系陶器の甕胴部片と思われる。狼沢 1 号窯に類似した簾状のスタンプ文が施されており、13 世紀末前後の所産であろう。

**SD3007**（36・37）

36 は、てづくね成形の土師質土器皿で、底部付近に同心円状のスタンプ様の文様がみられる。37 は珠洲焼の甕口縁部で、吉岡［1994］編年Ⅳ-1 期の所産であろう。

**遺構外**（38 ～ 41）

38 は瀬戸・美濃焼の端反皿と判断した。大窯Ⅳ期［藤沢 2002］ころの所産か。39 は、龍泉窯系青磁椀Ⅱ-a 類［山本 2000］片である。40 は五頭山麓窯の須恵器系甕、41 は同瓷器系甕の胴部片である。

## 3）N　　区

**SB6035**（42）

42 は、P6070 から出土した。土師質土器皿で、ロクロ成形されている。底部の切り離し方法は不明である。口縁部の立ち上がり方から、53 のような深身の器形になると推測される。

**SE6006**（43 ～ 45）

上層から土師質土器皿類がまとまって出土したが細片が多く、図化できたものは 2 点のみである。43･44 は小皿で、43 は底部が厚手で口縁部が強く外傾する。45 は、珠洲焼片口鉢片で、卸目の幅と単位、口縁部の形状から、吉岡［1994］編年Ⅲ期に位置づけられる。

**SK6009**（46）

46 は、龍泉窯系青磁椀Ⅱ-a 類［山本 2000］の破片である。

**SD3066**（47 ～ 50）

47・48 共に糸切底の土師質土器皿の底部片で、深身で内湾する器形になると推測される。49 は、龍泉窯系青磁椀Ⅱ-b 類［山本 2000］の破片である。50 は、珠洲焼壺 T 種の口縁部で、吉岡［1994］編年Ⅲ期に位置づけられよう。

**遺構外**（51）

51 は糸切底の土師質土器皿で、腰部がやや鋭角に立ち上がり、箱形の器形になると推測される。

## 4）O　　区

**SD6053**（52）

52 は珠洲焼片口鉢で、卸目の単位・幅から、吉岡［1994］編年Ⅳ期に位置づけられる。

**SD6054**（53 ～ 64）

遺構出土遺物の中では、最も多くの土器が出土している。ロクロ成形の土師質土器皿類のみで、陶磁器類の出土はない。底部の切り離しは、56 がヘラ切りである以外は、すべて糸切りである。皿は、全形が

判明した 53 や 54 の形状から、口縁部が外反する器形が主体となるようである。小皿は、63 が厚手で口縁部が外反気味に短く立ち上がる。64 の口縁部は内湾気味に薄く引き出される。

## B 石　製　品（図版 19・37）

器種が判明したものでは、石鉢（65）と砥石（66・67）が出土している。65 はN区遺構外出土で、内外面にノミ状の工具で成形した痕跡が認められ、内面と割れ口の一部にススの付着が見られる。66 は、N区 SE6006 から出土した。金属器を研いだと思われる鋭い筋状の線状痕が認められる。67 は、O区 SD6054 から出土した。線状痕が不明瞭で、面的に摩耗している。

## C 金　属　製　品（図版 19・37）

M区の中世の遺構から鉄製品が 2 点（68・69）出土している。68 は SD6187、69 が P6166 出土である。68 は錆の付着が著しく形状が判然としないが、X線写真の画像から鉄鏃か鑿と判断した。身が長く、茎との幅差は小さい。関部は三角形状にやや張り出す。69 は錆の付着が著しいうえにX線写真の画像でも形状がはっきりせず器種を確定できないが、断面形が扁平であることから刀子刃部の可能性がある。

## D 木　製　品（図版 19・37）

N区 SE6006 から杭（70）と曲物（71）が出土している。70 は水溜用の曲物を固定するために打ち込まれたものと思われる。刃物で下端を鉛筆の先端状に削っている。71 は遺存状況が悪く、下部のみ残存していた。2 枚の板材を二重に組み合わせた後、高さ約 4.5cm の板枠を下端に廻して木釘と樹皮で固定している。

## E 小　　結

既往の調査で遺構からまとまって出土した土師質土器は、共伴した陶磁器の特徴から、SE3030［荒川ほか 2016］・SE5129［飯坂ほか 2018］が吉岡［1994］編年の珠洲Ⅲ期ころ、SE3031・SE3046［荒川ほか 2016］・SD101［荒川ほか 2012］が珠洲Ⅳ1 ～ 2 期、SD239［荒川ほか 2012］が珠洲Ⅳ2 ～ 3 期に位置づけられる。SE3030 の土師質土器皿は古代の小椀の器形に類似し、小皿は器高が 1.5cm 以下で器壁が薄く口縁端部を尖らせ気味に内屈させるものが多い。SE5129 の土師質土器皿は、口径 12cm 前後で器高指数が 30 を超える深身器形と器高指数 25 前後の浅身器形が半々で組成し、口縁部が内湾または外傾する。小皿は器高 2cm 前後で、器壁が厚く口縁端部を丸めるものが多い。SE3046・3031、SD101・239 の土師質土器皿は、器高指数が 30 未満とやや浅身で、すべて口縁部が外反または外傾する。小皿は、器壁が厚く、口縁部が外反する。よって、陶磁器との共伴関係を考慮すれば、珠洲Ⅳ期前後の土師質土器皿の型式変化は、口縁部が内湾し器高指数が大きい深身器形から、口縁部が外反し器高指数が小さい浅身器形への変遷が推定される。小皿は、薄手で口縁部が内湾または内屈し器高が低い器形から、厚手で口縁部が外傾または外反し、器高が高い器形へ型式変化すると推測される。

上記の検討から、今回出土した土師質土器皿類の時期的な位置づけは、SE6006 の小皿（43）や、SD6054 の皿（53）と小皿（63・64）の器形的な特徴が SE3030・SE5129 出土資料に類似し、吉岡［1994］編年の珠洲Ⅲ期～Ⅳ1 期、13 世紀末～ 14 世紀前葉になると考えられる。また、土師質土器皿類の出土状況は、既往の調査で出土量が多かったE区に隣接するO・N区に集中しており、これまでの出土傾向に合致している。

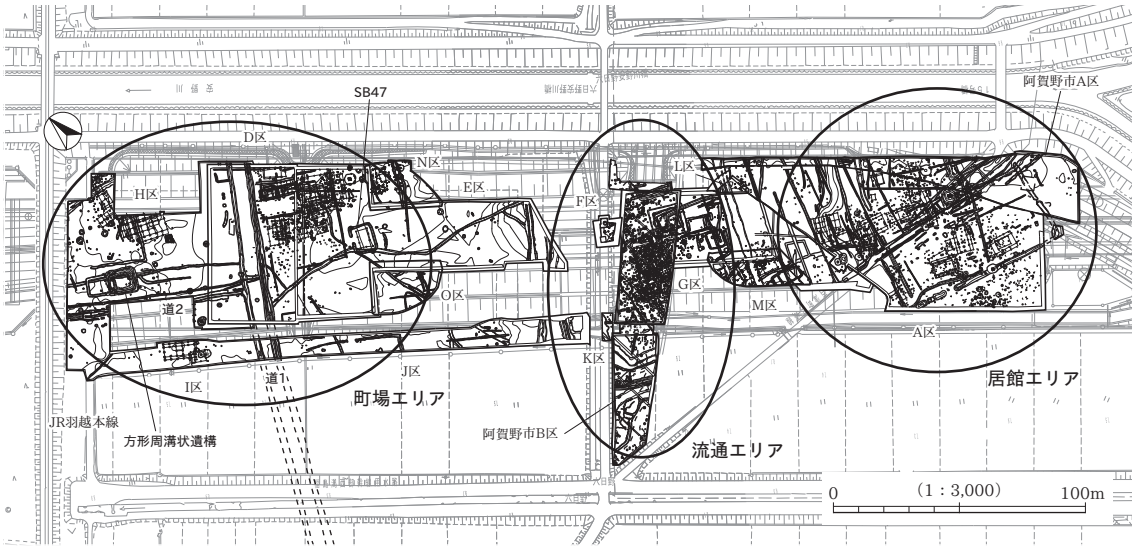
# 第Ⅵ章　ま　と　め

2019 年度の境塚遺跡の本発掘調査は、新潟県教育委員会（以下、県教委）が実施する第 4 次調査にあたる。境塚遺跡全体では県教委が 2009・2014・2015・2019 年度に、阿賀野市教育委員会（以下、市教委）が 2008・2009 年度に本発掘調査を実施し、縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺構・遺物が検出されている（第Ⅰ章 2 参照）。暫定 2 車線施工範囲内の調査であることから未調査区が存在するが、おおむね集落の構造を把握することができる。調査延べ面積は 42,550m$^2$ に及び、第 4 次調査面積はその約 2.6% を占める。古墳時代前期、古代、中世の遺物が出土し、その時期幅は既往調査の枠内に収まる。遺物の詳細な時期や傾向については第Ⅴ章の小結に記述した。

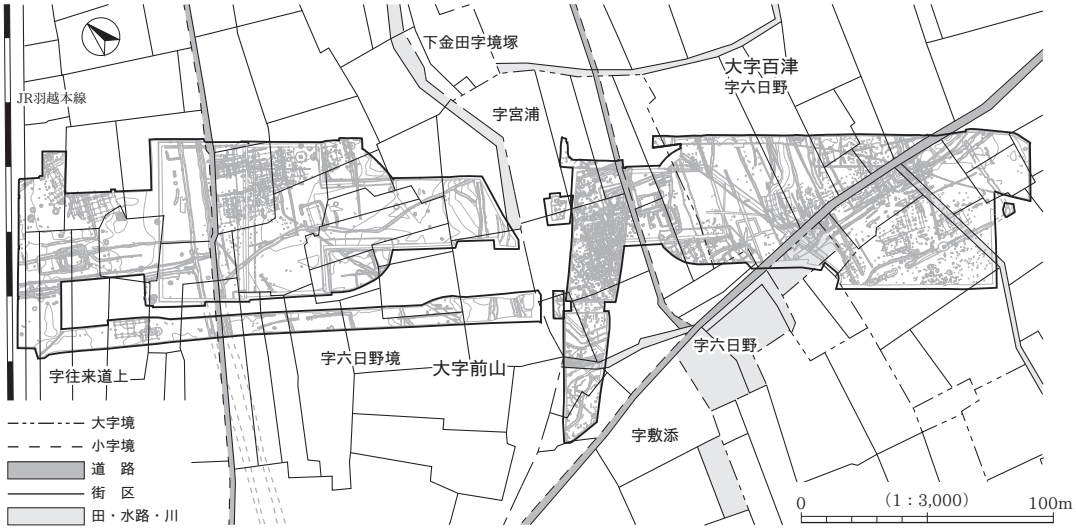
古墳時代の遺構・遺物は既往調査の中層に該当し、調査区 M 区北西半にほぼ限定して検出された。調査区南東側に向かって地形がやや下っていくことから、標高が高い場所に生活の場があったことが想定される。調査区外の北西側には六日野集落、その先に月崎集落が帯状に続き、この一連と考えられる自然堤防に沿って古墳時代の集落が形成されている可能性がある。M 区は集落のほぼ南限の縁辺部と考えられる。遺物には北関東・南東北との交流が推測されるものがあり、阿賀野川流域の河川を通じた交流が想定される。古代の出土遺物は少量であるが、古墳時代の遺物と共通した分布を示し、同様の立地環境で集落が形成されていたものと思われる。

中世に属する遺構・遺物は、すべての調査区で検出した。境塚遺跡は既往の調査結果によると 13 世紀後半から 15 世紀前半を主体とし、「大規模な幹線道路を利用した陸上交通と、阿賀野川に通じる百津潟を利用した河川交通との結節点に成立した町」と考えられ、「広域に及ぶ幹線道路の整備とこれを基軸とした町場の形成には、白河荘の地頭職であった大見氏の関与が推測」されている［荒川 2019］。遺跡は耕地整理により削平されている部分も多いが、遺構の検出状況や出土遺物の内容から、第 13 図のように大きく 3 つのエリアに分けられている。堀で区画された居館エリア、河川に沿って遺構が密集する流通エリア、「道 1」とその両側に掘立柱建物が立ち並ぶ町場エリアで、遺構の変遷はⅠ期、Ⅱ期（Ⅱ-1 期・Ⅱ-2 期・Ⅱ-3a 期・Ⅱ-3b 期）、Ⅲ期の 6 期に区分される。幹線道路としては「道 1」と「道 2」があり、Ⅰ期が「道 1」の構築以前、Ⅲ期が「道 1」の廃絶以後とされる。町場エリアの「道 2」の存続時期はⅡ-2 期・Ⅱ-3a 期で、13 世紀後半から 14 世紀前半と考えられている。「道 2」の廃絶に伴って町場エリアは 14 世紀後半には衰退するが、流通エリア・居館エリアは 15 世紀後半まで継続する［荒川ほか 2016、飯坂ほか 2018］。これらの傾向を踏まえ、第 4 次調査の結果と照合してみたい。

今回の調査区では L・M 区が流通エリアと居館エリアの間、N・O 区が町場エリアにそれぞれ位置する。出土遺物は少量だが、L・M 区では N・O 区と比較して青磁や瀬戸・美濃焼が多く出土しており、堀に囲まれないことからも流通エリアとしての要件を満たす。G 区・L 区の SD3015、M 区 SD6167 は同一の溝で、第 14 図に見られるように土地更正図との照合では大字前山と大字百津との境に位置する。第 2 次調査の結果では近世以降の構築と判断されているが、第 4 次調査では中世以前の遺物しか出土しておらず、また上記の「道 1」とも走向が同じである。M 区で検出された直交方向及び平行する溝からも近世以降の遺物は検出できなかった。またこれらの溝群と掘立柱建物の軸方向も一致する。第 2 次調査の所見通り近世以降の可能性もあるが、継続使用された結果で、構築時期は中世まで遡る可能性がある。また流通




第 13 図　中世遺構全体図　　『境塚遺跡Ⅲ』第 48 図へ加筆




第 14 図　検出遺構と土地更正図　　『境塚遺跡Ⅱ』第 14 図へ加筆
（阿賀野川土地改良区所蔵　北蒲原郡水原町　北蒲原群南部耕地整理組合　第一区現形豫定図から作成）

エリアと居館エリアを分ける境にも位置する溝である。

N・O 区は町場エリアに位置し、隣接する E 区同様に土師質土器が多く出土した。その形態的特徴から 13 世紀末から 14 世紀前葉の所産と考えられ、既往調査で想定された町場エリアの盛衰と一致する。N 区は掘立柱建物の柱穴が多く検出され、井戸も付随することから E 区同様の集落の中心部が東側まで拡がっていたと考えられる。E 区も含めて掘立柱建物が集中する範囲は、第 14 図の街区で区切られた範囲と一致する。一方 O 区は集落の中心から外れているが、遺構検出面の標高は N 区より高く、立地的な環境は良い。耕地整理により遺構が削られた可能性もあるが、コの字に溝で囲まれた建物（SB47）が「神を祀った祭場あるいはお堂などの宗教施設でなかったかと推測」されている［飯坂ほか 2018］ことから、集落から見てその背後に建物を構築しなかった可能性がある。

# 引用・参考文献


相沢　央　2004　「古代 第四章 蝦夷「征討」と発久遺跡」『笹神村史』通史編　笹神村

相田泰臣ほか 2014　『史跡 古津八幡山遺跡発掘調査報告書 －第15・16・17・18・19次調査－』 新潟市教育委員会

阿部洋輔　1987　「第一章 第一節 二 越後の地頭」『新潟県史』通史編2 中世　新潟県

荒川隆史　2004　「第Ⅳ章 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第133集 青田遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第153集 大坪遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2012　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第232集 境塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史ほか 2016　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

荒川隆史　2016　「阿賀野市 境塚遺跡」『新潟県考古学会 第28回大会 研究発表会発表要旨』 新潟県考古学会

荒川隆史　2019　「阿賀野バイパスの調査成果」『第23回遺跡発掘調査報告会・シンポジウム「白河荘の考古学」資料』

荒谷伸郎ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第215集 山口遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯坂盛泰ほか 2018　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第278集 境塚遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

石橋夏樹　2016　「第Ⅳ章2 C井戸」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第262集 境塚遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

宇野隆夫　1982　「井戸考」『史林』第65巻第5号　史学研究会

遠藤孝司　2003　「第一章 第一節 第二項 四一 高畑遺跡」『笹神村史』資料編一 原始・古代・中世　笹神村

大熊　孝　1996　「越後平野の治水と河川開発史」『第四紀研究』第35巻第3号　日本第四紀学会

小川正忠・竹原秀雄　1998　『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社

小野本敦ほか 2017　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第270集 柄目木遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・(公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学　1999　「第Ⅴ章1 遺構」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第93集 和泉A遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

加藤　学ほか 2013　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第237集 柄目木遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

鐘方正樹　2003　『井戸の考古学』 同成社

川上貞雄　1999　『笹神村文化財調査報告9 前田遺跡・壱本杉遺跡』 笹神村教育委員会

川上貞雄　2002　『笹神村文化財調査報告13 腰廻遺跡』 笹神村教育委員会

笹神団体研究グループ　1976・1980　「笹神丘陵の地質」『新潟県地学教育研究会誌』No.11・15

佐藤友子ほか 2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第203集 庚塚遺跡・狐塚遺跡』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

佐藤友子ほか 2010　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第216集 柄目木遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

「シンポジウム 新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現」実行委員会　2005　『新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』 新潟県考古学会

田嶋明人　1986　「Ⅳ　考察　－漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』　石川県立埋蔵文化財センター
田辺早苗　1991　『神林村埋蔵文化財報告第３　長松遺跡発掘調査報告書』　新潟県岩船郡神林村教育委員会
田村　裕　1987　「第一章　第一節　一　鎌倉殿と御家人」『新潟県史』通史編２　中世　新潟県
田村　裕　2004　「中世　第三章　南北朝・室町前期の白河荘」『笹神村史』通史編　笹神村
鶴巻康志　2010　「越後国（新潟県）五頭山麓窯（北沢窯）（須恵器系）（笹神窯）（瓷器系）」『古陶の譜　中世のやきもの　－六古窯とその周辺－』　印象社
中山俊道・渡辺達郎　2001　『笹神村文化財調査報告 11　上高関遺跡』　笹神村教育委員会
中野豈任　1967　「白河庄について」『社会科研究』第十二集　新潟県高等学校教育研究会社会科部会
成田圀之　2000　「百津潟を探し求めて」『水原郷土誌料』第二十八集　水原町教育委員会
新潟県　1975　「新津」『下越開発地域　土地分類基本調査』　新潟県農地部農地建設課
樋口真己　2004　「中世　第一章　白河荘の成立と城氏の展開」「中世　第二章　鎌倉期の白河荘」『笹神村史』通史編　笹神村
北陸地方建設局阿賀野川工事事務所　1984　『阿賀野川水害地形分類図　説明書』
北陸地方建設局阿賀野川工事事務所　1988　『阿賀野川史改修六○年の歩み』
藤澤良祐　2002　「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『（財）瀬戸市埋蔵文化財センター紀要』第 10 輯（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
藤澤良祐　2008　『中世瀬戸窯の研究』　高志書院
古澤妥史ほか　2011　『阿賀野市埋蔵文化財発掘調査報告書　第４集　境塚遺跡・山口野中遺跡・三辺稲荷遺跡』　新潟県阿賀野市教育委員会
山本信夫　2000　『大宰府市の文化財　第 49 集　大宰府条坊跡ⅩⅤ　－陶磁器分類編－』　太宰府市教育委員会
吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』　吉川弘文館
渡邊朋和ほか　2001　『八幡山遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡辺文雄　1973　「Ⅵ　安田町保田雲雀田遺跡発見報告」『水原町立水原博物館研究報告』No.4　水原町立水原博物館

## L 区　土坑（SK）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 形態 | | | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 平面 | 縦断面 | 立ち上がり | 上端長径 | 上端短径 | 下端長径 | 下端短径 | 深度 | | | | | |
| 6001 | 26W4 | Ⅳ | 円形 | 台形状 | 急斜度 | 79 | 77 | 61 | 47 | 28 | 6.783 | 単層 | N-43°-E | | |

## L 区　溝（SD）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 下端長径 | 下端短径 | 深度 | | | | | |
| 3015 | 26V13・14・17・22・23 | Ⅳ | (470) | 346 | (346) | 65 | 21 | 6.791 ～ 6.834 | N-29°-E | 瀬戸・美濃焼平椀30・青磁小坏31・青磁椀32・33 不明鉄製品 | | G区SD3015及び M区SD6167と同一遺構。 |
| 3025 | 26V11・12 | Ⅳ | (205) | 113 | (159) | 65 | 26 | 6.967 ～ 6.993 | N-51°-E | 土師質土器 | | G区SD3025と同一遺構。 |

## L 区　ピット（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | | |
| 6002 | 26V24 | Ⅳ | 47 | 45 | 55 | 6.551 | 柱痕 | 土師器小甕26 | >P6004 | |
| 6003 | 26W4 | Ⅳ | 24 | 23 | 36 | 6.786 | 柱痕 | | | |
| 6004 | 26V24 | Ⅳ | 22 | (9) | － | － | － | | <P6002 | |
| 6005 | 26V19 | Ⅳ | 29 | 24 | 18 | 6.786 | 柱痕 | | | |

## M 区　掘立柱建物（SB）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 梁間 | 桁間 | 身舎梁行長（m） | 身舎桁行長（m） | 梁間柱間長（m） | 桁行柱間長（m） | 主軸方向 | 面積（㎡） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6138 | 24・25Y・Z | 1間 | 3間 | 4.03 | 7.67 | 4.03 | 2.25 ～ 3.32 | N-68°-W | 30.91 |
| 6145 | 24Y | 1間 | (3間) | 4.83 | (5.80) | 4.83 | (1.67 ～ 2.54) | N-77°-W | (28.01) |
| 6248 | 25Y | 2間 | (2間) | 3.56 | (3.29) | 1.46 ～ 2.05 | (1.43 ～ 1.90) | N-80°-E | (11.71) |
| 6249 | 24X・Y | 1間 | 3間 | 3.78 | 5.98 | 3.78 ～ 4.32 | 1.74 ～ 2.22 | N-72°-W | 22.60 |

## M 区　SB6138 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6105 | 25Y23 | Ⅳ | 45 | 39 | 46 | 6.538 | 柱痕 | | |
| 6120 | 24Y20 | Ⅳ | 33 | 30 | 39 | 6.674 | － | | >SD6167, P6169 |
| 6122 | 25Y21 | Ⅳ | 50 | 43 | 46 | 6.593 | 柱痕 | | |
| 6123 | 24Z5 25Z1 | Ⅳ | 36 | 34 | 42 | 6.552 | 柱痕 | | |
| 6134 | 25Z2・7 | Ⅳ | 34 | 32 | 37 | 6.600 | 柱痕 | | |
| 6148 | 25Y16 | Ⅳ | 29 | 29 | 43 | 6.649 | 柱痕 | | |
| 6149 | 25Z8 | Ⅳ | 36 | 32 | 46 | 6.461 | 柱痕 | | |
| 6158 | 25Y24 | Ⅳ | 33 | 27 | 37 | 6.603 | 柱痕 | | |
| 6176 | 24Y24・25 24Z4・5 | Ⅳ | 39 | 36 | 26 | 6.746 | － | | |

## M 区　SB6248 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6131 | 25Y17・22 | Ⅳ | 37 | 28 | 51 | 6.534 | 柱痕 | | |
| 6140 | 25Y16 | Ⅳ | 31 | 30 | 45 | 6.617 | 柱痕 | | |
| 6141 | 25Y21 | Ⅳ | 28 | 19 | 15 | 6.895 | 柱痕 | | |
| 6161 | 25Y18 | Ⅳ | 34 | 30 | 31 | 6.695 | レンズ状 | | |
| 6166 | 25Y11 | Ⅳ | 37 | 30 | 37 | 6.489 | 水平 | 不明鉄製品 | <SK6139 |

## M 区　SB6145 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6173 | 24Y17 | Ⅳ | 27 | 26 | 9 | 7.083 | 単層 | | |
| 6180 | 24Y7 | Ⅳ | 38 | 34 | 41 | 6.849 | － | | |
| 6182 | 24Y6 | Ⅳ | 57 | 50 | 53 | 6.704 | 柱痕 | | |
| 6184 | 24Y23 | Ⅳ | 43 | 33 | 17 | 6.881 | 柱痕 | | |
| 6211 | 24Y9・14 | Ⅳ | 57 | 39 | 50 | 6.683 | 単層 | | |
| 6218 | 24Y8 | Ⅳ | (55) | 56 | 41 | 6.804 | － | 土師器 | <P6215 (SB6249) |
| 6230 | 24Y16 | Ⅳ | 27 | 27 | 32 | 6.835 | 柱痕 | 土師器 | |

## M 区　SB6249 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6210 | 24X21・22 | Ⅳ | 34 | 34 | 27 | 7.027 | 柱痕 | | |
| 6175 | 24Y14 | Ⅳ | 48 | 32 | 43 | 6.727 | 柱痕 | | |
| 6197 | 24X22 | Ⅳ | (34) | 30 | 26 | 7.024 | 単層 | 瀬戸・美濃焼壺?34 青磁 鉄製品 | |
| 6200 | 24Y7 | Ⅳ | 36 | 34 | 38 | 6.865 | 柱痕 | | |
| 6215 | 24Y8・13 | Ⅳ | 48 | 48 | 38 | 6.820 | 柱痕 | | >P6218 (SB6145) |
| 6217 | 24Y3 | Ⅳ | 30 | 29 | 39 | 6.721 | 単層 | | <SD6187 |
| 6226 | 24Y4 | Ⅳ | 30 | 27 | 18 | 6.724 | 柱痕 | | |

## M 区　ピット（P）観察表（1）

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | | |
| 6098 | 25Y17・22 | Ⅳ | 48 | 36 | 23 | 6.797 | 柱痕 | | | |
| 6099 | 25Y22 | Ⅳ | 27 | 27 | 10 | 6.936 | 単層 | | | |
| 6100 | 25Y17 | Ⅳ | 35 | 33 | 22 | 6.814 | 柱痕 | | | |
| 6101 | 25Z3 | Ⅳ | 28 | 24 | 29 | 6.721 | 単層 | | | |
| 6102 | 25Z4 | Ⅳ | 31 | 28 | 26 | 6.699 | 単層 | | | |
| 6103 | 24Z4 | Ⅳ | 38 | 32 | 21 | 6.719 | 柱痕 | | >SD6167 | |
| 6104 | 25Y22 | Ⅳ | 24 | 19 | 17 | 6.795 | 単層 | | | |
| 6106 | 24Y15・20 | Ⅳ | 50 | 33 | 30 | 6.763 | 柱痕 | | >SD6167, P6179 | |
| 6107 | 25Y16 | Ⅳ | 45 | 34 | 30 | 6.768 | 柱痕 | | | |
| 6108 | 25Y21 | Ⅳ | 29 | 28 | 27 | 6.772 | 単層 | | | |
| 6109 | 25Y17 | Ⅳ | 35 | 35 | 24 | 6.802 | レンズ状 | | | |
| 6110 | 25Y22 | Ⅳ | 24 | 22 | 23 | 6.805 | 柱痕 | | | |
| 6116 | 25Y11・16 | Ⅳ | 30 | 25 | 33 | 6.738 | 柱痕 | | | |
| 6117 | 24Y24 | Ⅳ | 36 | 31 | 51 | 6.490 | 柱痕 | | >SD6167 | |
| 6118 | 25Y23 | Ⅳ | 31 | 28 | 36 | 6.642 | 柱痕 | | | |
| 6119 | 24Y20 | Ⅳ | 30 | 29 | 45 | 6.602 | 水平 | | >SD6167 | |
| 6121 | 24Y25 | Ⅳ | 31 | 27 | 18 | 6.836 | レンズ状 | | | |
| 6124 | 25Z4 | Ⅳ | 41 | 32 | 31 | 6.689 | 柱痕 | | | |

## M 区　ピット（P）観察表（2）

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | | |
| 6129 | 25Y16 | Ⅳ | 30 | 30 | 31 | 6.739 | 柱痕 | | | |
| 6130 | 25Y22 | Ⅳ | 30 | 25 | 23 | 6.806 | 柱痕 | | | |
| 6133 | 25Z1・6 | Ⅳ | 28 | 25 | 3 | 6.919 | 単層 | | >SD6113 | |
| 6135 | 25AA5・10 | Ⅳ | 33 | 29 | 5 | 6.913 | 単層 | | >SD6114 | |
| 6136 | 25Y16・17 | Ⅳ | 24 | 20 | 29 | 6.765 | レンズ状 | | | |
| 6137 | 25Y17 | Ⅳ | 32 | 31 | 25 | 6.778 | 柱痕 | | | |
| 6142 | 25Y23 | Ⅳ | 25 | 23 | 22 | 6.771 | 柱痕 | | | |
| 6143 | 25Y21 | Ⅳ | 21 | 16 | 14 | 6.908 | 単層 | | | |
| 6144 | 24Z15 | Ⅳ | 32 | 31 | 68 | 6.297 | 柱痕 | | | |
| 6146 | 24Z3 | Ⅳ | 30 | 27 | 31 | 6.785 | 水平・レンズ状 | | | |
| 6150 | 24Y23 | Ⅳ | 36 | 31 | 17 | 6.868 | 水平 | | >P6151 | |
| 6151 | 24Y18・23 | Ⅳ | 41 | (20) | 20 | 6.912 | 単層 | | <P6150 | |
| 6152 | 25Z4 | Ⅳ | 24 | 20 | 20 | 6.583 | 単層 | | <SD6177 | |
| 6153 | 24Y18 | Ⅳ | 28 | 26 | 36 | 6.724 | 柱痕 | | | |
| 6157 | 25Z4 | Ⅳ | 38 | (18) | 16 | 6.806 | 単層 | | >SD6177 | |
| 6159 | 25Y23 | Ⅳ | 25 | 20 | 31 | 6.670 | レンズ状 | | | |
| 6160 | 25Y23・24 | Ⅳ | 23 | 23 | 30 | 6.703 | 柱痕 | | | |
| 6162 | 24Y20・25 | Ⅳ | 36 | 31 | 40 | 6.656 | 柱痕 | | | |
| 6165 | 25Y17 | Ⅳ | 19 | 15 | 63 | 6.384 | 柱痕 | | | |
| 6168 | 24Y17 | Ⅳ | 28 | 25 | 45 | 6.710 | 単層 | | | |
| 6169 | 24Y20 | Ⅳ | (37) | 32 | 43 | 6.638 | 柱痕? | | <SD6167，P6120（SB6138） | |
| 6170 | 24Y20 | Ⅳ | 27 | 24 | 14 | 6.708 | 柱痕 | | >SD6167 | |
| 6171 | 25Y16 | Ⅳ | 37 | 37 | 23 | 6.832 | 柱痕? | | | |
| 6172 | 24Y25 | Ⅳ | 25 | 22 | 13 | 6.782 | － | | >SD6167 | |
| 6174 | 25AA5・10 | Ⅳ | (28) | 34 | 16 | 6.713 | 単層 | | <SD6114 | |
| 6178 | 24Y17 | Ⅳ | 32 | 29 | 29 | 6.843 | 柱痕 | | >SD6186，P6228 | |
| 6179 | 24Y15・20 | Ⅳ | (15) | 27 | 9 | 6.689 | 柱痕 | | <SD6167，P6106 | |
| 6181 | 25Y21 | Ⅳ | 28 | 22 | 13 | 6.917 | 単層 | | | |
| 6183 | 24Y12 | Ⅳ | 41 | 20 | 12 | 7.096 | 単層 | | | |
| 6185 | 25Z11 | Ⅳ | 19 | (15) | 28 | 6.659 | 単層 | | >SD6111 | |
| 6190 | 24Y1・6 | Ⅳ | 27 | 22 | 14 | 7.122 | 単層 | | | |
| 6192 | 24Y22 | Ⅳ | 32 | (27) | 32 | 6.811 | 単層 | | | |
| 6194 | 23Y10・15 24Y6・11 | Ⅳ | 31 | 31 | 36 | 6.899 | 柱痕 | | | |
| 6195 | 24Y14 | Ⅳ | 26 | 23 | 23 | 6.892 | 単層 | | | |
| 6198 | 24X17 | Ⅳ | 19 | (9) | 26 | 6.692 | 柱痕 | | | |
| 6199 | 24Y12 | Ⅳ | 30 | 24 | 19 | 6.985 | 単層 | | | |
| 6203 | 24Y9・14 | Ⅳ | (20) | (28) | 9 | 7.053 | 単層 | | <SK6202 | |
| 6204 | 24Y6 | Ⅳ | 30 | 29 | 20 | 7.033 | 単層 | | | |
| 6205 | 24Y22 | Ⅳ | 35 | 34 | 28 | 6.890 | レンズ状 | | | |
| 6206 | 24X23 | Ⅳ | 49 | 39 | 28 | 7.001 | 単層 | 土師器 | | |
| 6212 | 25AA14 | Ⅳ | 39 | (17) | 21 | 6.692 | 単層 | | | |
| 6214 | 24Z14 | Ⅳ | 24 | 22 | 44 | 6.567 | 柱痕 | | >SD6111 | |
| 6220 | 24Y14 | Ⅳ | 30 | 30 | 35 | 6.565 | 柱痕 | | <SK6213 | |
| 6221 | 24Y14 | Ⅳ | 23 | 17 | 7 | 6.832 | レンズ状 | | <SD6167 | |
| 6222 | 24Y9 | Ⅳ | 31 | 30 | 17 | 6.736 | 柱痕 | | <SK6202 | |
| 6224 | 24X16 | Ⅳ | (9) | 10 | 50 | 6.610 | － | | | 杭痕 |
| 6225 | 24X17 | Ⅳ | 14 | (8) | 18 | 6.730 | 単層 | | | |
| 6228 | 24Y17 | Ⅳ | 28 | (19) | 13 | 6.832 | 柱痕 | | <SD6186，P6178 | |
| 6229 | 24Y11 | Ⅳ | 28 | 23 | 22 | 6.912 | 柱痕 | 土師器 | | |
| 6243 | 25Y21 | Ⅳ | 24 | 24 | 17 | 6.660 | 単層 | | | |
| 6244 | 25Y21 | Ⅳ | 16 | 15 | 8 | 6.765 | 単層 | | | |
| 6245 | 24Y17 | Ⅳ | 23 | 19 | 8 | 6.825 | 単層 | | <SD6186 | |
| 6246 | 24Y12 | Ⅵ | 33 | 31 | 16 | 6.811 | 柱痕 | | <SD6232 | |
| 6247 | 24Y13 | Ⅵ | 43 | 38 | 20 | 6.627 | 柱痕 | | | |

## M 区　土坑（SK）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | | | | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 平面 | 断面 | 立ち上がり | 上端長径 | 上端短径 | 下端長径 | 下端短径 | 深度 | | | | | |
| 6095 | 23Y4・5 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 急斜度 | (99) | (75) | (48) | (52) | (16) | 7.059 | レンズ状 | N-31°-E | | >SD6187・6191 |
| 6139 | 24Y15 25Y11 | Ⅳ | 円形 | 弧状 | 急斜度 | 92 | 85 | 76 | 70 | 25 | 6.817 | レンズ状 | N-48°-W | | >SD6167，P6166（SB6248） |
| 6147 | 24Z4 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 緩やか | 106 | 66 | 93 | 54 | 25 | 6.761 | レンズ状 | N-12°-E | 土師器 | <SD6113 |
| 6163 | 25AA9 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 急斜度 | 94 | 29 | 67 | 40 | 32 | 6.636 | レンズ状 | N-79°-E | | |
| 6189 | 23Y4・5・9・10 | Ⅳ | 不整形 | 弧状? | 急斜度 | (111) | (33) | (95) | (21) | 23 | 6.866 | 単層? | N-6°-E | | <SK6095 >SD6187・6191 |
| 6201 | 24Y9 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 緩やか | 76 | 62 | 53 | 37 | 23 | 6.953 | 単層 | N-9°-E | | >SK6202 |
| 6202 | 24Y9・14 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 緩やか | (44) | 92 | (33) | 50 | 28 | 6.857 | レンズ状 | N-39°-W | | <SK6201 >P6203・6222 |
| 6207 | 23X20・24・25 | Ⅳ | 方形 | 弧状 | 緩やか | 62 | 50 | 44 | 27 | 15 | 7.161 | レンズ状 | N-41°-E | | |
| 6213 | 24Y13・14・18・19 | Ⅳ | 楕円形 | 弧状 | 急斜度 | 156 | 95 | 123 | 70 | 17 | 6.907 | レンズ状 | N-28°-E | 土師器 | >P6220 |
| 6223 | 24Y10 | Ⅳ | 円形 | 弧状 | 緩やか | 90 | 83 | 66 | 47 | 14 | 6.733 | レンズ状 | N-63°-W | 瓷器系陶器?35 | >SD6167 |
| 6227 | 23X14・15・19・20 24X16 | Ⅵ | 楕円形 | 弧状 | 緩やか | (74) | 42 | (70) | 32 | 51 | 6.611 | レンズ状 | N-72°-W | 土師器壺1・2 | |
| 6231 | 23Y15・20 24Y11・16 | Ⅵ | 不整形 | 箱状 | 急斜度 | (289) | 280 | 287 | 263 | 15 | 6.987 | レンズ状 | N-74°-E | 土師器壺1・2 器台か鉢脚部3・4 鉢5・6 有孔鉢7 甕8 ～ 16 | <SD6232 |

## M 区　溝（SD）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長さ | 上端幅 | 下端長さ | 下端幅 | 深度 | | | | | |
| 6111 | 24Z14-24Z15、25Z11-24Z20 | Ⅳ | （488） | 24 ～ 61<br>SPA ～ A' 40 | （476） | 15 ～ 46<br>SPA ～ A' 26 | 6 ～ 8 | 6.914 ～ 7.001 | 東西N-76°-W<br>南北N-21°-E | | <SD6132，P6185・6214 | |
| 6113 | 24Z2-26Z16・21 | Ⅳ | （1624） | 59 ～ 113<br>SPA ～ A' 71 | （1571） | 43 ～ 61<br>SPA ～ A' 50 | 9 ～ 16 | 6.811 ～ 6.904 | N-71°-W | | >SK6147，SD6177<br><SD6132・6167，P6133 | |
| 6114 | 25Z22-25AA5・10 | Ⅳ | （701） | 47 ～ 62<br>SPA ～ A' 55 | （650） | 10 ～ 34<br>SPA ～ A' 10 | 11 ～ 50 | 6.511 ～ 6.812 | N-73°-W | | >P6174<br><P6135 | |
| 6115 | 25Z17-25Z21 | Ⅳ | （412） | 45 ～ 99<br>SPA ～ A' 51 | （397） | 20 ～ 32<br>SPA ～ A' 32 | 18 ～ 25 | 6.740 ～ 6.827 | N-12°-W | | <SD6132 | |
| 6132 | 24Z20-25Z11-25Z20 | Ⅳ | （1300） | 36 ～ 80<br>SPA ～ A' 64 | （1296） | 8 ～ 39<br>SPA ～ A' 32 | 12 ～ 40 | 6.594 ～ 6.782 | 東西N-75°-W<br>南北N-12°-E | | >SD6111・6113・6115・6177 | |
| 6164 | 25AA10-26AA1 | Ⅳ | （222） | 29 ～ 44<br>SPA ～ A' 36 | （182） | 16 ～ 35<br>SPA ～ A' 27 | 8 ～ 14 | 6.723 ～ 6.793 | N-25°-E | | | |
| 6167 | 24Z8-24Y10・15、25Y11 | Ⅳ | （1002） | 235 ～ 341<br>SPA ～ A' 278 | （1002） | 203 ～ 305<br>SPA ～ A' 252 | 12 ～ 30 | 6.776 ～ 6.846 | N-29°-E | 土師器 | <SK6139・6223，P6103・6106・6117・6119・6120（SB6138）・6170・6172<br>>SD6113，P6169・6179・6221 | G区SD3015及びL区SD3015と同一遺構。 |
| 6177 | 25Y25-25Z18 | Ⅳ | （710） | 41 ～ 58<br>SPA ～ A' 41 | （706） | 22 ～ 38<br>SPA ～ A' 23 | 8 ～ 18 | 6.754 ～ 6.843 | N-22°-E | | <SD6113・6132，P6157<br>>P6152 | |
| 6186 | 23X24-24Y3-24Y16・21 | Ⅳ | （1477） | 87 ～ 135<br>SPA ～ A' 110 | （1470） | 52 ～ 90<br>SPA ～ A' 89 | 17 ～ 41 | 6.864 ～ 7.124 | 東西N-76°-W<br>南北N-17°-E | 土師器 | <SD3007，P6178<br>>SD6187・6191，P6228・6245 | |
| 6187 | 23Y5-24X24、24Y4 | Ⅳ | （894） | 56 ～ 124<br>SPA ～ A' 92 | （760） | 39 ～ 119<br>SPA ～ A' 47 | 12 ～ 40 | 6.799 ～ 7.155 | N-83°-E | 土師器有孔鉢17・不明鉄製品 | <SK6095・6189，SD3007・6186・6191<br>>P6217（SB6249） | |
| 6191 | 24X16-23Y9 | Ⅳ | （739） | （74） | （739） | （65） | 6 ～ 24 | 7.011 ～ 7.125 | N-32°-E | | <SK6095・6189，SD3007・6186<br>>SD6187・6209 | |
| 6209 | 23X20-24X16 | Ⅳ | 286 | 26 ～ 65<br>SPA ～ A' 40 | 280 | 13 ～ 38<br>SPA ～ A' 24 | 5 ～ 11 | 7.112 ～ 7.198 | N-67°-W | 土師器 | <SD6191 | |
| 6232 | 23Y20-24Y7 | Ⅵ | （458） | 288 | （441） | 250 | 20 | 6.818 ～ 7.007 | N-25°-E | 土師器壺1・2 器台18 壺19 甕20 | >SK6231，P6246 | |
| 3007 | 23Y10・15-・24X17 | Ⅳ | （1241） | 60 ～ 115 | － | － | － | － | N-27°-E | 土師器小皿36 珠洲焼甕37 土師質土器・近現代陶器 | >SD6186・6187・6191 | G区SD3007と同一遺構。現代。 |

## N 区　掘立柱建物（SB）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 梁間 | 桁間 | 身舎梁行長（m） | 身舎桁行長（m） | 梁間柱間長（m） | 桁行柱間長（m） | 主軸方向 | 面積（㎡） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6025 | 16・17L | 2間 | 3間 | 2.68 | 4.36 | 0.94 ～ 1.61 | 1.19 ～ 1.56 | N-60°-W | 10.81 |
| 6035 | 16・17L | 1間 | 3間 | 3.72 | 8.86 | 3.60 ～ 3.72 | 1.98 ～ 3.51 | N-39°-E | 32.96 |
| 6059 | 17L | 2間 | 2間 | 2.95 | 3.96 | 1.76 ～ 2.20 | 1.12 ～ 1.72 | N-58°-W | 11.68 |

## N 区　SB6025 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6026 | 16L14 | Ⅳ | 25 | 20 | 22 | 6.910 | 柱痕 | | |
| 6042 | 16L18・19 | Ⅳ | 37 | 32 | 39 | 6.840 | 柱痕 | 土師質土器 | |
| 6068 | 17L16 | Ⅳ | 47 | 25 | 23 | 6.962 | 柱痕 | | |
| 6069 | 16L18・19 | Ⅳ | 31 | 24 | 11 | 7.086 | レンズ状 | | |
| 6072 | 16L20 | Ⅳ | 31 | 27 | 40 | 6.858 | 柱痕 | | |
| 6073 | 16L15 | Ⅳ | 26 | 24 | 21 | 7.038 | 単層 | | |
| 6076 | 17L21 | Ⅳ | 34 | 25 | 20 | 6.968 | 柱痕 | | |
| 6079 | 16L25 | Ⅳ | 29 | 25 | 11 | 7.026 | 単層 | | |
| 6084 | 16L19・24 | Ⅳ | 39 | 36 | 19 | 7.010 | 柱痕 | | |
| 6087 | 16L25 | Ⅳ | 30 | 26 | 51 | 6.661 | 柱痕 | | |

## N 区　SB6035 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6036 | 17L2 | Ⅳ | 48 | 40 | 41 | 6.745 | 柱痕 | | |
| 6037 | 17L8・9 | Ⅳ | 42 | 32 | 48 | 6.690 | 柱痕 | | >P6040 |
| 6039 | 17L13 | Ⅳ | 43 | 41 | 46 | 6.711 | レンズ状 | | |
| 6046 | 17L6・7 | Ⅳ | 45 | （27） | 43 | 6.746 | 柱痕 | 土師質土器 | <P6047 |
| 6048 | 17L21 | Ⅳ | 48 | 37 | 68 | 6.527 | 柱痕 | | |
| 6049 | 16L19・20 | Ⅳ | 44 | 43 | 67 | 6.571 | 柱痕 | 土師質土器 | >P6093 |
| 6070 | 16L15 | Ⅳ | 56 | 52 | 41 | 6.856 | レンズ状 | 土師質土器皿42 | |
| 6071 | 17L17 | Ⅳ | 34 | 32 | 42 | 6.776 | 柱痕 | | |

## N 区　SB6059 の柱穴（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長径 | 上端短径 | 深度 | | | | |
| 6050 | 17L13・14 | Ⅳ | 37 | 35 | 28 | 6.992 | 柱痕 | | |
| 6060 | 17L11 | Ⅳ | 40 | 38 | 16 | 7.013 | 柱痕 | | |
| 6061 | 17L11・16 | Ⅳ | 29 | 29 | 12 | 7.090 | 柱痕 | | |
| 6063 | 17L7 | Ⅳ | 43 | 37 | 42 | 6.761 | － | 土師質土器 | |
| 6064 | 17L18・23 | Ⅳ | 41 | 35 | 27 | 6.902 | 柱痕 | | |
| 6071 | 17L17 | Ⅳ | 34 | 32 | 42 | 6.776 | 柱痕 | | |
| 6088 | 17L18 | Ⅳ | 24 | 21 | 20 | 6.982 | 柱痕 | | |
| 6089 | 17L12・13 | Ⅳ | 29 | 25 | 14 | 7.032 | 柱痕 | | |

## N 区　ピット（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長径 | 短径 | 深度 | | | | | |
| 6011 | 17M8 | Ⅳ | 28 | 28 | 25 | 6.946 | 柱痕 | | >SD6007，P6094 | |
| 6012 | 17L23 17M3 | Ⅳ | 45 | 40 | 23 | 6.939 | 柱痕 | | | |
| 6013 | 17M12 | Ⅳ | 43 | 34 | 37 | 6.587 | 柱痕 | | >SD6007 | |
| 6014 | 17M16 | Ⅳ | 32 | 29 | 11 | 7.040 | 単層 | | | |
| 6015 | 17M16 | Ⅳ | 25 | 23 | 37 | 6.816 | 柱痕 | | >SD6007 | |
| 6016 | 17M16 | Ⅳ | (27) | (23) | 29 | 6.865 | 水平 | | | |
| 6017 | 17L23・24 | Ⅳ | 40 | 38 | 32 | 6.856 | 柱痕 | | | |
| 6018 | 17M8 | Ⅳ | 42 | 39 | 29 | 6.879 | 柱痕 | | >SD6007，P6094 | |
| 6019 | 16M9 | Ⅳ | 34 | (31) | 27 | 6.936 | 柱痕 | | | |
| 6020 | 16L24・25 | Ⅳ | 38 | 34 | 46 | 6.730 | 単層 | | | |
| 6021 | 16L19・20・24・25 | Ⅳ | 32 | 31 | 45 | 6.711 | 柱痕 | | | |
| 6023 | 17L13・18 | Ⅳ | 49 | 44 | 33 | 6.830 | 柱痕 | | | |
| 6027 | 17L6・7 | Ⅳ | 47 | 45 | 25 | 6.919 | 柱痕 | | | |
| 6028 | 17M3・4 | Ⅳ | 37 | 32 | 35 | 6.818 | 柱痕 | | | |
| 6029 | 17M8 | Ⅳ | 41 | 35 | 32 | 6.843 | 単層 | | | |
| 6030 | 17L9・10 | Ⅳ | 37 | 34 | 22 | 6.916 | 柱痕 | | | |
| 6031 | 17M7・12 | Ⅳ | (56) | (28) | 21 | 7.006 | 単層 | | | |
| 6032 | 16L25 | Ⅳ | (23) | 22 | 15 | 6.990 | 柱痕 | | <P6033 | |
| 6033 | 16L25 | Ⅳ | 31 | 23 | 28 | 6.879 | 柱痕 | | >P6032 | |
| 6034 | 17L23 | Ⅳ | 61 | 46 | 47 | 6.672 | 単層 | | | |
| 6038 | 17L7 | Ⅳ | 46 | 30 | 23 | 6.948 | 柱痕 | | | |
| 6040 | 17L8・9 | Ⅳ | (39) | 54 | 26 | 6.886 | 単層 | | <P6037（SB6035） | |
| 6041 | 17L16・17 | Ⅳ | 31 | 21 | 24 | 6.956 | 単層 | | | |
| 6043 | 17M14 | Ⅳ | 50 | 46 | 29 | 6.844 | レンズ状・水平 | | | |
| 6044 | 16L15・20 | Ⅳ | 34 | 31 | 18 | 7.705 | 柱痕 | | | |
| 6045 | 17L17・22 | Ⅳ | 33 | 29 | 13 | 7.040 | 柱痕 | | | |
| 6047 | 17L2・6・7 | Ⅳ | 51 | 44 | 34 | 6.842 | 柱痕 | | >P6046（SB6035） | |
| 6062 | 17L12・13 | Ⅳ | 28 | 24 | 31 | 6.840 | 柱痕 | | | |
| 6066 | 17L21 | Ⅳ | 29 | 26 | 16 | 7.033 | レンズ状 | | | |
| 6067 | 16L20 17L16 | Ⅳ | 32 | 31 | 45 | 6.711 | 柱痕 | | | |
| 6074 | 16L19・20 | Ⅳ | 30 | 27 | 32 | 6.938 | 単層 | | | |
| 6075 | 17K22 17L2 | Ⅳ | 50 | 39 | 17 | 6.976 | 柱痕 | | | |
| 6078 | 17L6 | Ⅳ | 44 | 38 | 22 | 6.946 | 柱痕 | | | |
| 6081 | 16L10 | Ⅳ | 22 | 20 | 20 | 6.934 | 柱痕 | | | |
| 6090 | 17L1 | Ⅳ | 71 | 57 | 48 | 6.668 | 柱痕 | | | |
| 6091 | 17L1 | Ⅳ | 43 | 42 | 31 | 6.799 | 柱痕 | | | |
| 6092 | 17L8・13 | Ⅳ | 45 | 41 | 39 | 6.762 | 柱痕 | | | |
| 6093 | 16L20 | Ⅳ | (68) | 74 | 44 | 6.822 | レンズ状 | | <P6049（SB6035） | |
| 6094 | 17M8 | Ⅳ | 39 | (27) | 20 | 6.968 | レンズ状 | | <P6011・6018<br>>SD6007 | |
| 6097 | 17L17 | Ⅳ | 19 | 19 | 5 | 6.970 | 単層 | | | |
| 6125 | 17L24 | Ⅳ | (30) | (29) | 19 | 6.976 | 単層 | | <SK6024 | |
| 6126 | 17L24 | Ⅳ | 59 | 39 | 44 | 6.717 | 単層 | | >SK6024，P6127 | |
| 6127 | 17L24 | Ⅳ | (20) | (15) | 32 | 6.815 | 単層 | | <SK6024，P6126 | |
| 6128 | 17L24 17M4 | Ⅳ | 30 | 29 | 17 | 6.967 | 単層 | | >SK6024 | |
| 6154 | 17L24 | Ⅳ | (28) | (24) | 24 | 6.921 | 単層 | | <SK6024 | |
| 6155 | 17L24 | Ⅳ | (27) | (28) | 20 | 6.952 | 柱痕 | | <SK6024 | |
| 6156 | 17L24 | Ⅳ | (26) | (22) | 25 | 6.906 | 柱痕 | | <SK6024 | |
| 6196 | 17L25 17M5 | Ⅳ | 21 | 17 | 27 | 6,843 | － | | | |
| 6233 | 17L20 | Ⅳ | 41 | 35 | 44 | 6.645 | 柱痕 | | >SE6006 | |
| 6234 | 17L20 | Ⅳ | 30 | 28 | 25 | 6.833 | レンズ状 | | >SE6006 | |
| (1) | 18L6 | Ⅳ | 22 | 20 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (2) | 18L6 | Ⅳ | (19) | 22 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (3) | 18L11 | Ⅳ | (16) | (14) | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (4) | 18L17 | Ⅳ | 24 | 21 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (5) | 18L17 | Ⅳ | 29 | 23 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (6) | 18L17 | Ⅳ | 33 | (17) | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (7) | 18L17 | Ⅳ | (29) | 32 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (8) | 18L17 | Ⅳ | (30) | 24 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (9) | 18L22・23 | Ⅳ | 27 | 22 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (10) | 18L23 | Ⅳ | (28) | 52 | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |
| (11) | 18L23 | Ⅳ | (19) | (19) | － | － | － | | | 拡張区。遺構検出まで。 |

## N 区　土坑（SK）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 形態 | | | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 平面 | 縦断面 | 立ち上がり | 上端長径 | 上端短径 | 下端長径 | 下端短径 | 深度 | | | | | |
| 6008 | 17L15 | Ⅳ | 楕円形 | 半円状 | 急斜度 | 91 | 46 | 58 | 38 | 40 | 6.692 | レンズ状 | N-7°-E | | >SD6007 |
| 6009 | 17L14・15・19・20 | Ⅳ | 楕円形 | 半円状 | 急斜度 | 157 | 117 | 88 | 65 | 60 | 6.545 | レンズ状 | N-28°-E | 青磁椀46 | >SD6007 |
| 6010 | 17M2・7 | Ⅳ | 楕円形 | 半円状 | 急斜度 | 86 | 60 | 52 | 28 | 28 | 6.923 | レンズ状 | N-41°-W | | |
| 6024 | 17L24・25 17M4 | Ⅳ | 方形 | 台形状 | 急斜度 | (170) | 172 | 151 | 152 | 23 | 6.935 | 水平 | N-39°-W | | <SD3066，SK6096，P6126・6128<br>>SD6007，P6125・6127・6154・6155・6156 |
| 6077 | 17L8・9 | Ⅳ | 長方形 | 台形状 | 緩やか | 146 | 55 | 105 | 33 | 17 | 7.037 | レンズ状 | N-43°-E | 鉄滓 | |
| 6096 | 17L24・25 17M4・5 | Ⅳ | 方形 | 半円状 | 急斜度 | 124 | 121 | 58 | 53 | 35 | 6.802 | レンズ状 | N-28°-E | | >SK6024<br><SD3066 |

## N 区　溝（SD）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長さ | 上端幅 | 下端長さ | 下端幅 | 深度 | | | | | |
| 3066 | 17M21-18L11 | Ⅳ | （1893） | 72 ～ 107<br>SPA ～ A' 72 | （1089） | 34 ～ 58<br>SPA ～ A' 34 | 17 ～ 33 | 6.821 ～ 6.916 | N-31° -E | 土師質土器椀47 皿48 青磁椀49 珠洲焼壺50 鉄釘 | >SE6006，SK6024・6096 | E区SD3066と同一遺構。 |
| 3069 | 16M3-16L5 | Ⅳ | （1161） | 39 ～ 75<br>SPA ～ A' 40 | （1117） | 18 ～ 31<br>SPA ～ A' 19 | 5 ～ 28 | 6.942 ～ 7.035 | N-26° -E | | | E区SD3069・3073と同一遺構。 |
| 6007 | 16M25-17L10、18L6 | Ⅳ | （1964） | 65 ～ 106<br>SPA ～ A' 104 | （2001） | 42 ～ 75<br>SPA ～ A' 75 | 14 ～ 34 | 6.890 ～ 6.976 | N-28° -E | 土師質土器 | <SK6008・6009・6024，P6011・6013・6015・6018・6094 | |

## N 区　井戸（SE）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 形態 | | | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 平面 | 断面 | 立ち上がり | 上端長径 | 上端短径 | 下端長径 | 下端短径 | 深度 | | | | | |
| 6006 | 17L20・25<br>18L11・16・21 | Ⅳ | 方形 | 漏斗状 | 垂直 | 288 | 245 | 62 | 59 | 220 | 4.913 | レンズ状 | N-29 -W | 土師質土器小皿43・44 珠洲焼片口鉢45 砥石66 種子 曲物71 木杭70 | <SD3066，P6233・6234 |

## O 区　溝（SD）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | | | 底面標高（m） | 主軸方向 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上端長さ | 上端幅 | 下端長さ | 下端幅 | 深度 | | | | | |
| 6051 | 15Q1・2-15P3 | Ⅳ | （806） | 43 ～ 60<br>SPA ～ A' 43 | （798） | 20 ～ 36<br>SPA ～ A' 20 | 11 ～ 18 | 6.971 ～ 7.043 | N-22° -E | 土師器甕 | <SD6052・6053・6054 | E区SD3066及びN区SD3066と同一の可能性あり |
| 6052 | 15P16・21-15P3 | Ⅳ | （792） | 45 ～ 68<br>SPA ～ A' 56 | （792） | 19 ～ 44<br>SPA ～ A' 31 | 8 ～ 10 | 7.080 ～ 7.139 | N-26° -E | 土師質土器 | >SD6051<br><SD6053 | N区SD6007と同一の可能性あり |
| 6053 | 15Q3-15P16 | Ⅳ | （451） | 25 ～ 38<br>SPA ～ A' 56 | （435） | 11 ～ 17<br>SPA ～ A' 18 | 10 ～ 15 | 7.029 ～ 7.053 | N-52° -W | 珠洲焼擂鉢52 | >SD6051・6052 | |
| 6054 | 15Q1-14O9 | Ⅳ | （1927） | 78 ～ 184<br>SPA ～ A' 155<br>SPB ～ B' 90 | （1923） | 40 ～ 83<br>SPA ～ A' 67<br>SPB ～ B' 52 | 20 ～ 31 | 6.851 ～ 6.946 | N-13° -W | 土師質土器皿53・55・61 小皿54・56 ～ 60・62 ～ 64 砥石67 須恵器 | >SD6051・6058，P6085<br><SD6057 | E区SD3061と同一遺構。J区SD5603と同一の可能性あり。 |
| 6055 | 14Q4・5-14P9 | Ⅳ | （663） | 44 ～ 71<br>SPA ～ A' 49 | （657） | 20 ～ 40<br>SPA ～ A' 25 | 6 ～ 15 | 7.044 ～ 7.134 | N-10° -W | | <SD6057 | |
| 6056 | 14P16-14P9 | Ⅳ | （709） | 34 ～ 59<br>SPA ～ A' 40 | （700） | 17 ～ 37<br>SPA ～ A' 28 | 7 ～ 12 | 7.097 ～ 7.152 | N-42° -E | | <SD6057 | |
| 6057 | 14P1-15P21 | Ⅳ | 1332 | 29 ～ 58<br>SPA ～ A' 53 | 1305 | 9 ～ 27<br>SPA ～ A' 21 | 6 ～ 18 | 7.005 ～ 7.125 | N-50° -W | | >SD6054・6055・6056 | |
| 6058 | 14O14-15O16 | Ⅳ | （431） | 68 ～ 108<br>SPA ～ A' 91 | （430） | 23 ～ 80<br>SPA ～ A' 74 | 13 ～ 19 | 6.894 ～ 6.996 | N-75° -W | | <SD6054 | |

## O 区　ピット（P）観察表

| 遺構番号 | グリッド | 検出層位 | 規模（cm） | | | 底面標高（m） | 埋土堆積 | 出土遺物 | 切り合い | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 長径 | 短径 | 深度 | | | | | |
| 6080 | 15P7 | Ⅳ | 72 | 66 | 50 | 6.686 | 水平 | 土師質土器 | | |
| 6082 | 14O12・17 | Ⅳ | 48 | 38 | 19 | 6.964 | 水平 | | | |
| 6083 | 15P9 | Ⅳ | （49） | （25） | 18 | 7.017 | 水平 | | | |
| 6085 | 14P4 | Ⅳ | 35 | 32 | 26 | 6.925 | レンズ状 | | <SD6054 | |
| 6086 | 15P9 | Ⅳ | （32） | （25） | 26 | 6.960 | レンズ状 | | | |

## 古墳時代の土器観察表（1）

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | 口縁部残存率 | 底部残存率 | 外面色調 | 内面色調 | 焼成 | 胎土 | 外面調整 | 内面調整 | 底部調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | | | | | |
| 1 | M区 | 23X<br>23Y<br>24Y | SK6227<br>SK6231<br>SD6232 | 1<br>1<br>1 | 土師器 | 壺 | | | (4.7) | | | 7.5YR7/4<br>にぶい橙 | 7.5YR7/4<br>にぶい橙 | 良好 | φ0.5～4mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。φ1～3mmのチャート・金雲母を含む。 | ヘラミガキ | 肩部：ケズリ | | 全体に風化著しい。 |
| 2 | M区 | 23X<br>23Y<br>24Y | SK6227<br>SK6231<br>SD6232 | 1 | 土師器 | 壺 | | | | | 12/36 | 7.5YR7/2<br>明褐灰 | N3/0<br>暗灰 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫(石英・長石)を多量に含む。 | ハケメ・ナデ | ヘラナデ | ナデ | 同一個体あり。 |
| 3 | M区 | 23Y<br>24Y | SK6231 | 1 | 土師器 | 器台か鉢の脚部 | | (11.2) | (3.2) | 6/36 | | 10YR8/2<br>灰白 | 10YR8/2<br>灰白 | 良好 | φ1～3mmの亜角礫(石英･長石･雲母?)多量に含む。 | 不明 | 裾部：ケズリ<br>他：不明 | | 風化著しい。 |
| 4 | M区 | 23Y<br>24Yレンチ3 | SK6231 | 1 | 土師器 | 器台か鉢の脚部 | | (10.0) | (3.2) | 7/36 | | 5YR7/6<br>橙 | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 良好 | φ1～2mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。 | ハケメのちナデ・ヨコナデ | ヨコナデ | | 内面風化 |
| 5 | M区 | 23Y<br>24Y<br>(24Z)<br>トレンチ2 | SK6231 | 1<br>V | 土師器 | 鉢 | (15.2) | 2.0 | 8.9 | 6/36 | 36/36 | 5YR7/4<br>にぶい橙 | 7.5YR7/4<br>にぶい橙 | 良好 | φ0.5～5mm亜角礫(石英・長石・角閃石・雲母)を多量に含む。 | 上半：不明<br>下半：ケズリ | 口：不明 頸：ユビオサエ<br>体：ユビナデ | ケズリ | 全体に風化著しい。同一個体あり。 |
| 6 | M区 | 23Y<br>24Y東西ベルトセクションNo3 | SK6231 | 1<br>V | 土師器 | 鉢 | (16.0) | 2.6 | | 5/36 | 36/36 | 7.5YR7/4<br>にぶい橙 | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。φ1mmの金雲母を含む。 | 不明 | 不明 | ケズリ | 全体に風化著しい。黒斑あり。 |
| 7 | M区 | 23Y<br>24Yトレンチ3 | SK6231 | 1 | 土師器 | 有孔鉢 | (17.2) | 1.6 | 10.5 | 4/36 | 12/36 | 2.5YR7/6<br>橙 | 5YR7/4<br>にぶい橙 | 良好 | φ0.5～5mmの亜角礫(長石・石英・流紋岩)を多量に含む。 | 口：ヨコナデ<br>他：不明 | 口：ヨコナデ<br>他：不明 | 不明 | 全体に風化著しい。同一個体あり。 |
| 8 | M区 | 23Y<br>24Y | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | 15.2 | | (12.7) | 31/36 | | 5YR8/3<br>淡橙 | 5YR8/3<br>淡橙 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。 | 口：ヨコナデ<br>体：ハケメ | 口：ヨコナデ<br>体：ハケメ | | 全体に風化著しい。外面スス・コゲ |
| 9 | M区 | 23Y<br>24Y東西ベルトNo4 | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (19.4) | | (6.8) | 6/36 | | 5YR7/3<br>にぶい橙 | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 良好 | φ1～3mmの亜角礫(石英・長石・金雲母・頁岩?・流紋岩?・赤色粒子)を多量に含む。 | ユビオサエ | ユビオサエ | | 風化著しい。 |
| 10 | M区 | 23Y<br>24Yトレンチ3・東西ベルトトレンチ1 | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (17.0) | | 推定<br>8.0 | 6/36 | | 5YR7/4<br>にぶい橙 | 10YR7/2<br>にぶい黄橙 | 良好 | φ1～3mmの亜角礫(石英・長石)を多量に含む。黒雲母・赤色粒子を少量含む。 | 不明 | 頸：ケズリ<br>他不明 | | 風化著しい。 |
| 11 | M区 | 23Y<br>24Y | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | 12.1 | | (9.1) | 33/36 | | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 7.5YR8/1<br>灰白 | 良好 | φ0.5～4mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。流紋岩?を含む。 | 口：ヨコナデ<br>体：ヘラナデ | 口：ヨコナデ<br>体：ヘラナデ | | |
| 12 | M区 | 23Y<br>24Y南北ベルト | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (17.0) | | (2.0) | 6/36 | | | | 良好 | φ1～4mmの亜角礫(長石・石英・角閃石・金雲母)を多量に含む | ヨコナデ | ヨコナデ | | 部分的に風化 |
| 13 | M区 | 23Y<br>24Y南北ベルトNo2・3 | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (18.0) | | (2.4) | 6/36 | | 10YR8/3<br>浅黄橙 | 10YR7/4<br>にぶい黄橙 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫(石英・長石・流紋岩)を多量に含む。 | 口：ヨコナデ<br>体：不明 | 口：ヨコナデ<br>頸：ヘラナデ | | 全体に風化 |
| 14 | M区 | 23Y<br>24Yトレンチ3 | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (19.8) | | (0.9) | 4/36 | | 5YR7/4<br>にぶい橙 | 5YR7/1<br>明褐灰 | 良好 | φ1～4mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。雲母･赤色粒子を含む。 | 不明 | 不明 | | 風化著しい。 |
| 15 | M区 | 23Y<br>24Yトレンチ3 | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | (20.0) | | (3.5) | 6/36 | | 10YR8/3<br>浅黄橙 | 7.5YR8/6<br>浅黄橙 | 良好 | φ1～6mmの円礫(石英・長石)を多量に含む。 | 不明 | 不明 | | 全体に風化著しい。 |
| 16 | M区 | 23Y<br>24Y | SK6231 | 1 | 土師器 | 甕 | | 2.2 | (8.0) | | 36/36 | 2.5YR5/6<br>明赤褐 | N5/0<br>灰 | 良好 | φ0.5～5mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。φ1～3mmの黒雲母・流紋岩チャートを含む。 | ケズリ | 不明 | ケズリ | 全体に風化著しい。 |
| 17 | M区 | 23X・Y<br>24Y | SD6187 | 1 | 土師器 | 有孔鉢 | | 2.2 | (4.3) | | 36/36 | 5YR8/3<br>淡橙 | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。金雲母を含む。 | ハケメのちケズリ | ハケメのちヘラナデ | ナデ | 底部焼成前穿孔（旧SD6216） |
| 18 | M区 | 24Y | SD6232 | 1 | 土師器 | 器台 | 9.8 | (11.3) | 8.2 | 33/36 | 4/36 | 7.5YR8/6<br>浅黄橙 | 7.5YR8/6<br>浅黄橙 | 良好 | φ0.5～7mmの亜角礫(長石・石英)を多量に含む。φ0.5～2mmの流紋岩・赤色粒子を含む。 | 風化、一部ヘラミガキ痕 | 脚部:ハケメ･ナデ | | 風化著しい。 |
| 19 | M区 | 24Y | SD6232 | 1 | 土師器 | 壺 | | 6.2 | (3.6) | | 36/36 | 5YR7/6<br>橙 | N6/0<br>灰 | 良好 | φ1～6mm(石英･長石)多量に含む。赤褐色粒子を少量含む。 | ハケメ | 不明 | 不明 | 全体に風化著しい。 |
| 20 | M区 | 24Y | SD6232 | 1 | 土師器 | 甕 | (18.0) | | (1.7) | 5/36 | | 7.5YR8/3<br>浅黄橙 | 7.5YR8/2<br>灰白 | | φ1～6mmの円粒(石英・長石・金雲母・流紋岩・褐色粒)を含む。 | ヨコナデ | 口：ヨコナデ<br>頸：ハケメ・ナデ | | 内面風化 |
| 21 | M区 | 24X22 | | カクラン | 土師器 | 高杯 | | | (3.5) | | | 10YR8/2<br>灰白 | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 良好 | 精良、φ1～3mmの亜角礫(石英・長石・メノウ)を含む。 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | | 外面風化・ハクリ |
| | M区 | 23Y10 | | V | 土師器 | 壺 | | 5.0 | (2.3) | | 27/36 | 7.5YR7/1<br>明褐灰 | 7.5YR8/2<br>灰白 | 良好 | φ0.5～3mmの円礫(石英・長石・角閃石)を含む。 | ナデ・ヘラミガキ | ナデ・ヨコハケメのちヘラミガキ | ナデ | |
| 23 | M区 | 23X24 | | V | 土師器 | 甕 | (18.0) | | (1.8) | 3/36 | | 5YR5/3<br>にぶい赤褐 | 7.5YR7/3<br>にぶい橙 | 良好 | φ1～3mmの亜角礫(石英・長石・金雲母・流紋岩?)を多量に含む。 | ヨコナデ | 口端：ヨコナデ・ヨコハケメ | | 布留甕模倣か天王山系? |

## 古墳時代の土器観察表（2）

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | 口縁部残存率 | 底部残存率 | 外面色調 | 内面色調 | 焼成 | 胎土 | 外面調整 | 内面調整 | 底部調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | | | | | |
| 24 | M区 | 23X12・19 | | V | 土師器 | 甕 | (20.0) | | (2.9) | 4/36 | | 7.5YR6/3 にぶい橙 | 7.5YR4/1 褐灰 | 良好 (硬質) | φ1～3mmの亜角礫(石英・長石・角閃石)を多量に含む。赤色粒子を少量含む。 | 口：ナナメハケメのちヨコナデ 体：ハケメ | 口：ハケメのちヨコナデ・ケズリ 体：ハケメ | | |
| 25 | M区 | 24Y11 | | V | 土師器 | 甕 | (21.0) | | (3.7) | 4/36 | | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | 良好 | φ1～4mmの亜角礫(長石・石英・頁岩?・赤褐色粒子・流紋岩)を多量に含む。 | 不明 | 不明 | | 風化著しい。同一個体あり。 |

## 古代・中世の土器観察表（1）

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | 口縁部残存率 | 底部残存率 | 外面色調 | 内面色調 | 焼成 | 胎土 | 外面調整 | 内面調整 | 底部調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | | | | | |
| 26 | L区 | 26V24 | P6002 | 1 | 土師器 | 小甕 | | (7.6) | (1.5) | | 7/36 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/1 灰白 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角粒（長石・石英)を多量に含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | ナデ | 古代 |
| 27 | O区 | 15P7 | SD6051 | 1 | 土師器 | 長胴甕 | | | (2.6) | | | 5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/1 明褐灰 | 良好 | φ0.5～3mmの亜角礫（長石・石英)を多量に含む。φ4mm大の軽石を含む。 | 平行タタキ | 素文のあて具痕・ハケメ | | |
| 28 | M区 | 24Y9 | | V | 須恵器 | 無台杯 | | (8.0) | (1.0) | | 7/36 | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | やや不良 | 微小な白色粒子を多量に含む。微小な石英・赤色粒子を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | 小泊窯跡群産 |
| 29 | L区 | 26V | | Ⅱ | 須恵器 | 甕 | | | (2.4) | | | N7/ 灰白 | N7/ 灰白 | 良好 | 微小な長石･石英･白色粒子を含む。 | 格子目タタキのちカキメ | 同心円あて具痕 | | 小泊窯跡群産 |
| 30 | L区 | 26V | SD3015 | 1 | 瀬戸・美濃焼? | 平底末広椀か平椀? | (16.0) | | (1.8) | 1.5/36 | | 2.5Y8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | 良好 | 精良、微小な長石、黒色粒子を少量含む。 | ロクロナデ・施釉 | ロクロナデ・施釉 | | 中期様式か |
| 31 | L区 | 26V | SD3015 | 1 | 龍泉窯系青磁 | 小椀Ⅲ-1a類 | (9.0) | | (2.7) | 6/36 | | 7.5GY7/1 明緑灰 | 7.5GY7/1 明緑灰 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 13c中ごろ～14c初頭 |
| 32 | L区 | 26V | SD3015 | 1 | 龍泉窯系青磁 | 椀-Ⅱb類 | | (6.2) | (4.4) | | 8/36 | 5GY7/1 明オリーブ灰 | 5GY7/1 明オリーブ灰 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を含む。 | ロクロナデ→鎬連弁文 | ロクロナデ | ロクロナデ | 13c前半 |
| 33 | L区 | 26V | SD3015 | 1 | 龍泉窯系青磁 | 椀-Ⅱa類 | | | (4.0) | | | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 2.5GY6/1 オリーブ灰 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を含む。 | ロクロナデ・連弁文 | ロクロナデ | | 13c前半 |
| 34 | M区 | 24X22 | SB6249 P6197 | 1 | 瀬戸・美濃焼 | 小瓶か花瓶? | (12.0) | | (1.9) | 4/36 | | 10YR8/2 灰白 | 2.5Y8/2 灰白 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を含む。φ0.5～2mmの長石・石英を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 口縁部にオリーブ灰釉掛る。出土状況写真あり。中期様式か |
| 35 | M区 | 24Y10 | SK6223 | 1 | 瓷器系陶器 | 甕 | | | (4.9) | | | N3/0 暗灰 | N4/0 灰 | 良好 | φ0.5～4mmの長石・石英を多量に含む。 | ナデ・格子目スタンプ文 | 不明 | | 笹神窯産 13c末か |
| 36 | M区 | 24X21 | SD3007 | 1 | 土師質土器 | 皿 | | (7.6) | (1.2) | | 8/36 | | | | 精良、微小な長石･石英を少量含む。 | ナデ | ナデ | ナデ | 同心円状の押文有あり。手づくね成形 |
| 37 | M区 | 23Y10 | SD3007 | 1 | 珠洲焼 | 甕 | | | (3.3) | | | N7/0 灰白 | N7/0 灰白 | 良好 | 微小～3mmの長石･石英･凝灰岩?を含む。 | ロクロナデ・平行タタキ | ロクロナデ | | Ⅳ1期 |
| 38 | M区 | 23X19 | | V | 瀬戸・美濃焼? | 端反皿か | | (6.0) | (1.7) | | 5/36 | | | | 精良、微小な黒色粒子・長石を含む | ロクロナデ | ロクロナデ | ケズリ | 大窯Ⅳ期ころか |
| 39 | M区 | 24Y | | Ⅱ | 龍泉窯系青磁 | 椀-Ⅱa類 | | | (2.4) | | | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 2.5GY7/1 明オリーブ灰 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を少量含む。 | ロクロナデ・連弁文 | ロクロナデ | | 13c前半 |
| 40 | M区 | 24X | | 排土 | 須恵器系陶器 | 甕 | | | (5.7) | | | N4/0 灰 | N5/0 灰 | 良好 | 粗、φ0.5～4mmの長石・石英を多量に含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | 笹神窯産 |
| 41 | M区 | 25Z23 | | カクラン | 瓷器系陶器 | 甕 | | | (3.9) | | | N8/ 灰白 | 10YR6/2 灰黄褐 | 良好 | φ0.5～4mmの長石を多量に含む。 | ナデ | ユビオサエ・ナデ | | 笹神窯産 |
| 42 | N区 | 16L15 | SB6035 P6070 | 1 | 土師質土器 | 皿 | | (8.3) | (1.9) | | 5/36 | 5YR7/6 橙 | 5YR8/4 淡橙 | 良好 | φ0.5～2mmの長石・石英を多量に含む。雲母・メノウを含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 不明 | 内外面・断面スス・コゲ |
| 43 | N区 | 17L20 | SE6006 | 3 | 土師質土器 | 小皿 | (7.2) | (5.0) | 1.6 | 9/36 | 14/36 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 良好 | 精良、微小なチャート・雲母を少量含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | |
| 44 | N区 | 17L20 | SE6006 | 4 | 土師質土器 | 小皿 | | (6.0) | (0.3) | | 9/36 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 良好 | 微小な長石･石英･雲母多量に含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ・カキメ? | 糸切り | |
| 45 | N区 | 17L20 | SE6006 | 4 Ⅱ | 珠洲焼 | 片口鉢 | 29.0 | | (7.0) | | | N7/0 灰白 | N7/0 灰白 | 良好 | 微小な白色粒子・海綿骨針を多量に含む。φ1～3mmの石英・長石を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデのち卸目(19条) | | Ⅲ期 同一個体あり。口縁部砥石として転用。 |
| 46 | N区 | 17L14・15・19・20 | SK6009 | 1 | 龍泉窯系青磁 | 椀-Ⅱa類 | | | (1.4) | | | 10GY7/1 明緑灰 | 10GY7/1 明緑灰 | 良好 | 精良、黒色粒子を微量含む。 | ロクロナデ→連弁文→施釉 | ロクロナデ→施釉 | 良好 | 13c前半 |
| 47 | N区 | 17M | SD3066 | 1 | 土師質土器 | 椀 | | (6.0) | (2.0) | | 5/36 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 良好 | φ0.5～1mmの長石を多量に含む。φ4mm大の石英・金雲母を含む。 | | | | |
| 48 | N区 | 17M | SD3066 | 1 | 土師質土器 | 皿 | | | | | 7/36 | 5YR7/4 にぶい橙 | 5YR7/4 にぶい橙 | 良好 | φ0.5～2mmの亜角粒（長石・石英)を多量に含む。赤色粒子･金雲母･粘土粒を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | |
| 49 | N区 | 17M | SD3066 | 1 | 龍泉窯系青磁 | 椀-Ⅱb類 | | | (3.4) | | | 7.5GY8/1 明緑灰 | 7.5GY8/1 明緑灰 | 良好 | 精良、微小な黒色粒子を少量含む。 | ロクロナデ・鎬連弁文 | ロクロナデ | | 13c前半 |
| 50 | N区 | 17M | SD3066 | 1 | 珠洲焼 | T種壺 | (15.4) | | (3.3) | 2/36 | | N6/0 灰 | N6/0 灰 | 良好 | 粗、微小な長石・石英を多量に含む。炭化粒を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | Ⅲ期 |

## 古代・中世の土器観察表（2）

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | 口縁部残存率 | 底部残存率 | 外面色調 | 内面色調 | 焼成 | 胎土 | 外面調整 | 内面調整 | 底部調整 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | | | | | |
| 51 | N区 | 18N | | 表採 | 土師質土器 | 小皿 | | (6.0) | (1.2) | | 7/36 | 7.5YR7/2 明褐灰 | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 良好 | φ0.5～1mmの長石・石英・金雲母を多量に含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 外面タール付着 |
| 52 | O区 | 15P22 | SD6053 | 1 | 珠洲焼 | 片口鉢 | | | (4.0) | | | N7/0 灰白 | 7.5YR7/2 明褐灰 | やや不良 | 微小な白色・赤色粒子を多量含む。微小～4mmの長石・石英を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデのち卸目（7条） | | Ⅳ期 |
| 53 | O区 | 14P15 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 皿 | (12.2) | (8.0) | 4.2 | 1/36 | 10/36 | 5YR7/6 橙 | 5YR7/6 橙 | 良好 | 精良、微小な石英・雲母・角閃石・白色・赤色粒子を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | |
| 54 | O区 | 14P25 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 皿 | (12.0) | | (2.8) | 3/36 | | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 良好 | 精良、微小な角閃石・石英を僅かに含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 55 | O区 | 14P20 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 皿か | (11.0) | | (2.7) | 4/36 | | 5YR7/6 橙 | 2.5YR7/6 橙 | 良好 | 精良、微小な石英・白色粒子・金雲母を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | | |
| 56 | O区 | 14P20 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 皿 | | (7.6) | (1.1) | | 9/36 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR7/1 明褐灰 | 良好 | 精良、微小な石英・金雲母を少量含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラ切り | |
| 57 | O区 | 14P25 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (7.6) | (0.8) | | 7/36 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR6/2 灰褐 | 良好 | 精良、微小な白色粒子・石英・角閃石・海面骨針?を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | |
| 58 | O区 | 14P25 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (7.2) | (1.2) | | 7/36 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 良好 | 精良、微小な白色・赤色粒子・石英をわずかに含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | |
| 59 | O区 | 14P15 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (6.0) | (0.7) | | | 7.5YR7/4 にぶい橙 | 7.5YR6/4 にぶい橙 | 良好 | 精良、微小な白色・赤色粒子を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | |
| 60 | O区 | 14P15 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (6.0) | (0.9) | | 6/36 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | やや不良 | 精良、微小な石英・白色・赤色粒子を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 風化著しい。 |
| 61 | O区 | 14P20 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (5.4) | (1.0) | | 11/36 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 7.5YR8/3 浅黄橙 | 良好 | 精良、微小な石英・赤色粒子を僅かに含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | 風化著しい。 |
| 62 | O区 | 14P15 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | | (7.0) | (1.0) | | 3/36 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | 良好 | 精良、φ3mmの石英・微小な白色・赤色粒子を少量含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | 風化著しい。 |
| 63 | O区 | 14P25 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | (7.8) | (6.0) | 1.4 | | 11/36 | 7.5 YR7/3 にぶい橙 | 7.5YR8/4 浅黄橙 | | 精良、微小な白色・赤色粒子・石英をわずかに含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り（右） | |
| 64 | O区 | 14P25 | SD6054 | 1 | 土師質土器 | 小皿 | (8.0) | (6.8) | 2.1 | 4/36 | 3/36 | 7.5YR6/3 にぶい褐 | 7.5YR7/3 にぶい橙 | 良好 | 精良、微小な石英・白色粒子・赤色粒子・金雲母を含む。 | ロクロナデ | ロクロナデ | 糸切り | |

## 石製品・石器観察表

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構 | 層位 | 種類 | 器種 | 石材 | 法量（cm） | | | 重量（g） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 長さ（口径） | 幅（底径） | 厚さ（器高） | | |
| 65 | N区 | 16L | | 排土 | 石製品 | 鉢 | 砂岩 | | (13.8) | (4.7) | 185.0 | 内面スス・炭化物厚く付着。 |
| 66 | N区 | 17L20 | SE6006 | 8層 | 石器 | 砥石 | 凝灰岩 | (10.0) | (5.6) | (4.4) | 269.3 | |
| 67 | O区 | 14P20 | SD6054 | 1 | 石器 | 砥石 | 凝灰岩 | (3.8) | (2.2) | (1.2) | 9.9 | |

## 金属製品

| 報告No. | 地区 | グリッド | 遺構番号 | 層位 | 種類 | 器種 | 法量（cm） | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 長さ | 幅 | 重量（g） | |
| 68 | M区 | 24Y2 | SD6187 | 1層 | 鉄製品 | 鉄鏃 | (10.8) | 1.3 | 40.7 | 鑿ヵ |
| 69 | M区 | 25Y | P6166 | 1層 | 鉄製品 | 不明 | (7.2) | (0.9) | 12.9 | |

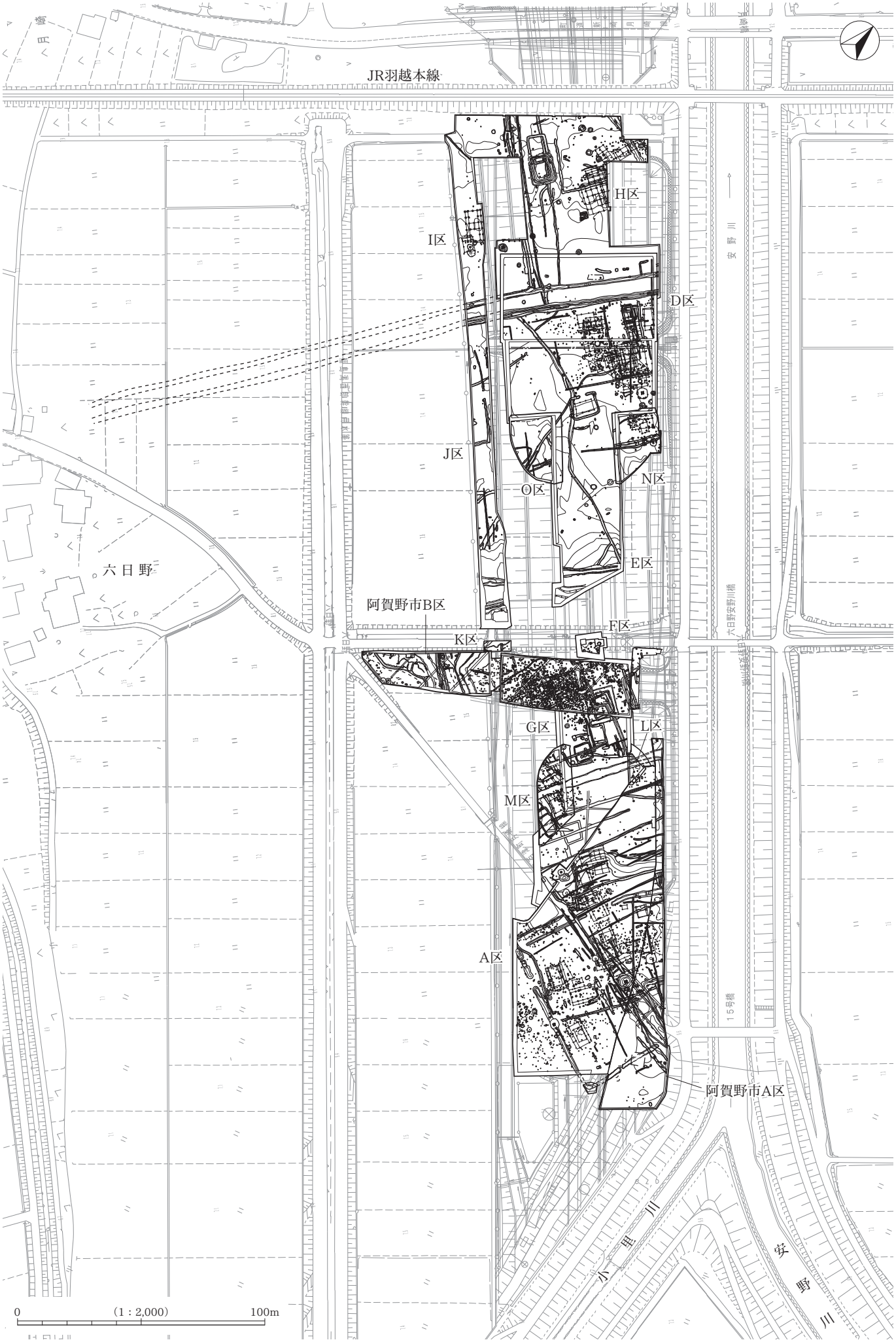
## 木製品観察表

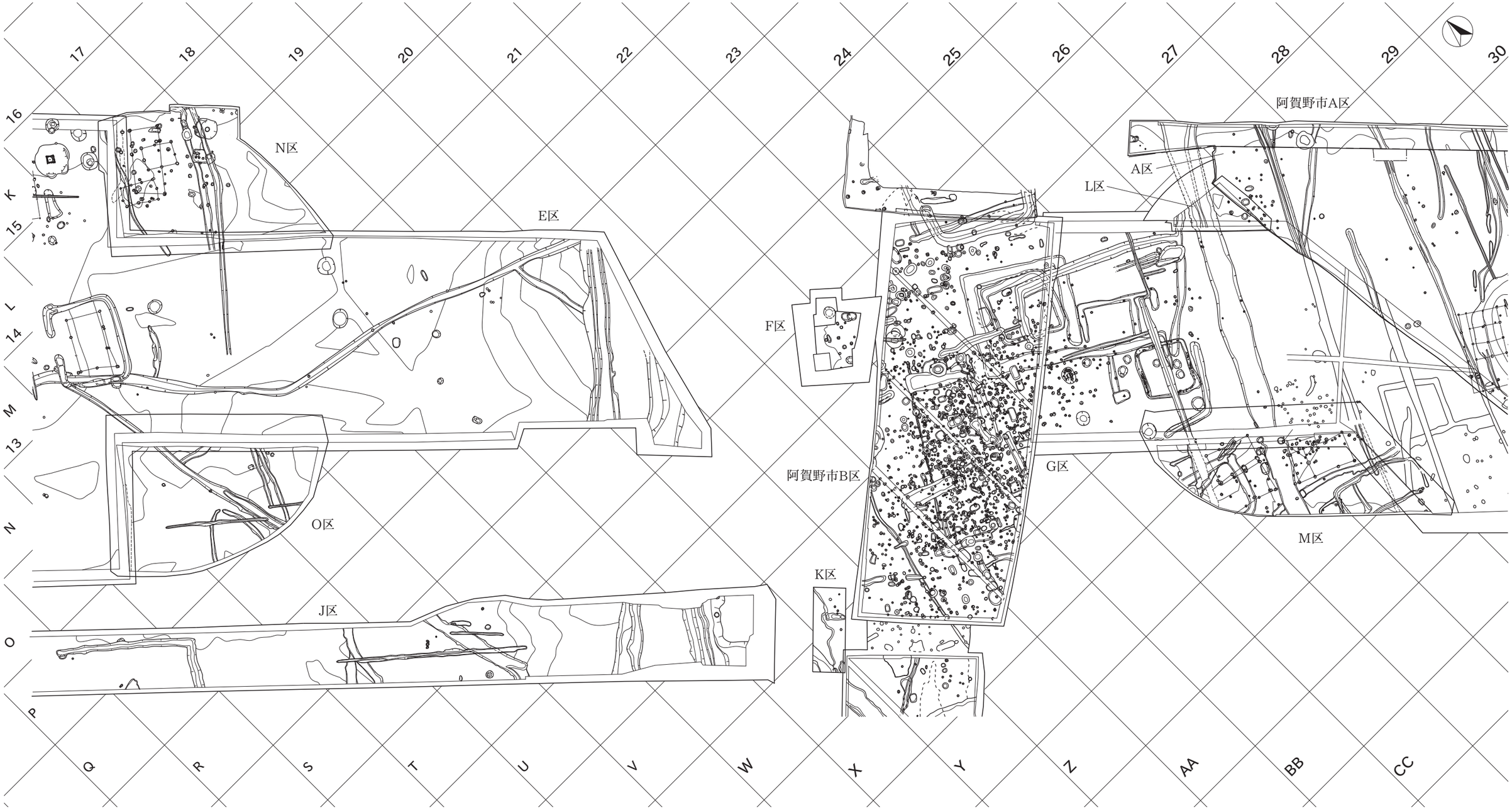
| 報告No. | グリッド | 遺構番号 | 層位 | 出土位置 | 分類 | 器種 | 細分名 | 木取り | 法量（cm） | | | 樹種 | 樹皮 | 加工・特徴等 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 現存長 | 直径（幅） | 厚さ | | | |
| 70 | 17L20 | SE6006 | | 東側 | 施設材 | 杭 | | 芯持ち | 30.7 | 4.3 | 4.5 | | ナシ | 先端部を加工。曲げ物水溜の固定に使用か。 |
| 71 | 17L20 | SE6006 | | | 容器 | 水溜 | 曲物 | 柾目 | 17.4 | 45.8 | 0.5 | スギ | ナシ | 全体に腐朽。内面ケビキ線、板を留める樺皮を残す（1列綴じ）。 |

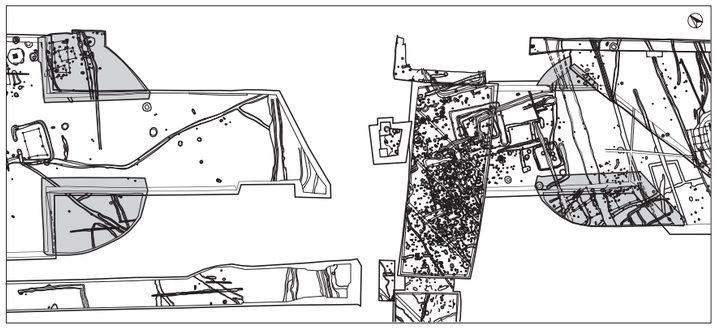
# 図　　版

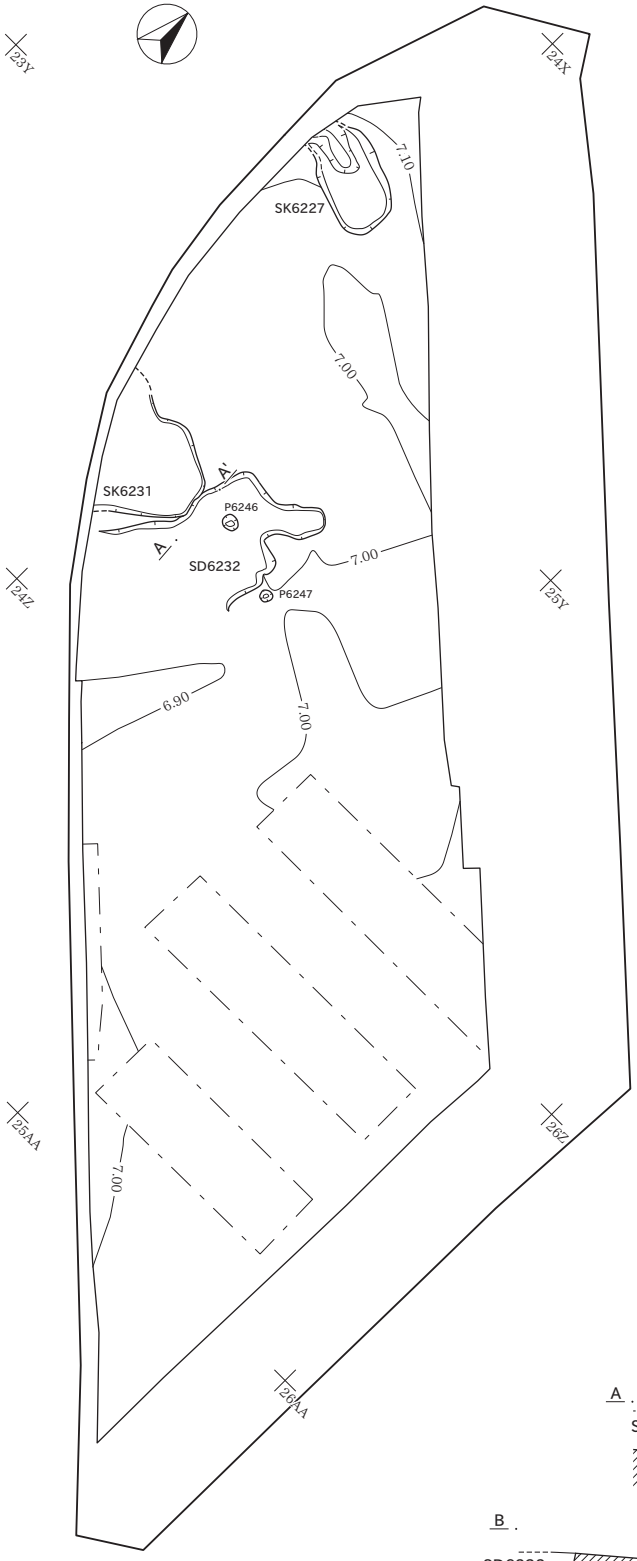
調査範囲図

図 版 1

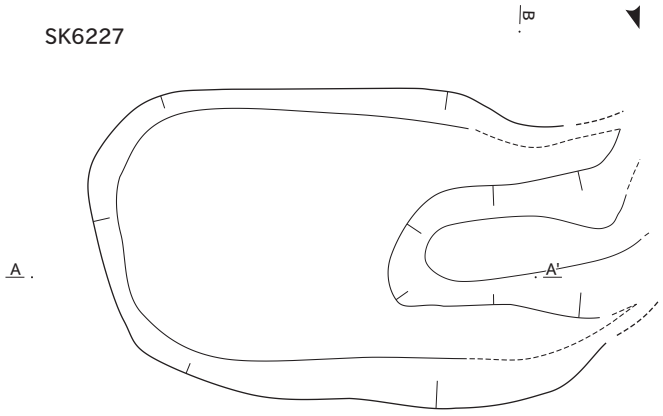

JR羽越本線
H区
I区
D区
J区
O区
N区
E区
六日野
阿賀野市B区
F区
K区
G区
L区
M区
A区
阿賀野市A区
安野川
小里川
0
(1：2,000)
100m

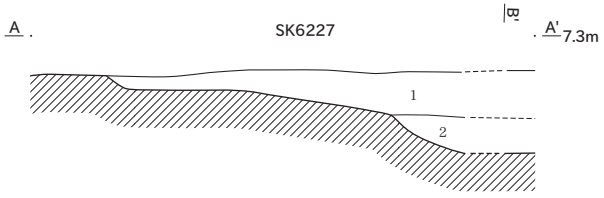

17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
16
K
15
L
14
M
13
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
AA
BB
CC
N区
E区
F区
阿賀野市A区
A区
L区
阿賀野市B区
G区
M区
K区
J区
O区
0
(1：500)
20m

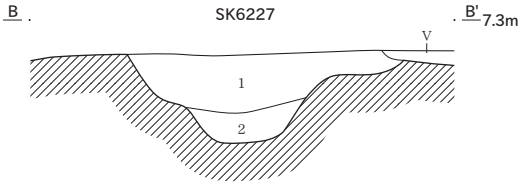




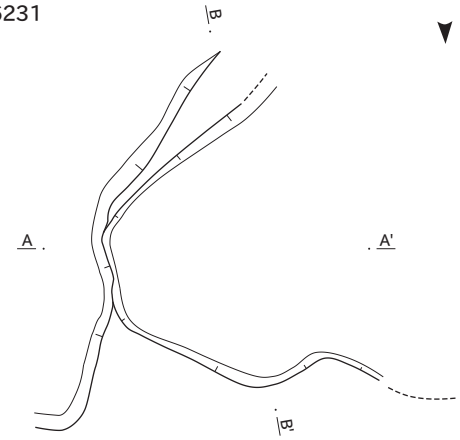

0　(1：200)　10m

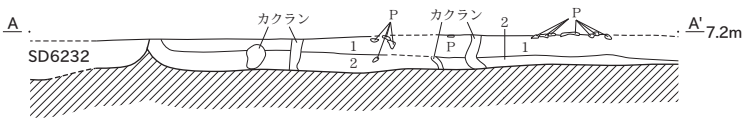


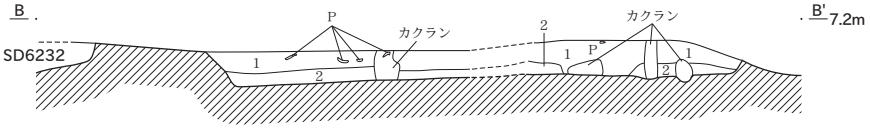



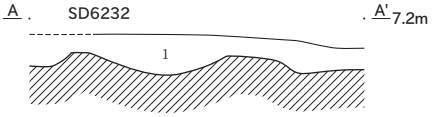




SK6227
1　2.5Y7/2灰黄色シルト　φ20mm以下の炭化物微量含む　粘性・しまり強い
2　2.5Y7/2灰黄色シルト　φ10mm以下の炭化物微量含む　粘性・しまり強い



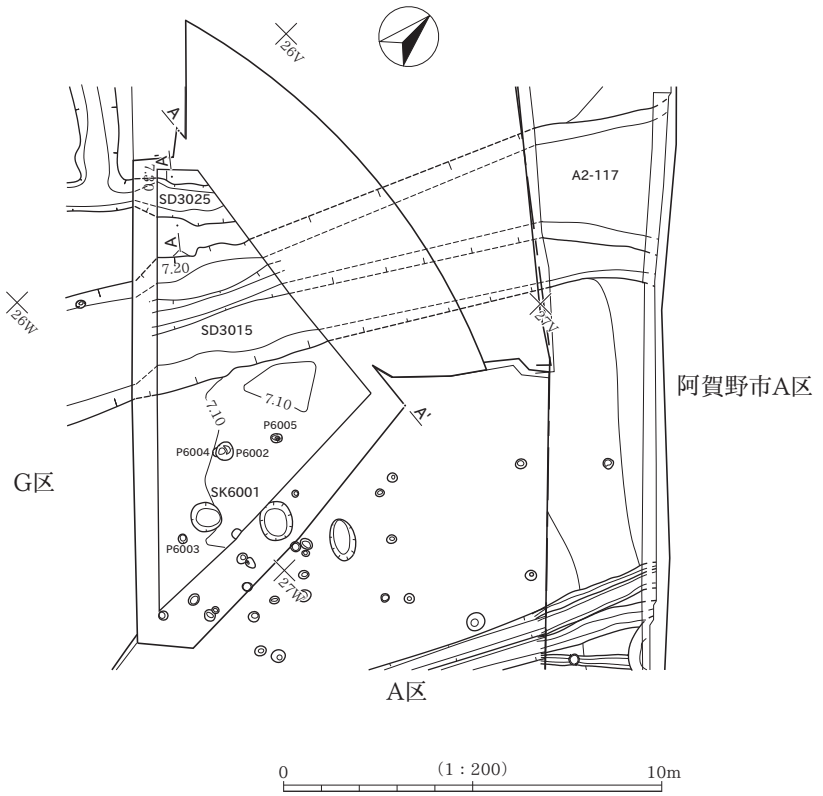



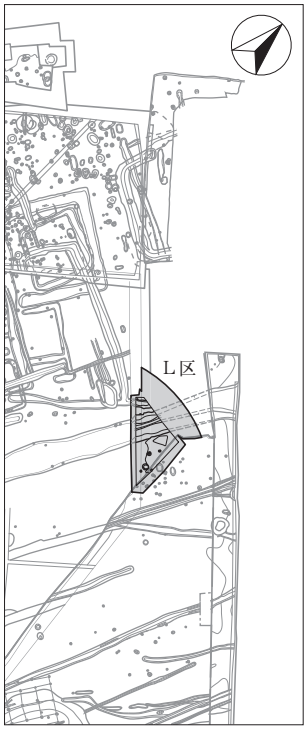



SK6231
1　2.5Y7/1灰白色シルト　φ20mm以下の炭化物中量含む
　　2.5Y6/1黄灰色シルト中ブロック中量含む　粘性有　しまり強い
2　2.5Y8/1灰白色シルト　φ20mm以下の炭化物少量含む
　　2.5Y6/1黄灰色シルト中ブロック少量含む　粘性有　しまり強い

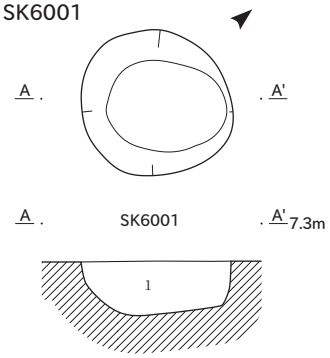
SD6232
1　2.5Y7/1灰白色シルト　2.5Y7/1灰白色シルト中ブロック少量含む
　　φ20mm以下の炭化物微量含む　粘性強い

0　(1：40)　2m



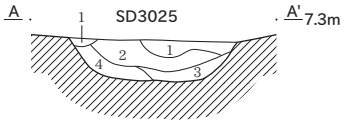




## SK6001




SK6001
1　7.5YR5/2灰褐色シルト　φ1～3mmの炭化物を微量含む
　マンガン粒を多量含む　φ10～20mmの地山ブロック多量含む
　粘性有　しまりやや強い

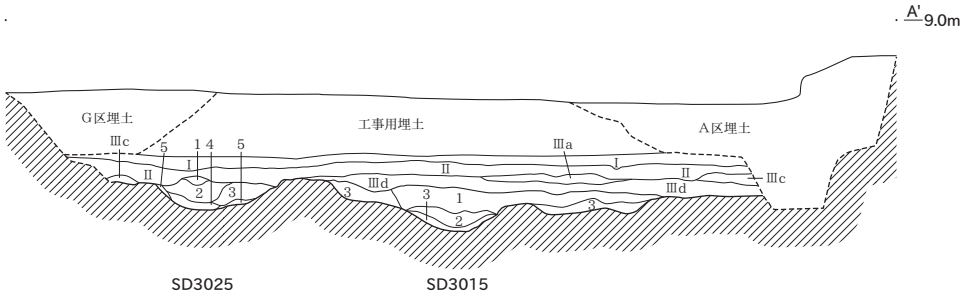
## SD3025




SD3025
1　10YR4/1褐灰色シルト　φ1mmの炭化物1％含む　マンガン粒を多く含む　粘性・しまり強い
2　7.5YR5/2灰褐色シルト　φ1～3mmの炭化物1％含む　地山小ブロックを少量含む
　マンガン粒を多量含む　粘性・しまり強い
3　10YR5/1褐灰色シルト　マンガン粒を少量含む　粘性・しまり強い
4　7.5YR5/2灰褐色シルト　地山ブロックを多量含む　マンガン粒を多量含む　粘性・しまり強い

0　(1：40)　2m

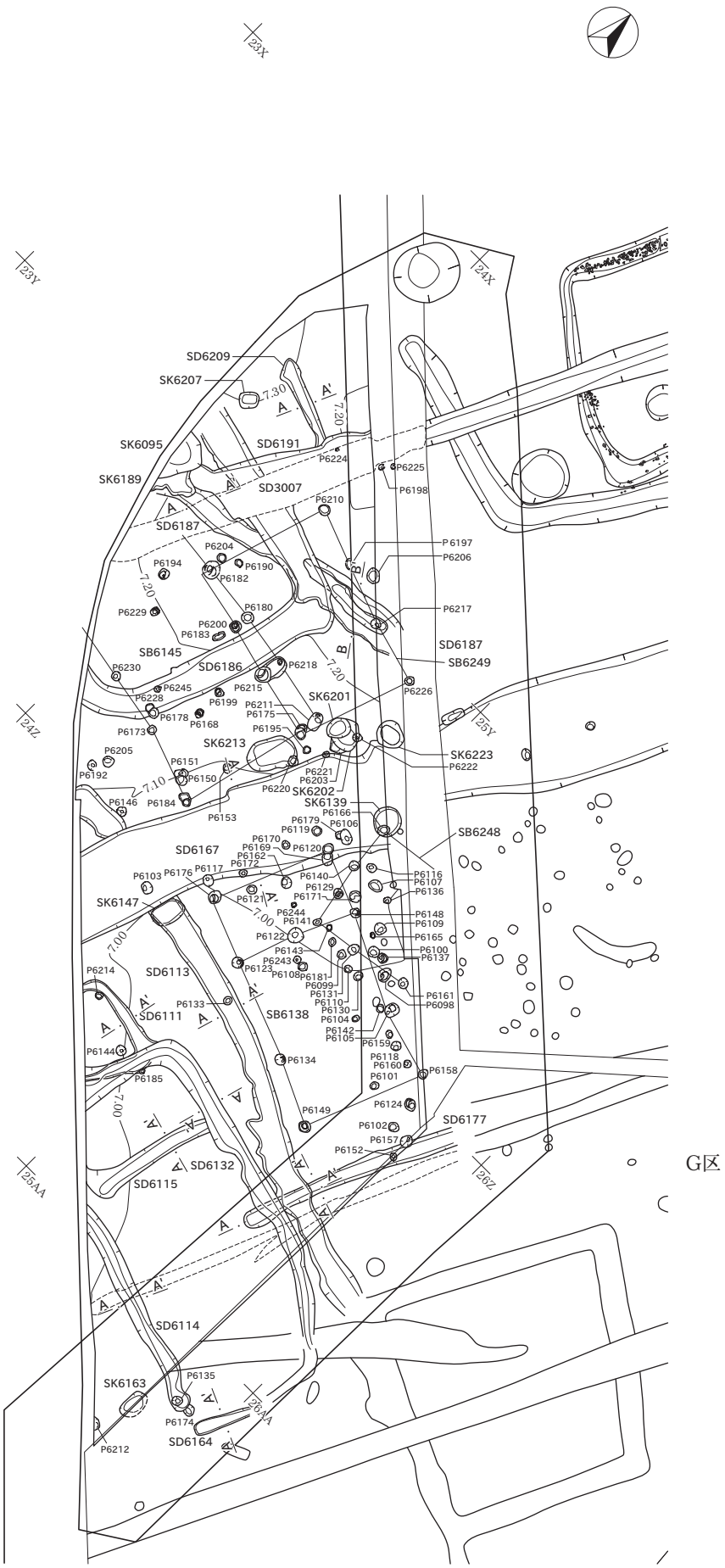
## SD3015・3025

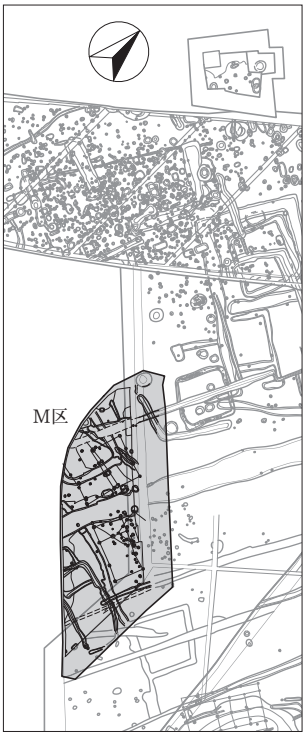



SD3015
1　5Y6/1灰色シルト　粘性強　しまり強　φ５mmの炭化物粒含む　遺物含有
2　7.5YR6/1褐灰色シルト　粘性強　しまり強　φ５mmの炭化物粒含む　遺物含有
3　10YR6/2灰黄褐色シルト　粘性強　しまり強　淡黄色シルト（2.5Y8/4）ブロック含む

SD3025
1　10YR4/1褐灰色シルト　φ1mmの炭化物1％含む　マンガン粒を多く含む　粘性・しまり強い
2　7.5YR5/2灰褐色シルト　φ1～3mmの炭化物1％含む　地山小ブロックを少量含む
　マンガン粒を多量含む　粘性・しまり強い
3　10YR5/1褐灰色シルト　マンガン粒を少量含む　粘性・しまり強い
4　7.5YR5/2灰褐色シルト　地山ブロックを多量含む　マンガン粒を多量含む　粘性・しまり強い
5　2.5Y7/2灰黄色シルト　淡黄色シルト（2.5Y8/4）ブロック含む　粘性・しまり強い

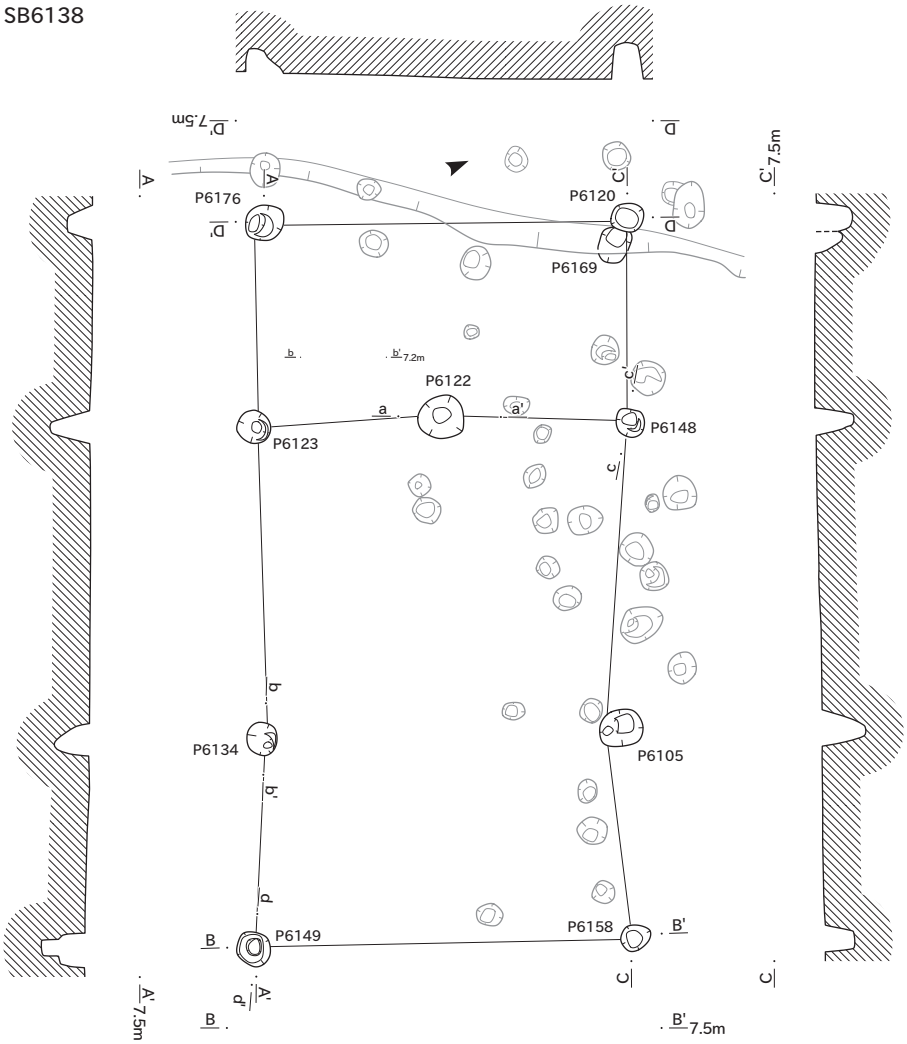
0　(1：80)　4m

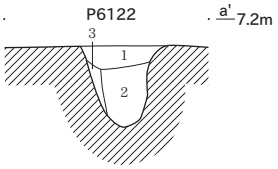

23X
23Y
24X
24Z
25Y
25AA
26Z
26AA
SD6209
SK6207
SK6095
SD6191
SK6189
SD3007
SD6187
SB6145
SD6186
SK6201
SK6213
SK6223
SK6202
SK6139
SB6248
SD6167
SK6147
SD6113
SD6111
SB6138
SD6177
SD6132
SD6115
SD6114
SK6163
SD6164
SB6249
G区


M区

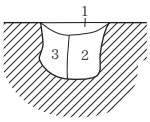
0　(1 : 200)　10m

## SB6138

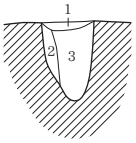


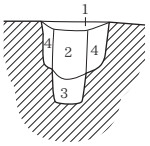

P6122
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　10YR5/1灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　10YR5/1灰黄褐色シルト
　φ2～5mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い




P6134
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR6/3にぶい黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い

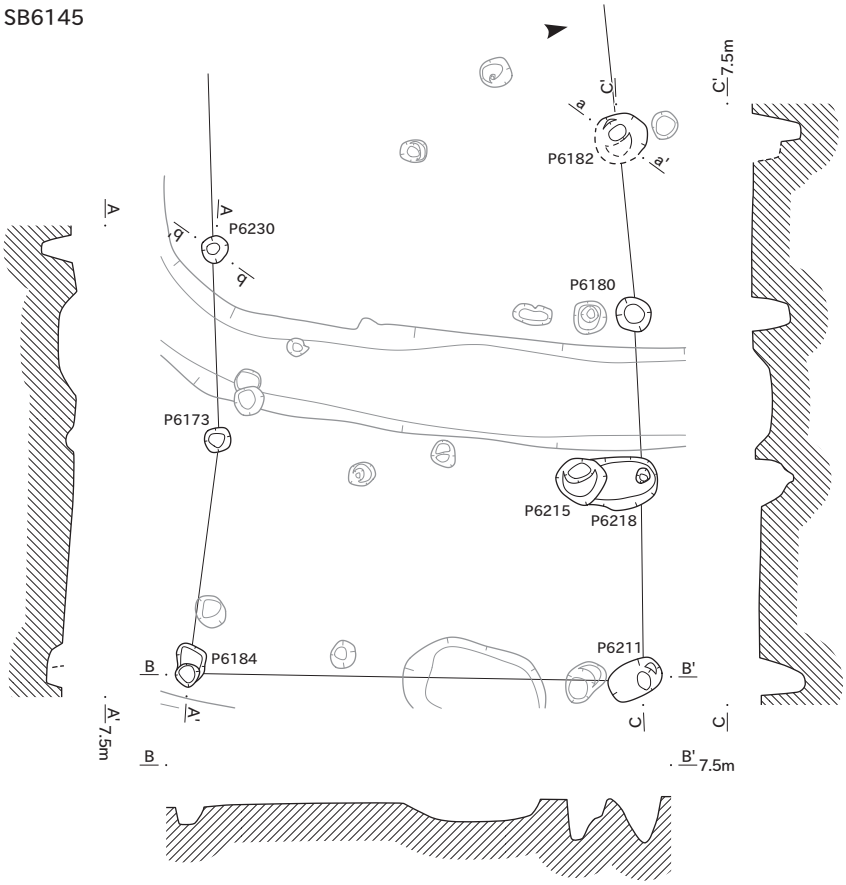


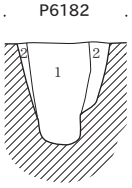

P6148
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　炭化物微量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR5/1褐灰色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　炭化物微量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ2～5mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い



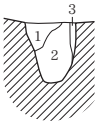

P6149
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　炭化物微量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR3/1黒褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
4　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ2～5mmブロック少量含む　炭化物微量含む　粘性有　しまり強い

## SB6145




P6182
1　10YR4/1褐灰色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック中量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR6/6明黄褐色シルト　10YR7/1灰白色シルト
　φ2～5mmブロック中量含む　地山小ブロック多量含む
　粘性有　しまり強い

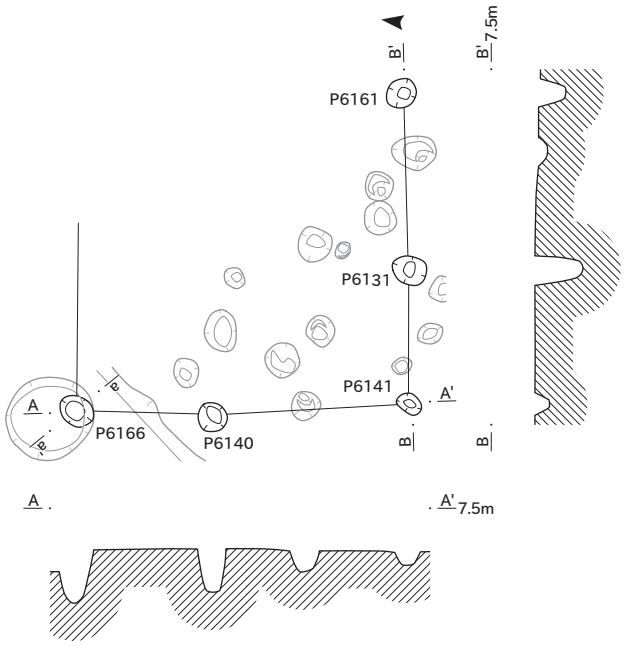


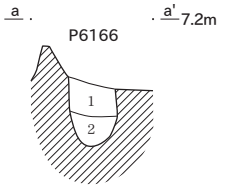

P6230
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR4/1褐灰色シルト少量含む
　10YR7/4にぶい黄褐色シルトブロック少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/1灰白色シルト少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　10YR5/2灰黄褐色シルトブロック少量含む
　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR7/4にぶい黄褐色シルト少量含む
　φ1～3mmの炭化物1％含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

0　断面図（1：40）　2m

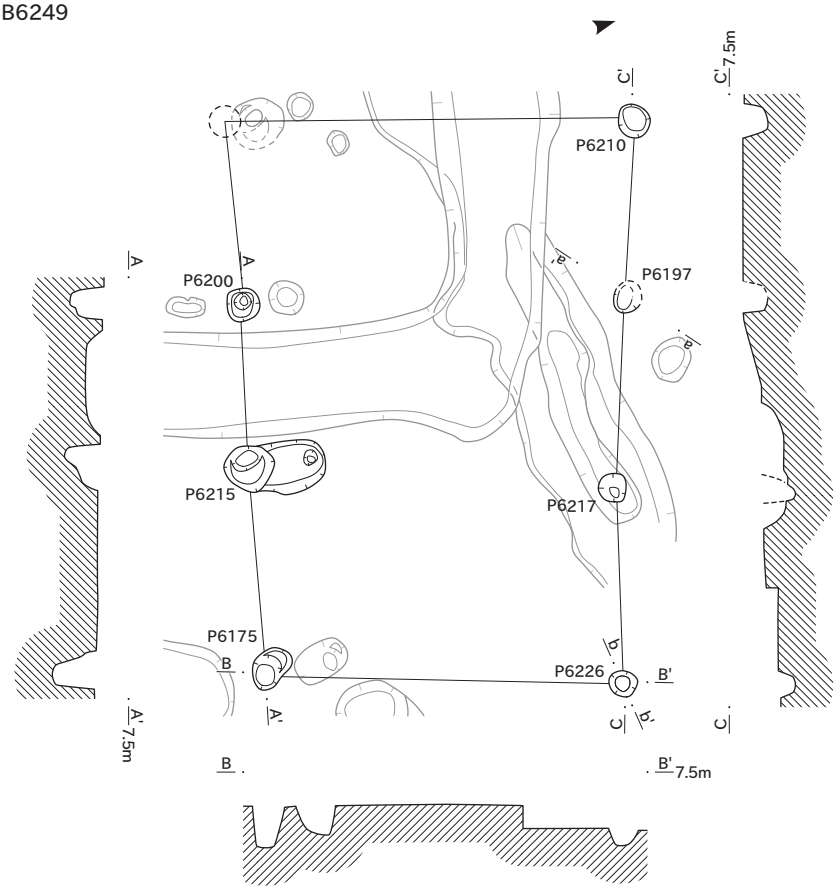
## SB6248

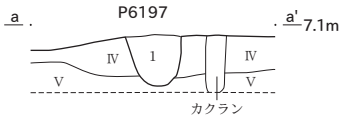


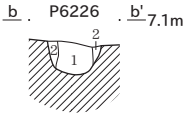

P6166
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトφ1～2mmブロック少量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR6/3にぶい黄褐色シルト　褐灰色シルトφ2～5mmブロック少量含む

## SB6249




P6197
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山φ1～2mmブロック中量含む
　10YR7/1灰白色シルト中ブロック少量含む　粘性有　しまり強い

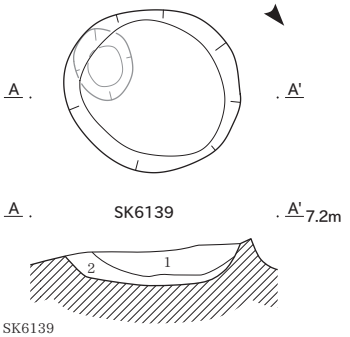



P6226
1　10YR3/3暗褐色シルト　炭化物少量含む　地山ブロック少量含む
　粘性強い　しまり有
2　10YR3/3暗褐色シルト　地山ブロック多量含む　炭化物少量含む
　粘性強い　しまり有

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

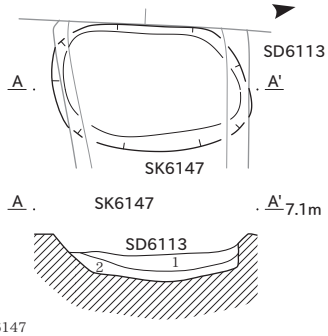
0　断面図（1：40）　2m

## SK6139



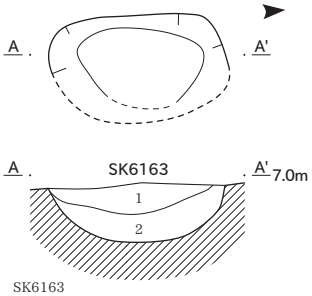

SK6139
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　10YR5/1褐灰色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い

## SK6147



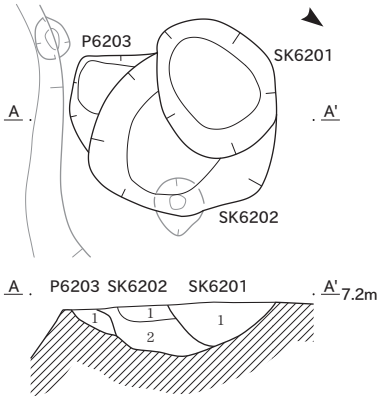

SK6147
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　炭化粒子少量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR7/1灰白色粘土粒子微量含む
　粘性有　しまり強い

## SK6163




SK6163
1　2.5Y6/1黄灰色粘土　マンガン粒多く含む
　粘性・しまり強い
2　5Y6/1灰色粘土　マンガン粒含む
　粘性・しまり強い

## P6203・SK6202・SK6201

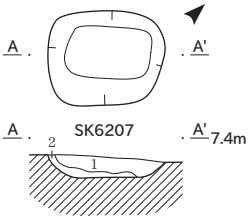



SK6201
1　10YR4/4褐色シルト　炭化物φ1～2mmブロック少量含む
　粘性有　しまり強い

SK6202
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山φ1～2mmブロック少量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR4/4褐色シルト　地山φ1～2mmブロック中量含む
　粘性有　しまり強い

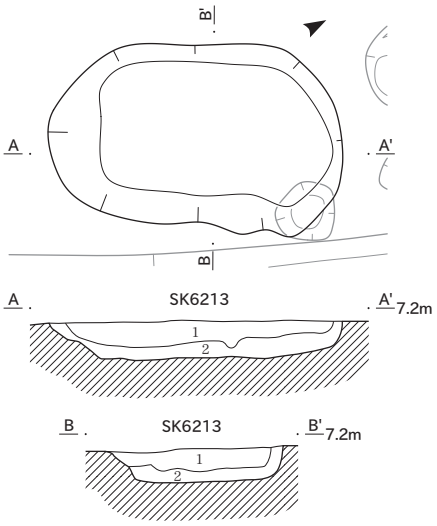
P6203
1　10YR3/2黒褐色シルト　地山粒子中量含む　粘性有　しまり強い

## SK6207



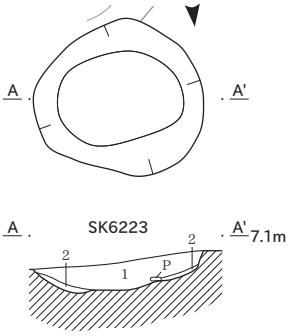

SK6207
1　10YR6/1褐灰色シルト　粘性強い　しまり有
2　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性強い　しまり有

## SK6213



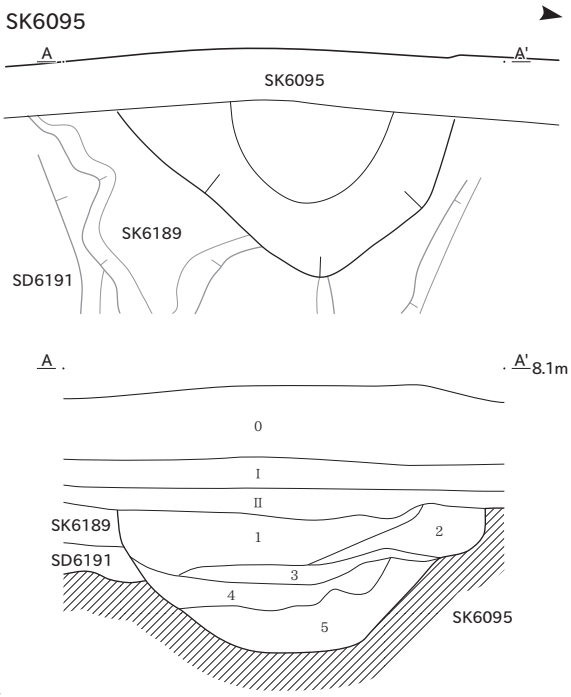

SK6213
1　10YR3/3暗褐色シルト　炭化物少量含む
　2層ブロック含む　粘性強い　しまり有
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　炭化物少量含む
　1層ブロック含む　粘性強い　しまり有

## SK6223




SK6223
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト
　地山φ1～2mmブロック中量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR5/6黄褐色シルト
　地山φ1～2mmブロック多量含む
　粘性有　しまり強い

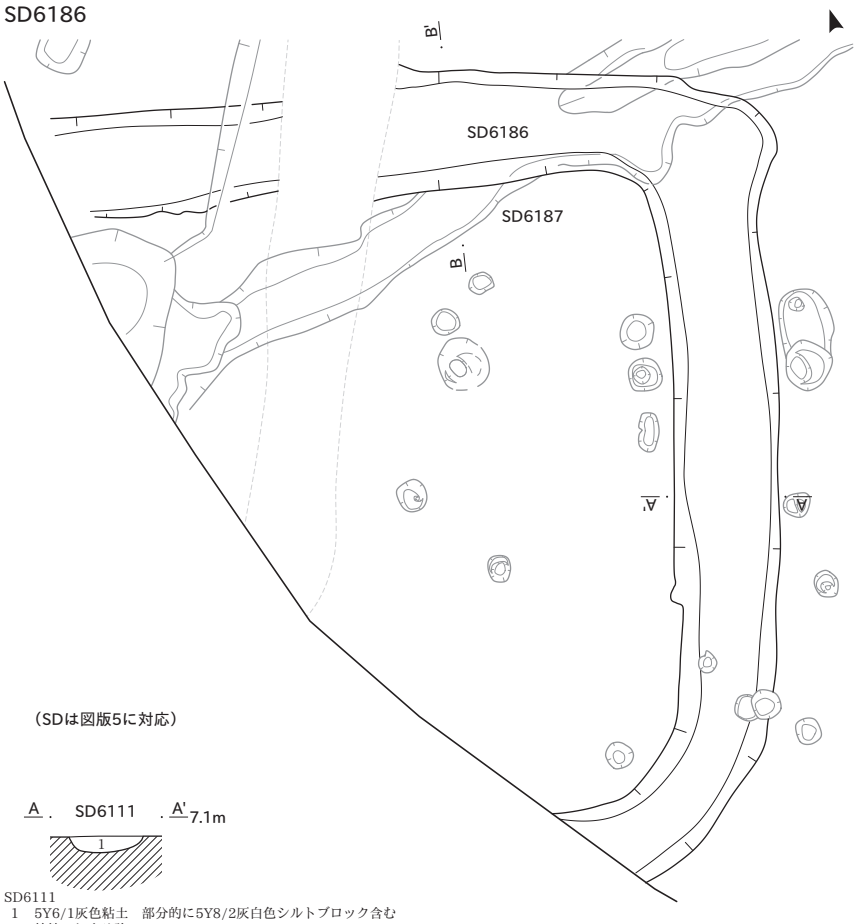
## SK6095



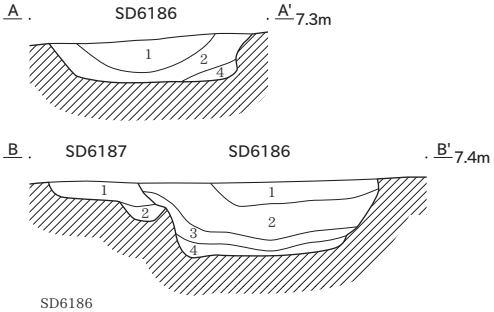

SK6095
1　10YR7/6明黄褐色シルト　φ1～5mmの炭化物微量含む　10YR4/2灰黄褐色中量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性有　しまり強い　10YR7/2にぶい黄橙色少量含む
4　10YR3/2黒褐色シルト　φ1～5mmの炭化物微量含む　10YR7/6明黄褐色少量含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い
5　10YR7/6明黄褐色シルト φ1～3mmの炭化物微量含む　10YR3/2黒褐色多量含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い

0　（1：40）　2m

SD6186




（SDは図版5に対応）

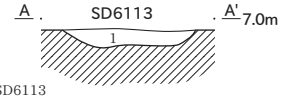



SD6186
1　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　炭化物微量含む
　地山（Ⅳ層）少量含む　粘性有　しまり有
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　1層に比べ地山ブロック少量含む
3　10YR4/2灰黄褐色シルト　炭化物微量含む　地山（Ⅳ層）微量含む
　粘性強い　しまり有
4　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　2層と同質

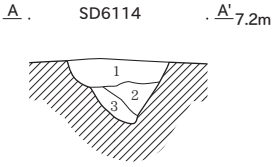
SD6187
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　炭化物微量含む　地山（Ⅳ層）微量含む
　粘性強い　しまり有
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　1層に比べ地山（Ⅳ層）多量含む
　粘性有　しまり有



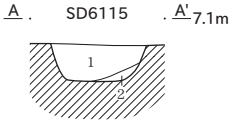

SD6111
1　5Y6/1灰色粘土　部分的に5Y8/2灰白色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い



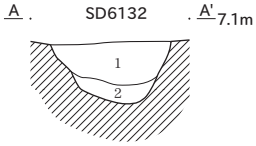

SD6113
1　10YR5/1褐灰色シルト
　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック少量含む
　炭化物微量含む　粘性有　しまり強い



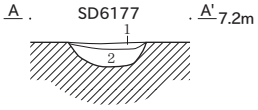

SD6114
1　5Y7/1灰白色シルト　5Y8/1灰白色シルト粒少量含む　粘性・しまり有
2　5Y6/1灰色シルト 5Y8/1灰白色シルト粒中量含む　粘性・しまり有
3　5Y6/1灰色シルト 5Y8/1灰白色シルト粒少量含む　粘性・しまり有

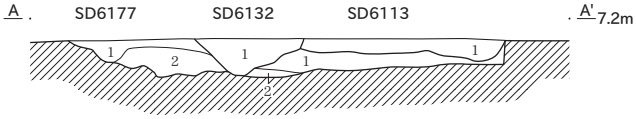



SD6115
1　5Y6/1灰色粘土　マンガン粒多く含む　粘性・しまり強い
2　5Y7/1灰白色シルト　マンガン粒含む　粘性・しまり強い

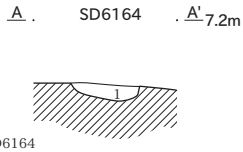



SD6132
1　7.5Y6/1灰色粘土　7.5Y8/2灰白色シルトブロック含む　粘性・しまり強い
2　5Y8/1灰白色粘土　2.5Y8/4淡黄色シルトブロック含む　粘性・しまり強い

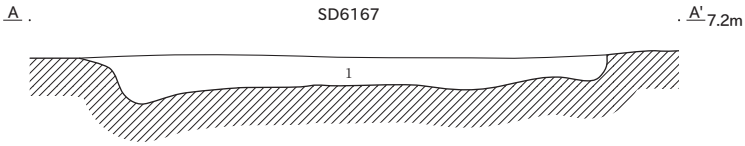


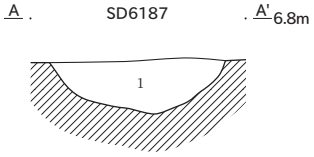

SD6177
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトφ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR6/3にぶい黄橙色シルト　10YR5/1褐灰色シルトφ2～5mmブロック少量含む　地山φ1～2mmブロック中量含む
　粘性有　しまり強い

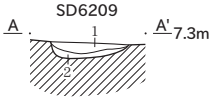



SD6164
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルト
　φ1～2mmブロック少量含む　粘性有　しまり強い

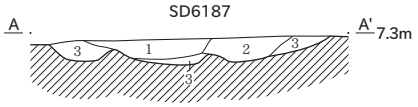



SD6167
1　5Y6/1灰色シルト　φ5mmの炭化物粒含む　遺物含有　粘性強い　しまり強い




SD6209
1　10YR5/2灰褐色シルト　粘性強い　しまり有
2　2.5Y7/2灰黄色シルト　粘性強い　しまり有

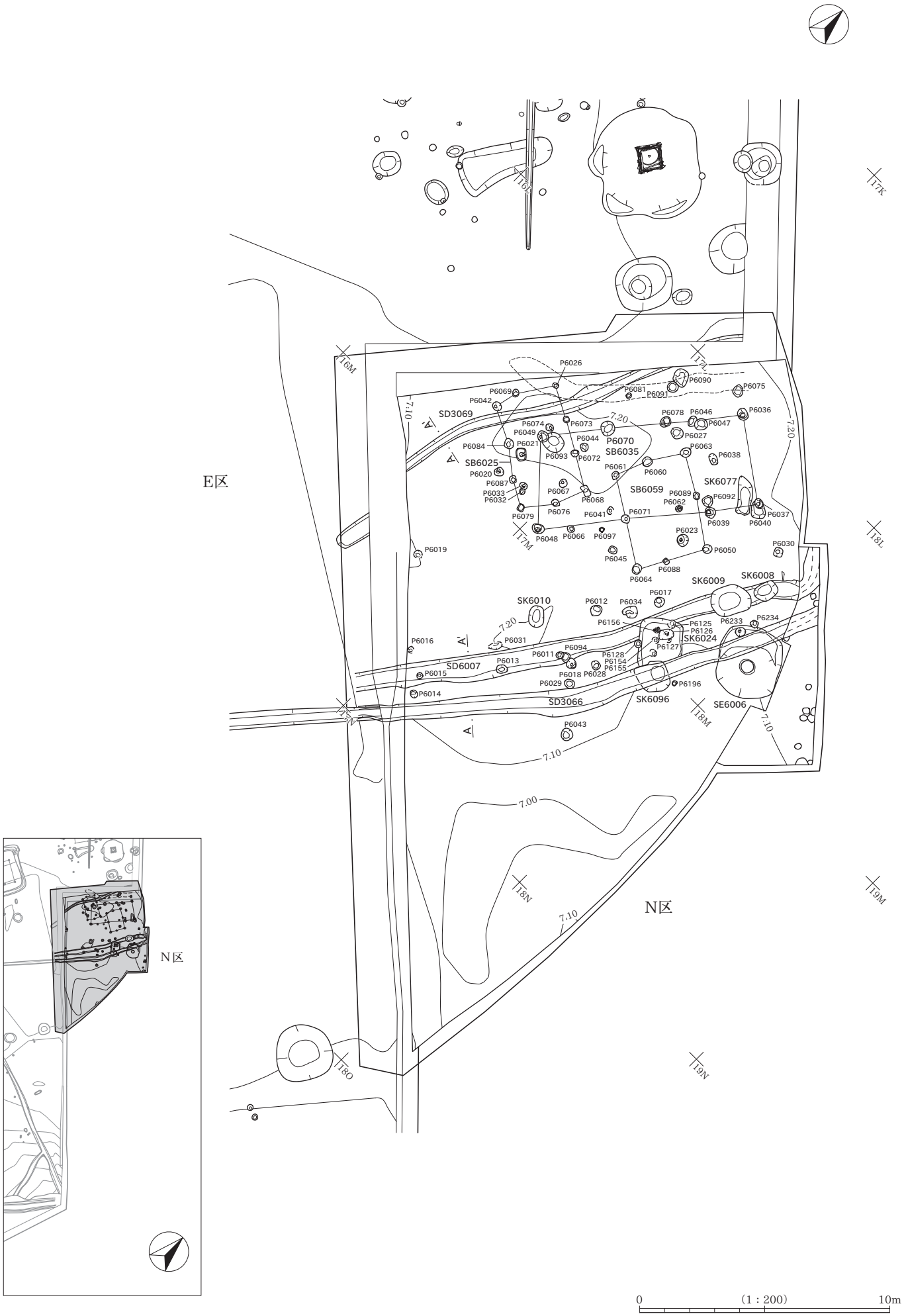



SD6187
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　炭化物微量含む　地山（Ⅳ層）微量含む　粘性強い　しまり有
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　1層に比べ地山（Ⅳ層）多量含む　粘性有　しまり有
3　2.5Y7/2灰黄色シルト　地山（Ⅳ層）微量含む　粘性強い　しまり有

0　平面図（1：80）　4m

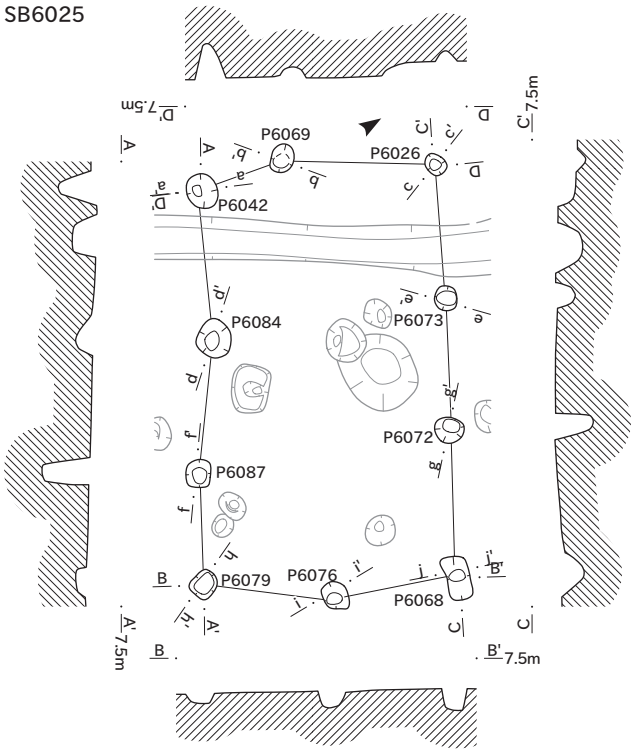
0　断面図（1：40）　2m

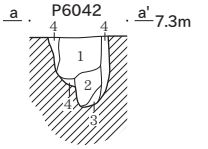
N 区　中世遺構分割図


E区
N区
SD3069
SB6025
SB6035
P6070
SB6059
SK6077
SK6010
SK6009
SK6008
SK6024
SD6007
SD3066
SK6096
SE6006
7.10
7.20
7.00
0
(1：200)
10m

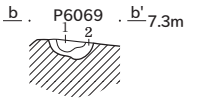
SD3061
SD6057
SD6056
SD6058
SD6054
SD6055
SD6052
SD6051
SD6053
P6082
P6085
P6080
P6086
P6083
O区
J 区
E区
SD5603
7.20
7.10
13P
14O
15O
14P
14Q
15P
15Q
16P
15R
16Q
0
(1 : 200)
10m

## SB6025

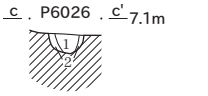


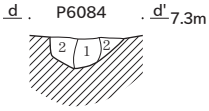

P6042
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり強い
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　10YR5/2灰黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
4　2.5Y7/6明黄褐色シルト　10YR5/2灰黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い



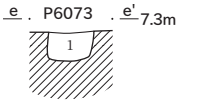

P6069
1　10YR6/1褐灰色シルト　2.5Y7/6明黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　2.5Y6/2灰黄色シルト　10YR6/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い



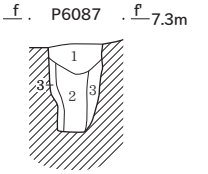

P6026
1　2.5Y7/2灰黄色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック粒含む
　粘性・しまり有
2　5Y7/2灰白色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック粒含む
　粘性・しまり強い



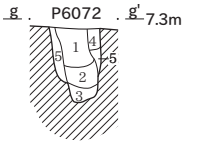

P6084
1　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　地山ブロック少量含む
　マンガン粒多量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR6/2灰黄褐色シルト　φ1～3mm炭化物微量含む
　10YR5/2灰黄褐色シルト少量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い



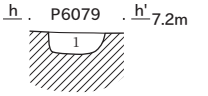

P6073
1　2.5Y5/4黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルト・
　2.5Y8/2灰白色シルトブロック含む　粘性・しまり強い



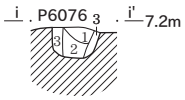

P6087
1　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　マンガン粒少量含む　粘性・しまり強い
2　10YR2/1黒色シルト　φ1～3mmの炭化物1%含む　粘性・しまり強い
3　10YR4/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　粘性・しまり強い



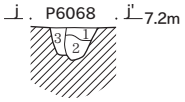

P6072
1　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック粒多量含む
　粘性・しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　10YR5/1褐灰色シルト　粘性・しまり強い
4　10YR5/1褐灰色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック粒多量含む
　粘性・しまり強い
5　2.5Y8/2灰白色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い




P6079
1　2.5Y6/2灰黄色シルト　2.5Y7/6明黄褐色シルトブロック粒含む
　粘性・しまり強い

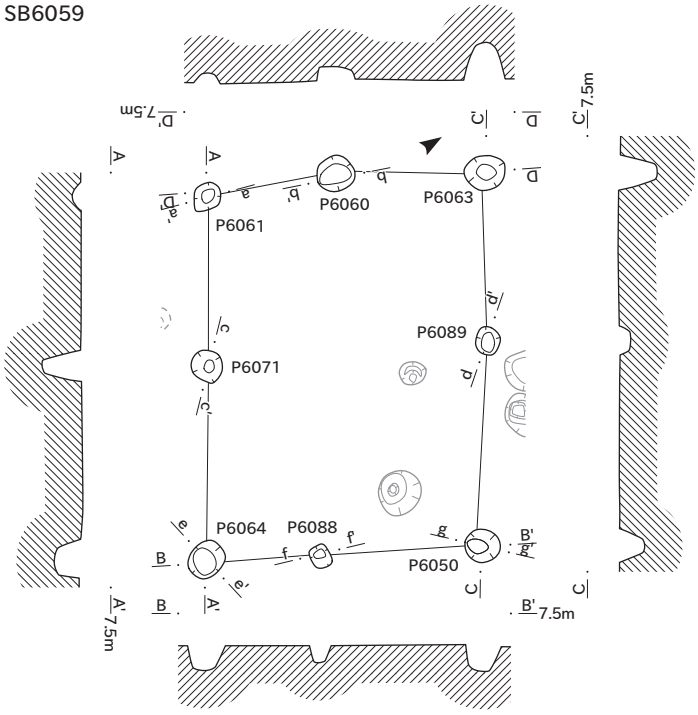


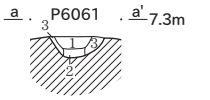

P6076
1　10YR4/1　φ1～3mmの炭化物少量含む
　地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR7/4　φ1～3mmの炭化物少量含む
　10YR4/1褐灰色シルト少量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い
3　10YR7/4　φ1～3mmの炭化物少量含む
　地山ブロック少量含む　粘性・しまり強い



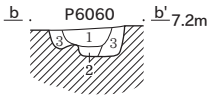

P6068
1　10YR4/1褐灰色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　φ1～3mmの炭化物少量含む
　地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR4/1褐灰色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
　地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い

## SB6059

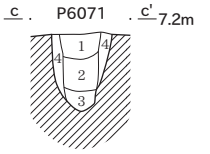


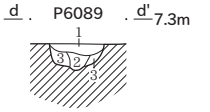

P6061
1　10YR4/1褐灰色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
　10YR7/4にぶい黄橙色シルト少量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　マンガン粒少量含む　粘性有
　しまり強い
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い



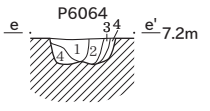

P6060
1　10YR5/1褐灰色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック粒
　多量含む　粘性・しまり強い
2　10YR7/6明黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　2.5Y7/6明黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い



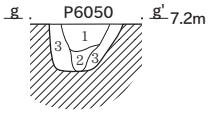

P6071
1　10YR4/1褐灰色シルト φ1～3mmの炭化物微量含む
　地山ブロック少量含む　マンガン粒少量含む　粘性有
　しまり強い
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
　地山ブロック多量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い
3　10YR3/1黒褐色シルト　粘性有　しまり強い
4　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　φ1～3mm炭化物微量含む
　10YR4/1褐灰色シルト少量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い



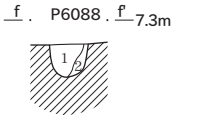

P6089
1　10YR5/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック
　多量含む　粘性・しまり強い
2　10YR5/1褐灰色シルト　10YR5/6黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　10YR7/6明黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い




P6064
1　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y6/2灰黄色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり強い
3　2.5Y6/2灰黄色シルト　粘性・しまり強い
4　2.5Y8/2灰白色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い




P6050
1　10YR5/2灰黄褐色シルト　2.5Y7/6明黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　2.5Y8/2灰白色シルト　10YR6/2灰黄褐色シルトブロック粒含む
　粘性・しまり強い
3　2.5Y8/2灰白色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック粒
　多量含む　粘性・しまり強い

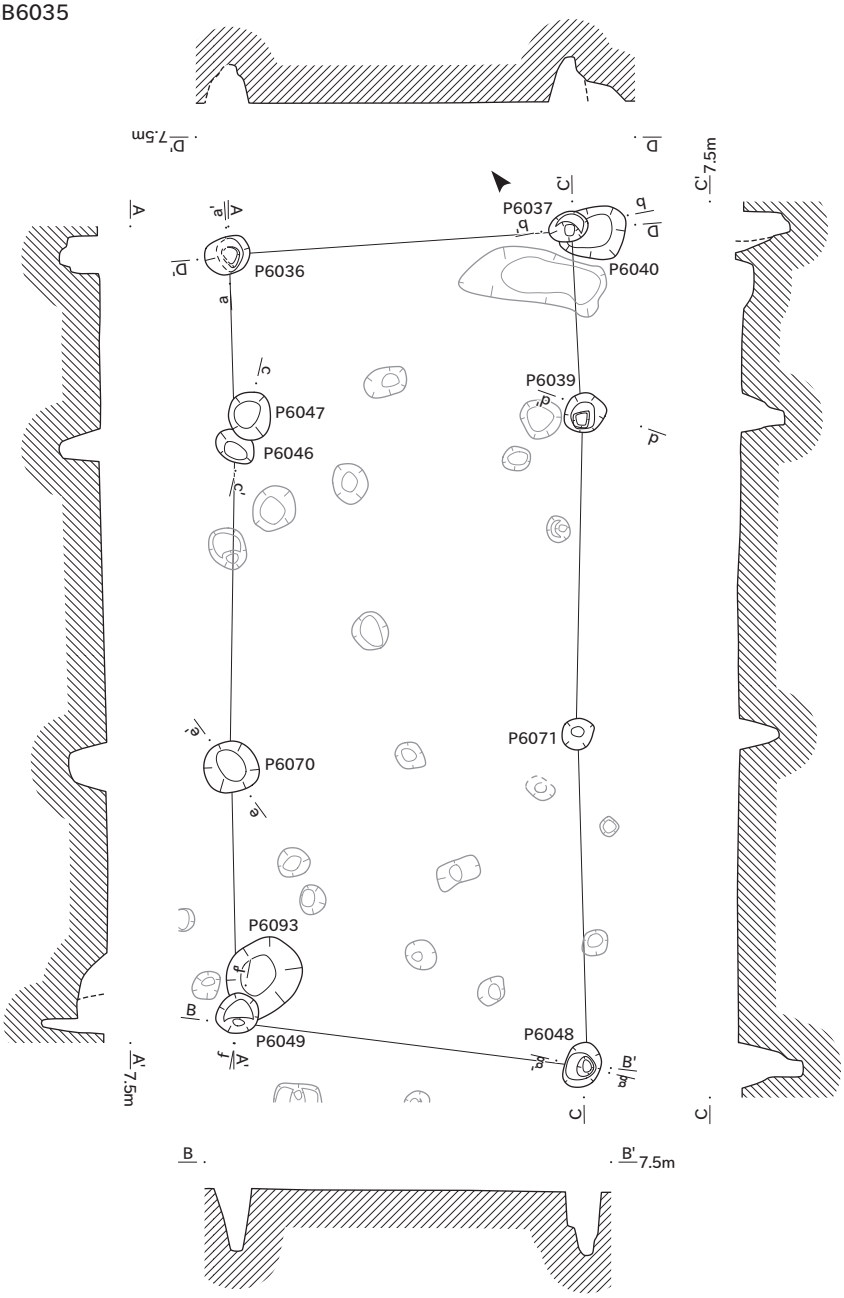


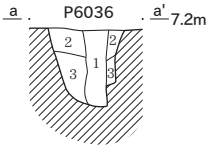

P6088
1　10YR7/6明黄褐色シルト　10YR5/1褐灰色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　10YR5/1褐灰色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

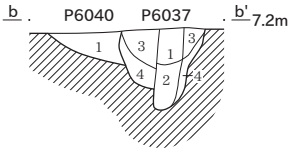
0　断面図（1：40）　2m

SB6035



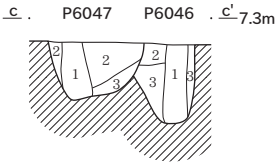




P6036
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　φ1～3mm炭化物微量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR6/6明黄褐色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　10YR4/2灰黄褐色シルト少量含む
　φ1～3mmの炭化物微量含む　粘性・しまり強い



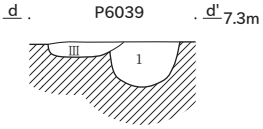

P6037
1　10YR6/2灰黄褐色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック粒含む
　粘性・しまり強い
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり強い
3　10YR5/2灰黄褐色シルト　10YR7/6明黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
4　2.5Y7/6明黄褐色シルト　10YR5/2灰黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い

P6040
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　10YR6/2明黄褐色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い

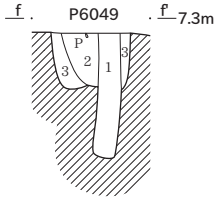



P6046
1　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y6/6明黄褐色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　10YR5/1褐灰色シルト　2.5Y6/6明黄褐色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　2.5Y5/4黄褐色シルト　2.5Y8/2灰白色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い

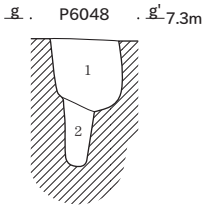
P6047
1　10YR4/1褐灰色シルト　2.5Y6/2灰黄色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　2.5Y5/1黄灰色シルト　2.5Y6/2灰黄色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　2.5Y7/2灰黄色シルト　10YR7/6明黄褐色　シルトブロック含む
　粘性・しまり強い



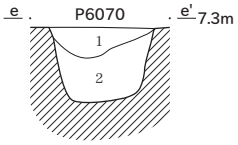

P6039
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　地山ブロック少量含む
　灰黄褐色粘土ブロック微量含む　粘性有　しまり強い




P6049
1　7.5YR4/1褐灰色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
2　10YR5/2灰黄褐色シルト　2.5Y8/2灰白色シルトブロック含む
　粘性・しまり強い
3　10YR7/6明黄褐色シルト
　2.5Y8/2灰白色シルト・10YR5/2灰黄褐色
　シルトブロック含む　粘性・しまり強い




P6048
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　5Y7/6黄色シルトブロック多量含む
　粘性・しまり強い
2　10YR4/2灰黄褐色シルト　5Y7/6黄色シルトブロック少量含む
　粘性・しまり強い

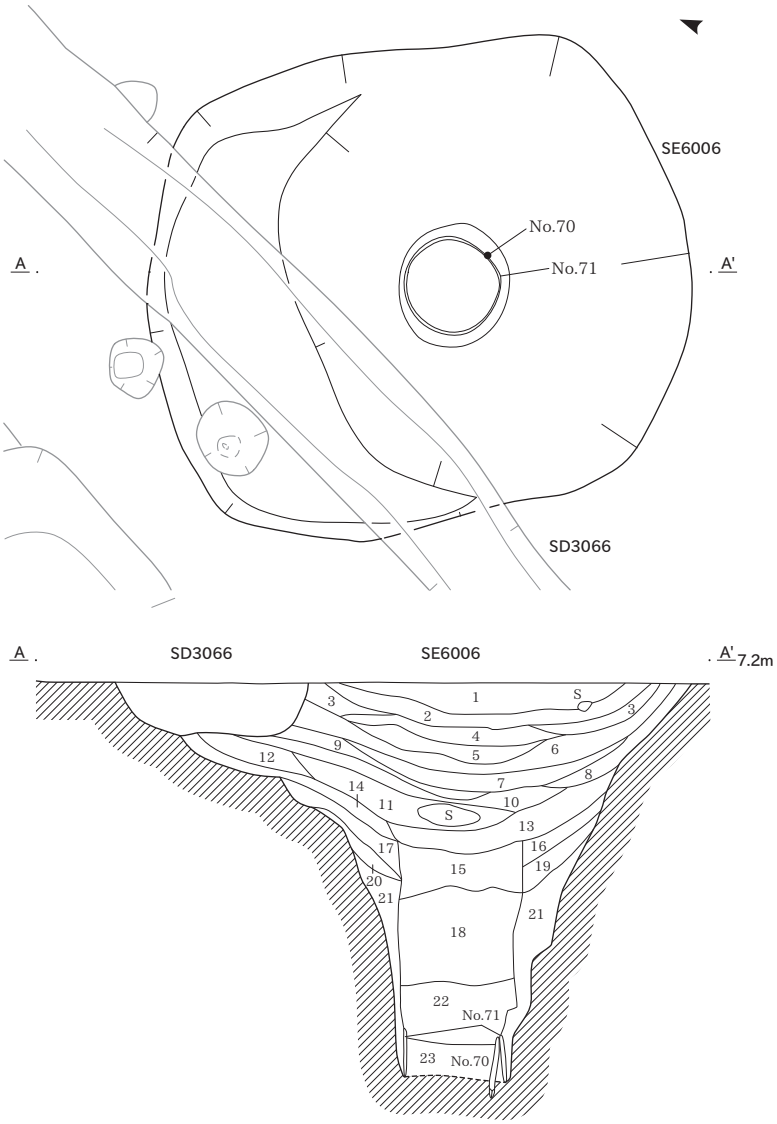



P6070
1　10YR4/1褐灰色シルト　粘性・しまり強い
2　2.5Y7/6明黄褐色シルト　10YR4/1褐灰色シルトブロック多量含む
　粘性・しまり強い

0　平面図・エレベーション図（1：80）　4m

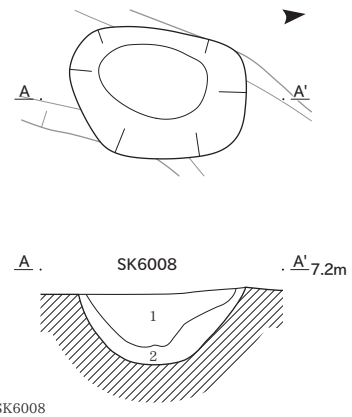
0　断面図（1：40）　2m

## SE6006



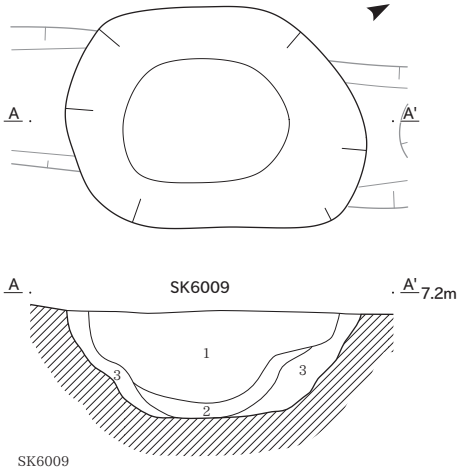

SE6006
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山小ブロック微量含む　焼土粒・土器片微量含む
粘性やや有　しまり強い
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山小ブロック少量含む　焼土粒微量含む　粘性やや有り　しまり強い
3　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～5mmの炭化物微量含む
地山小ブロック微量含む　粘性やや有り　しまり強い
4　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物多量含む
地山小ブロック微量含む　焼土微細粒子多量含む　粘性やや有り　しまり強い
5　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山ブロック少量含む　焼土粒微量含む　粘性やや有り　しまり強い
6　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山小ブロック微量含む　焼土粒・土器片微量含む
粘性やや有　しまり強い
7　2.5Y5/3黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトブロック多量含む
ラミナ状に堆積　粘性有　しまり強い
8　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山ブロック少量含む
粘性やや有　しまり強い
9　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　地山小ブロック微量含む
粘性やや有　しまり強い
10　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山ブロック小量含む　マンガン粒微量含む　焼土粒微量含む
粘性やや有　しまり強い
11　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
地山ブロック少量含む　マンガン粒小量含む　焼土粒微量含む
粘性やや有　しまりやや強い
12　2.5Y5/3黄褐色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む
10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック多量含む　粘性やや有り　しまり強い
13　2.5Y6/2灰黄色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む　地山ブロック微量含む
粘性やや有　しまりやや強い
14　2.5Y5/3黄褐色シルト　10YR4/3にぶい黄褐色シルトブロック少量含む
粘性やや有　しまり強い
15　10YR4/2灰黄褐色粘土　φ1～10mmの炭化物微量含む　2.5Y6/2灰黄色粘土
ブロック含む　地山ブロック含む　粘性有り　しまりやや強
16　10YR4/2灰黄褐色粘土　φ1～3mmの炭化物微量含む　2.5Y6/2灰黄色粘土
ブロック少量含む　地山ブロック少量含む　粘性有り　しまりやや強
17　2.5Y6/2灰黄色シルト　φ1～10mmの炭化物微量含む　地山ブロック少量含む
粘性やや有　しまりやや強い
18　10YR4/2灰黄褐色粘土　φ1～10mmの炭化物微量含む　2.5Y6/2灰黄色粘土
ブロック多量含むマンガン粒含む　粘性有り　しまりやや強
19　2.5Y6/2灰黄色粘質シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
10YR4/2灰黄褐色粘土　小ブロック少量含む　マンガン粒含む
粘性有　しまりやや強
20　10YR4/2灰黄褐色粘土　φ1～3mmの炭化物微量含む　2.5Y6/2灰黄色粘土
小ブロック微量含む　粘性有り　しまりやや強
21　2.5Y6/2灰黄色粘質シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
10YR4/2灰黄褐色粘土　微細ブロック微量含む　マンガン粒含む
粘性有　しまりやや強
22　2.5Y4/2黄灰色粘土　φ1～10mmの炭化物微量含む　2.5Y6/2灰黄色シルト
小ブロック微量含む　マンガン粒含む　粘性有り　しまり強い
23　2.5Y6/2灰黄色砂質シルト　マンガン粒多量含む　粘性無し　しまり強い

## SK6008



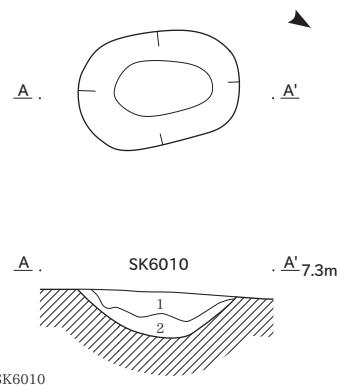

SK6008
1　10YR2/2黒褐色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR3/2黒褐色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い

## SK6009




SK6009
1　10YR4/4褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトの地山
φ2～5mmブロック多量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR5/1褐灰色シルト　10YR3/1黒褐色粒土
φ1～2mmブロック中量含む　粘性有　しまり強い
3　10YR5/6黄褐色シルト　10YR5/6黄褐色シルトの地山
φ5～10mmブロック多量含む　粘性有　しまり強い

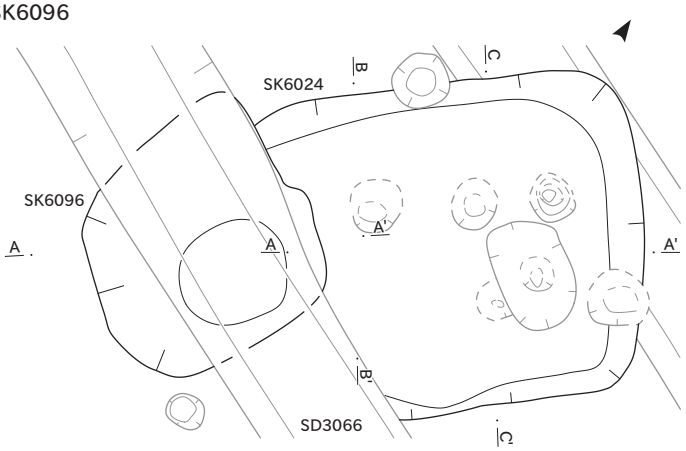
## SK6010

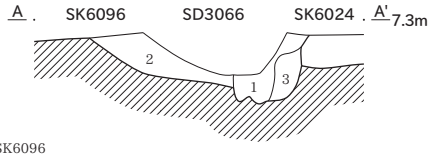



SK6010
1　10YR2/3黒褐色土シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
地山ブロック少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR3/3暗褐色シルト　φ1～3mmの炭化物微量含む
7.5YR4/6褐色土少量含む　1層土少量含む
粘性有　しまり強い

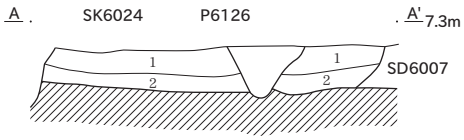
0　（1：40）　2m

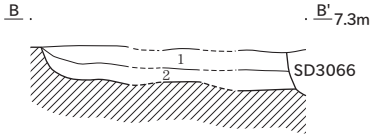
## SK6096

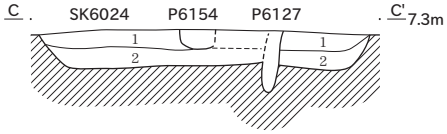



SK6096
1　10YR3/3暗褐色シルト　明黄褐色シルトφ1～2mmブロック中量含む
　褐灰色シルトブロック少量含む
2　10YR6/6明黄褐色シルト　暗褐色シルトφ1～2mmブロック少量含む
3　10YR7/6明黄褐色シルト　暗褐色シルト粒子中量含む

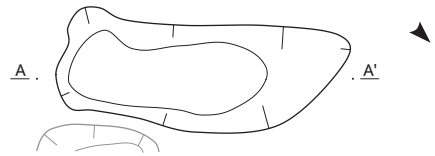


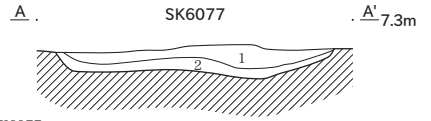




SK6024
1　2.5Y5/3黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトブロック多量含む
　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い
2　2.5Y5/3黄褐色シルト　10YR4/4褐色シルトブロック少量含む
　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い

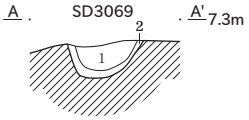
## SK6077



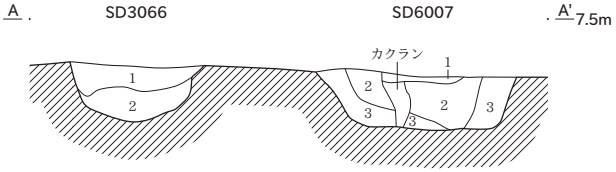




SK6077
1　10YR3/1黒褐色シルト　φ1～3mm炭化物微量含む
　地山ブロック少量含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い
2　10YR4/2灰黄褐色土シルト　φ1～3mm炭化物微量含む
　地山ブロック少量含む　マンガン粒少量含む　粘性有　しまり強い

### N区（SDは図版10に対応）



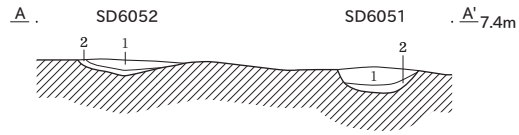

SD3069
1　10YR2/2黒褐色土　φ1～3mmの炭化物微量含む
　地山ブロック少量含む　マンガン粒少量含む
　粘性有　しまり強い
2　10YR5/2灰黄褐色土　φ1～3mmの炭化物微量含む
　1層土少量含む　マンガン粒少量含む　粘性有
　しまり強い

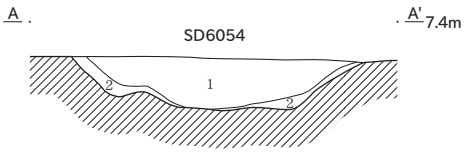


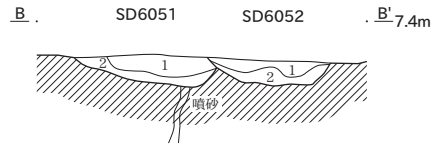

SD3066
1　10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/6褐色土を含む
　粘性やや有　しまり有
2　10YR4/6褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルト・
　10YR5/2灰黄褐色シルトブロック状に少量含む
　マンガン粒を含む　粘性・しまり有

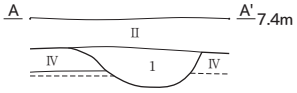
SD6007
1　10YR3/4暗褐色シルト　10YR4/6褐色シルト・10YR5/2灰黄褐色シルトを
　ブロック状に含む　粘性やや有　しまり有
2　10YR4/4褐色シルト　10YR4/6褐色シルト・10YR5/2灰黄褐色シルトを
　ブロック状に含む　マンガン粒多量含む　粘性・しまり有
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　10YR3/4暗褐色シルトをブロック状に含む
　マンガン粒少量含む　粘性・しまり有

### O区（SDは図版11に対応）

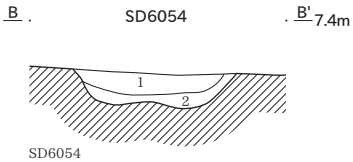




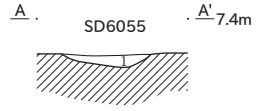

SD6053
1　10YR5/1褐灰色シルト　炭化物微量含む
　φ10mm以下の地山粒微量含む　粘性・しまり有

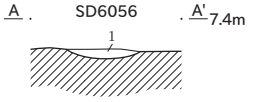


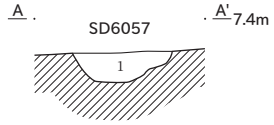

SD6054
1　10YR4/2灰黄褐色シルト　炭化物微量含む
　地山微量含む　粘性・しまり有
2　2.5Y6/3にぶい黄色シルト　1層に比べ地山多量含む
　粘性・しまり有

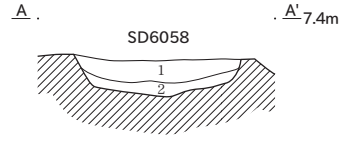
SD6051
1　10YR4/1褐灰色シルト　炭化物微量含む　地山（Ⅳ層）微量含む
　マンガン粒多量含む　粘性・しまり有
2　10YR5/1褐灰色シルト　1層に比べ地山多量含む

SD6052
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　炭化物微量含む　焼土粒微量含む
　地山（Ⅳ層）少量含む　粘性・しまり有
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　1層に比べ地山多量含む




SD6055
1　10YR7/2にぶい黄橙色シルト　炭化物微量含む
　地山（Ⅳ層）多量含む　粘性・しまり有

SD6056
1　10YR7/4にぶい黄橙色シルト
　地山（Ⅳ層）多量含む　粘性・しまり有

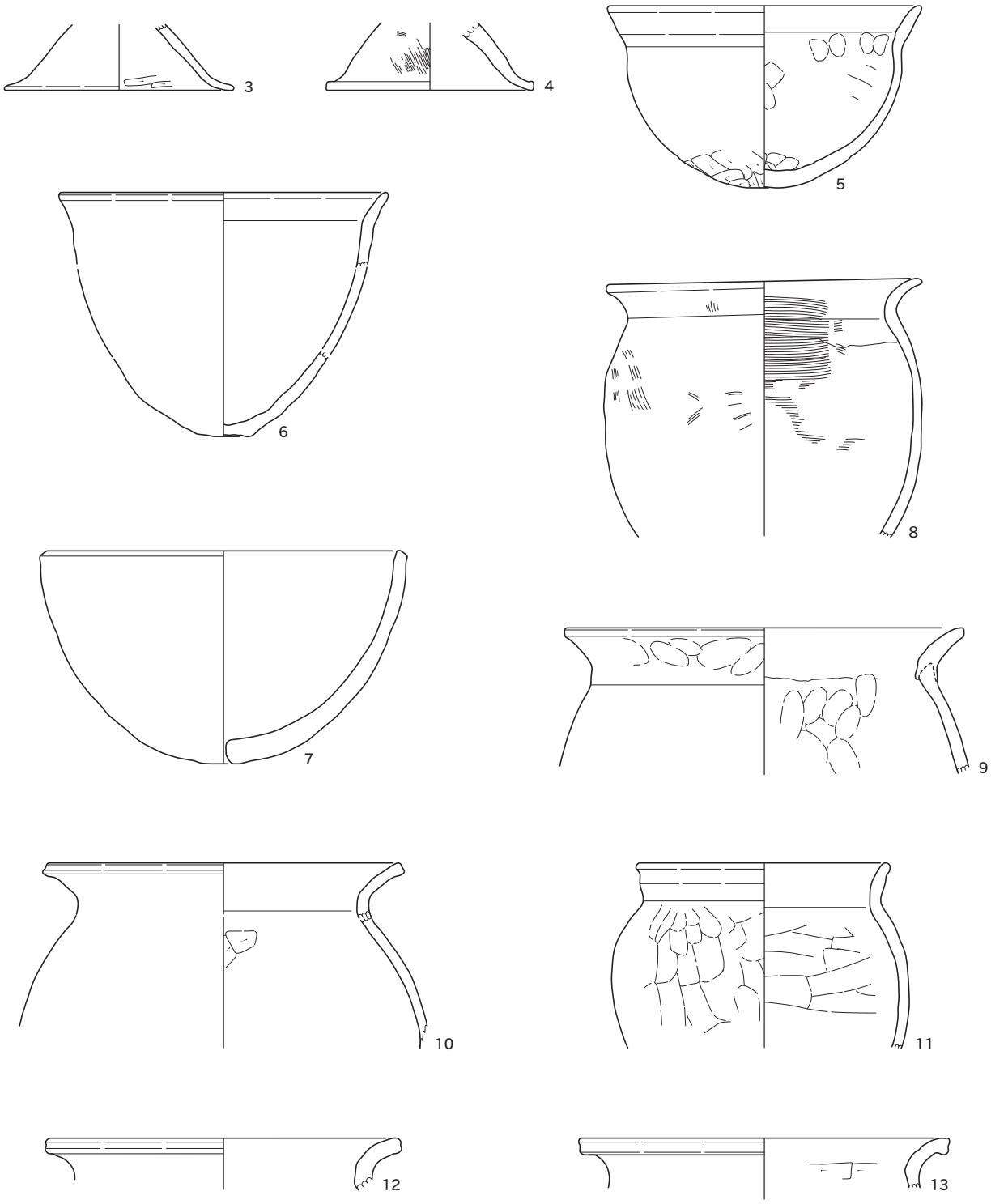
SD6057
1　10YR7/4にぶい黄橙色シルト
　地山（Ⅳ層）多量含む　粘性・しまり有

SD6058
1　10YR4/1褐灰色シルトと10YR7/4にぶい黄橙色シルトの
　混合土　地山（Ⅳ層）多量含む　粘性・しまり有
2　10YR7/4にぶい黄橙色シルト　1層に比べ地山（Ⅳ層）
　多量含む　粘性・しまり有

0　（1：40）　2m

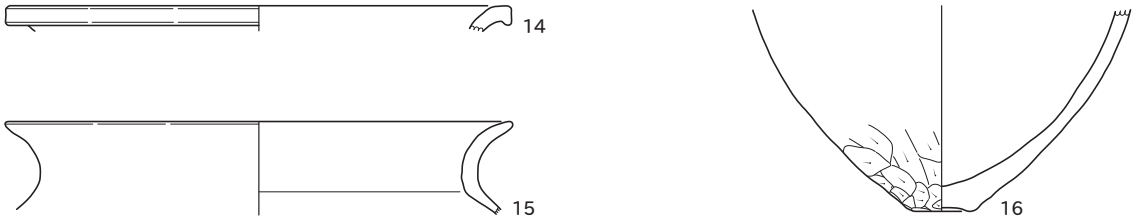
古墳時代
M区
SK6227（1・2）

SK6231（3～13）

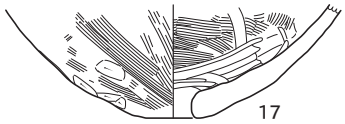



0　15cm（1:3）

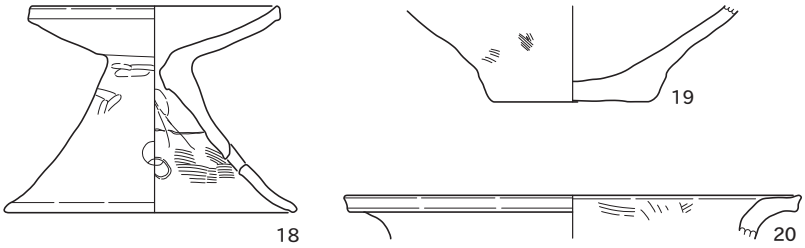
古墳時代
M区
SK6231（14～16）



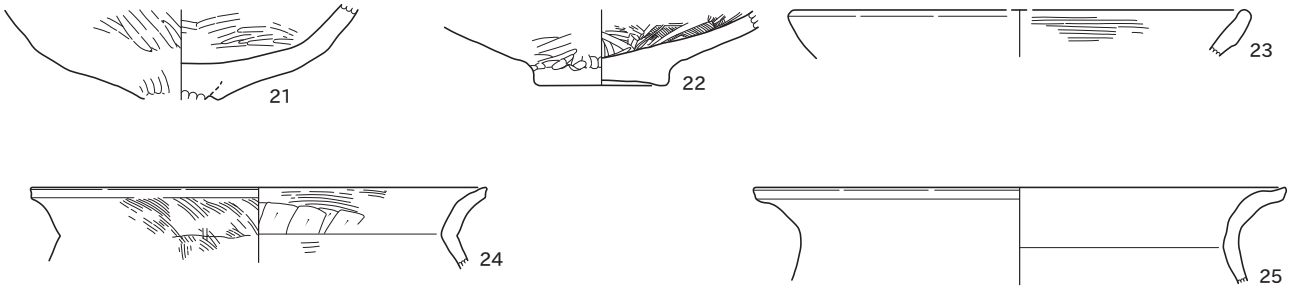

SD6187（17）



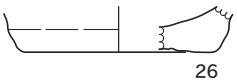

SD6232（18～20）




遺構外（21～25）

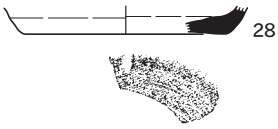



古代
L区
P6002（26）



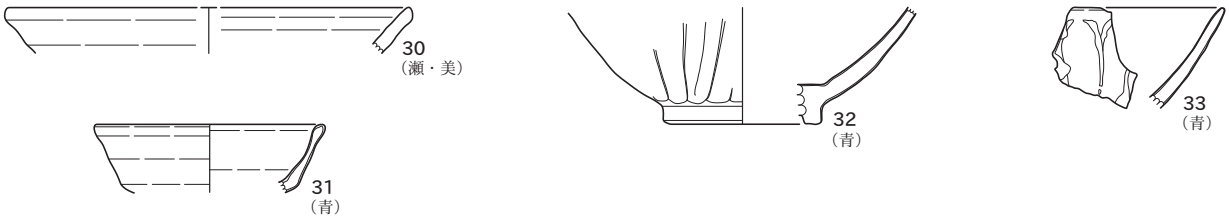

O区
SD6051（27）

M区
遺構外（28）

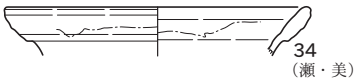



L区
遺構外（29）

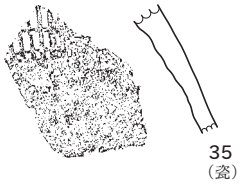
中世
L区
SD3015（30～33）



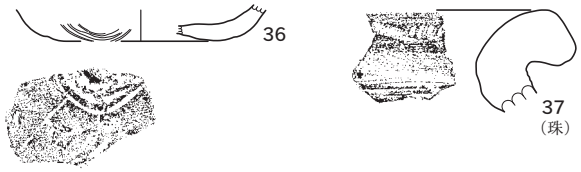

M区
SB6249-P6197（34）




SK6223（35）

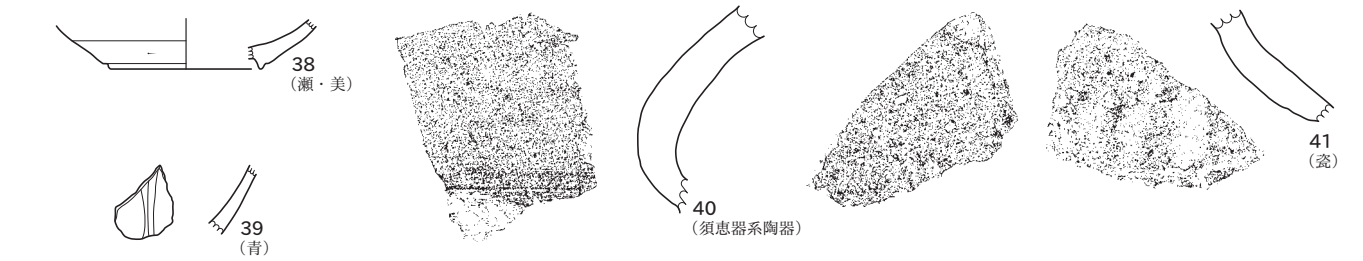



SD3007（36・37）

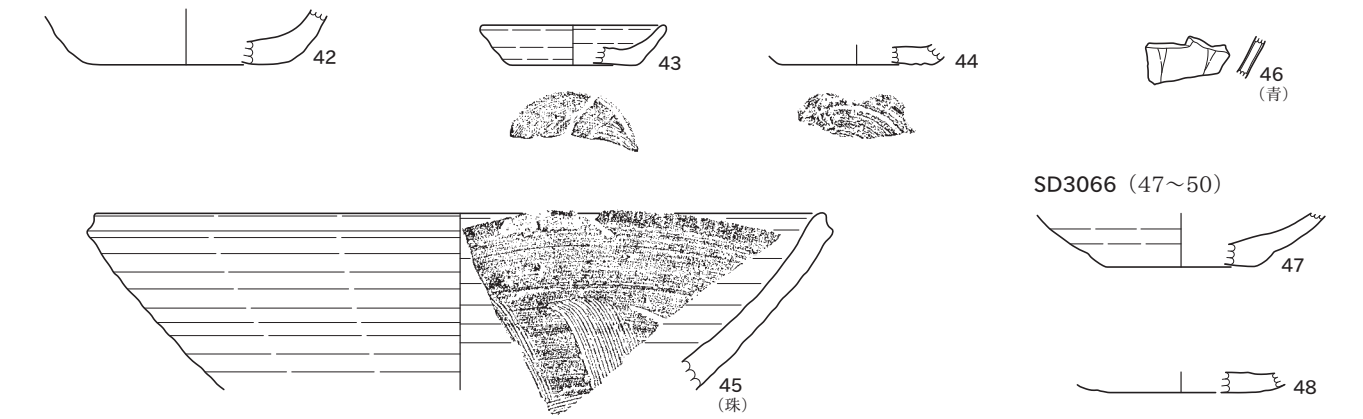



0　15cm（1:3）

中世の土器2
M区
遺構外（38～41）



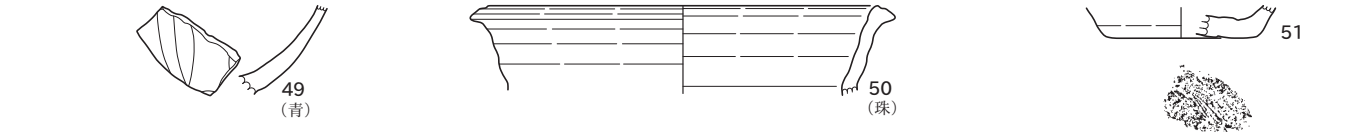

N区
SB6035-P6070（42）　SE6006（43～45）　SK6009（46）



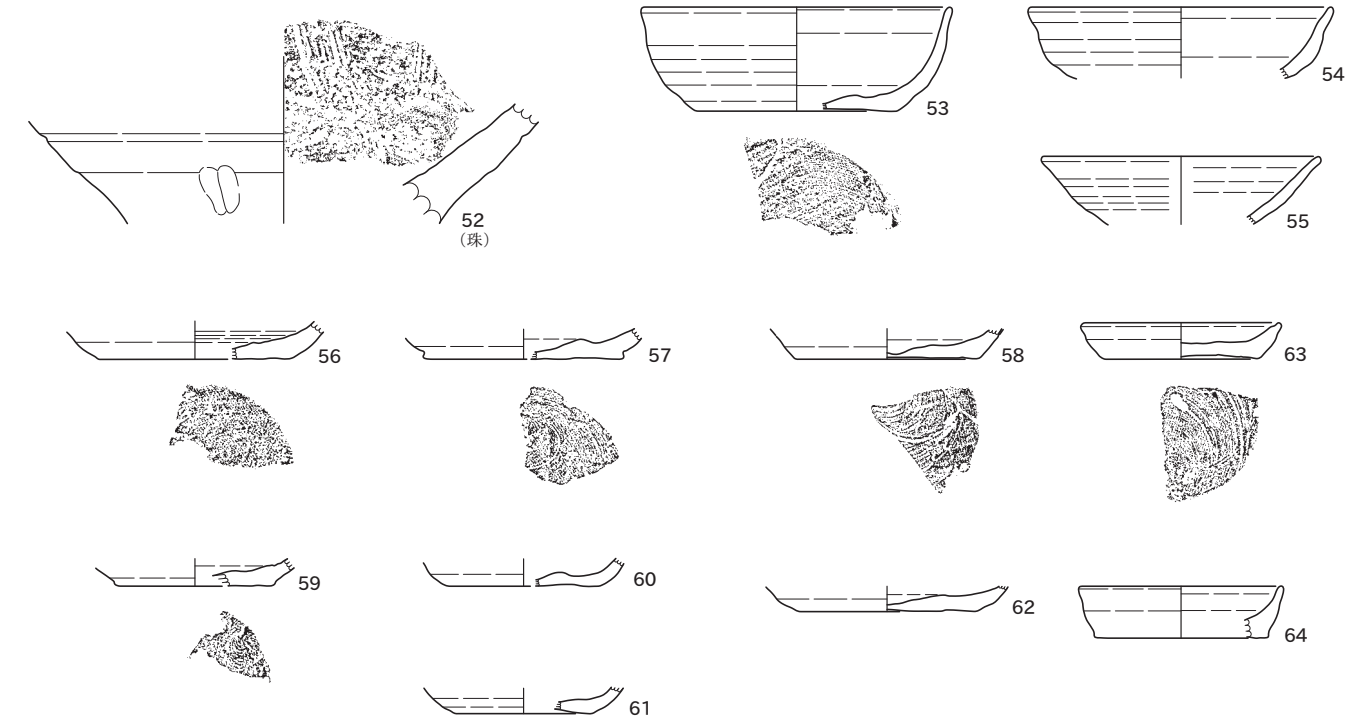

SD3066（47～50）




遺構外（51）



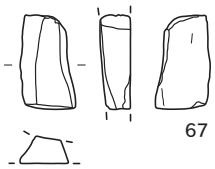

O区
SD6053（52）　SD6054（53～64）



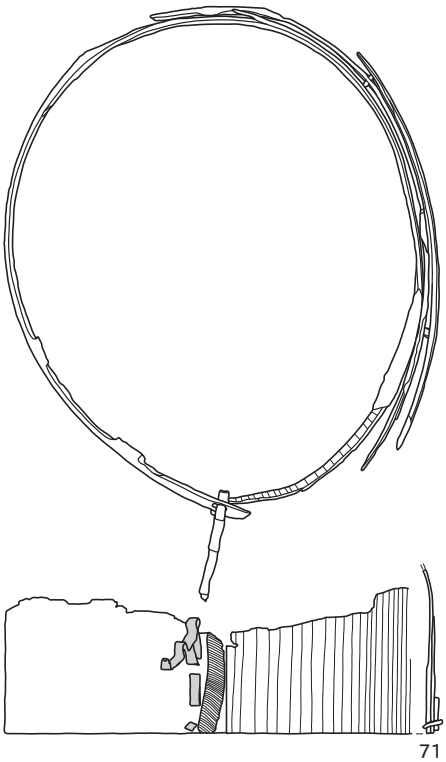

0　15cm（1:3）

石製品（65～67）
N区遺構外（65）

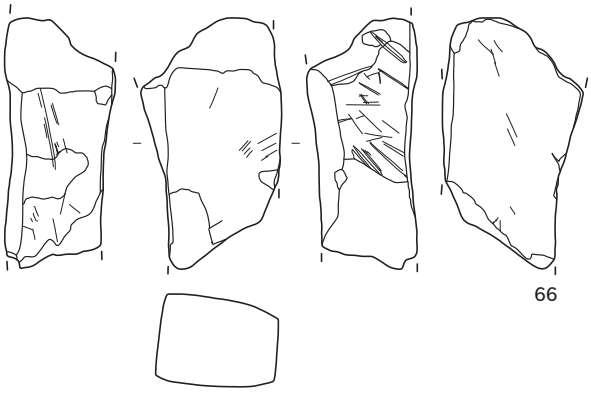
O区SD6054（67）




木製品（70・71）
N区SE6006（70・71）




N区SE6006（66）



金属製品（68・69）
M区SD6187（68）

M区P6166（69）

0　（65～69）　15cm（1:3）
0　（70）　30cm（1:6）
0　（71）　40cm（1:8）

N・O 区　全景（北西から）

M 区　全景（東から）

M 区中層　完掘（東から）

M 区 SK6227　セクション（南東から）

M 区 SK6231　遺物出土状況（南西から）

L 区　完掘（南東から）

N 区　完掘（南東から）

N 区 SE6006　検出状況（南西から）

N 区 SE6006　水溜施設（曲物）検出（南西から）

N 区 SE6006　完掘（南西から）

M 区南壁　基本層序・SD6132（北東から）

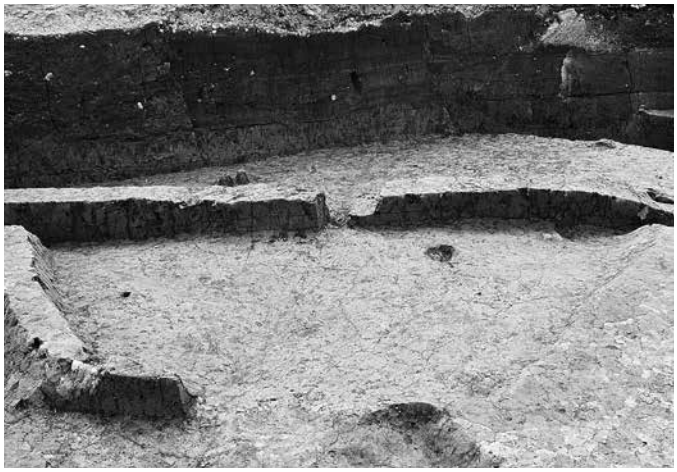
M 区南壁　基本層序・SD6113（北東から）

M 区 SK6227　セクション（南東から）

M 区 SK6227　遺物出土状況（南東から）

M 区 SK6227　完掘（南東から）

M 区 SK6227・6231　完掘（東から）



M 区 SK6231　セクション（東から）

M 区 SK6231　SD6232　セクション（北から）

M 区 SK6231　遺物出土状況（東から）

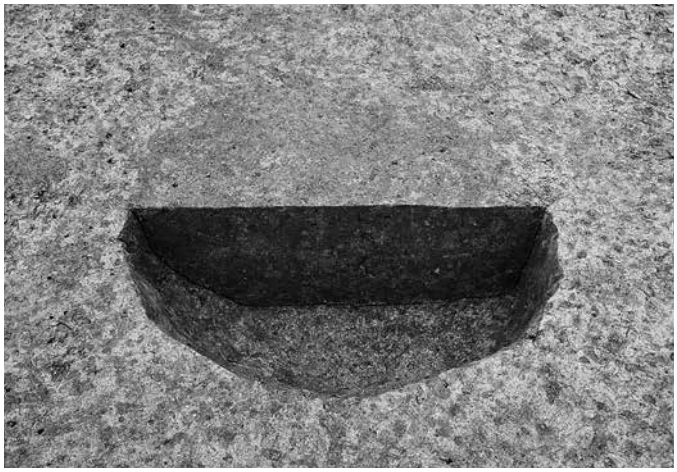
M 区 SK6231　遺物出土状況（南から）

M 区 SD6232　完掘（南西から）

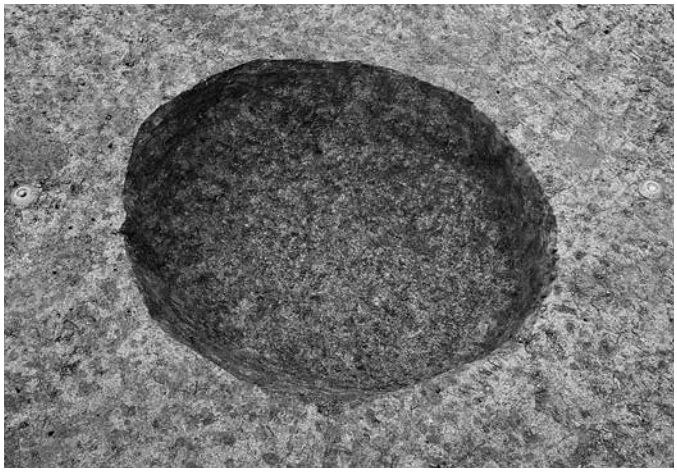
M 区 SD6232　完掘（北東から）

M 区 P6246　セクション（北から）

M 区 P6247　セクション（北から）

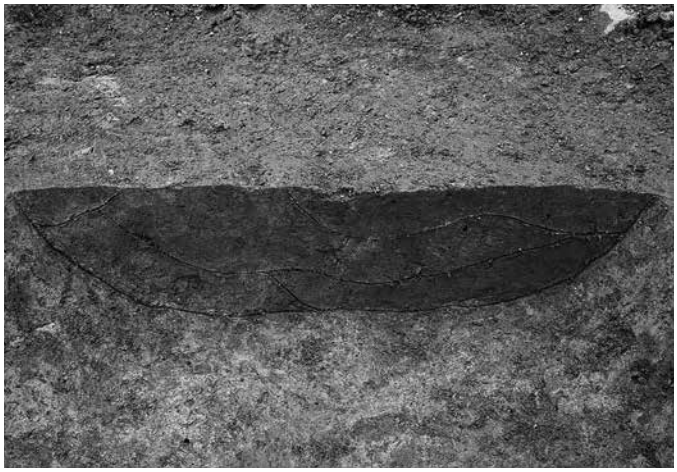


L 区 SK6001　セクション（南東から）

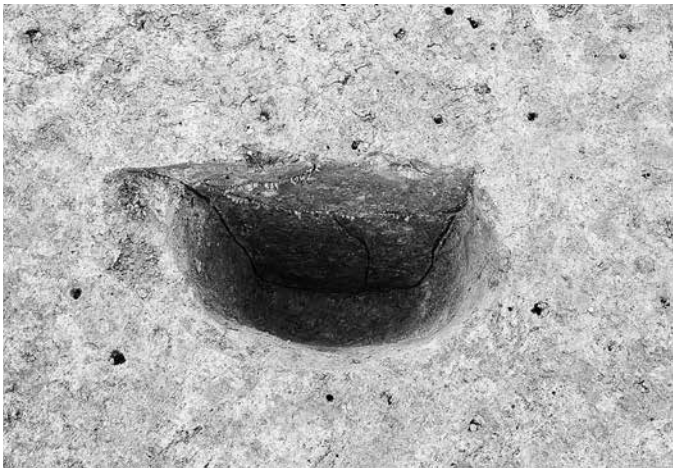


L 区 SK6001　完掘（南東から）

L 区 SD3015・3025 北壁　セクション（南から）

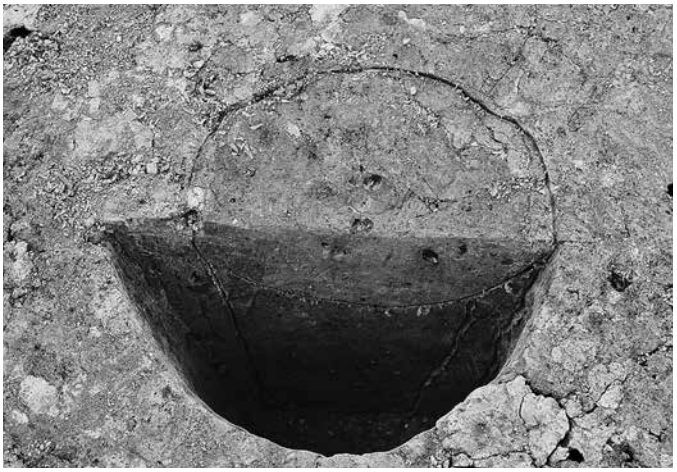


L 区 SD3025　セクション（北東から）



L 区 P6003　セクション（南東から）

M 区 SB6138-P6122　セクション（北西から）

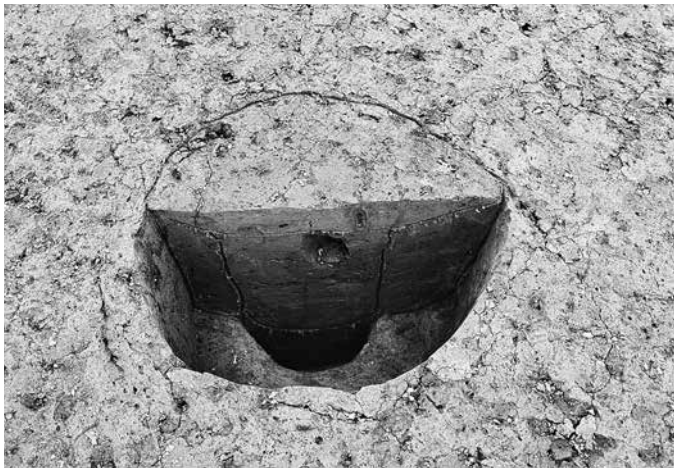


M 区 SB6138-P6123　セクション（南西から）

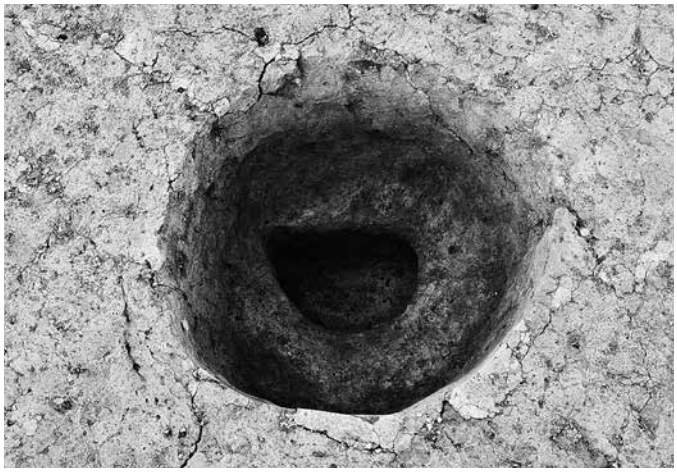
M 区 SB6138・6145・6248・6249（南西から）

M 区 SB6138-P6134　セクション（南西から）

M 区 SB6138-P6148　セクション（北東から）



M 区 SB6138-P6149　セクション（南西から）

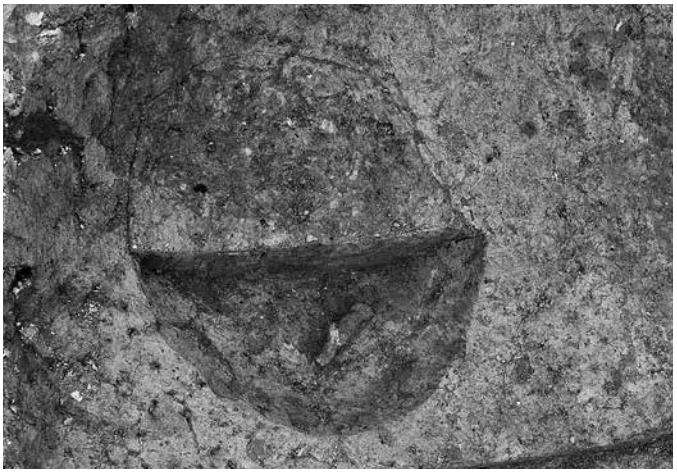


M 区 SB6138-P6149　完掘（南西から）

M 区 SB6145-P6182　セクション（南東から）

M 区 SB6145-P6230　セクション（南東から）

M 区 SB6248-P6131　セクション（西から）



M 区 SB6248-P6166　セクション（北東から）

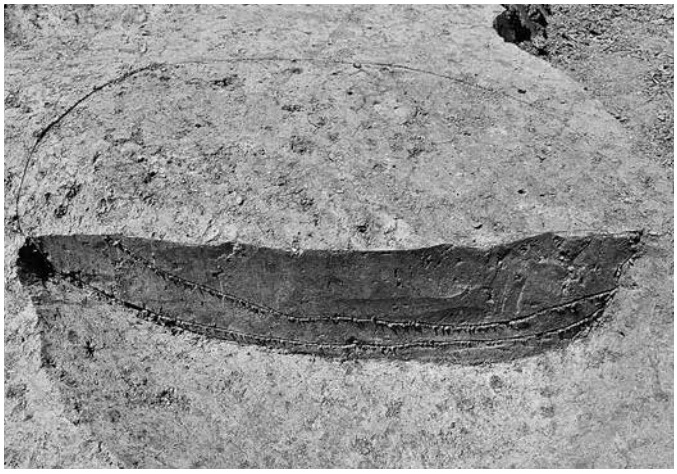
M 区 SB6248-P6161　セクション（西から）

M 区 SB6249-P6197　セクション（北西から）

M 区 SB6249-P6197　遺物出土状況（北西から）

M 区 SB6249-P6226　セクション（南から）

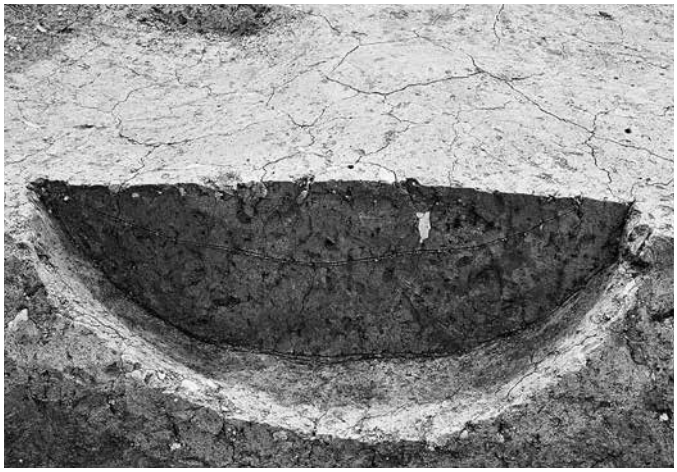
M 区 SK6095　セクション（北東から）



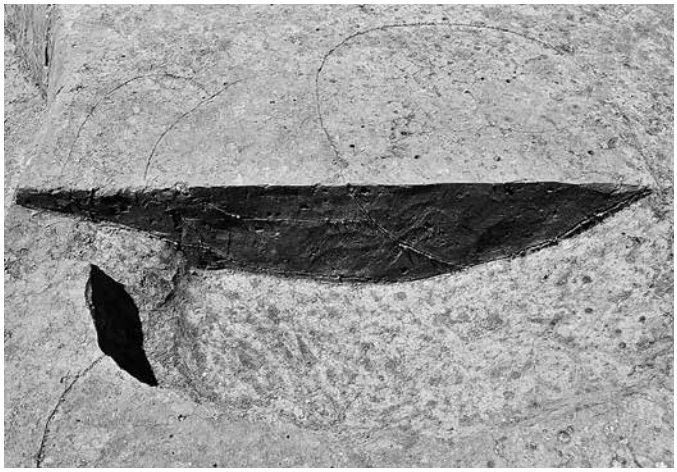
M 区 SK6139　セクション（北東から）

M 区 SK6139　完掘（北東から）

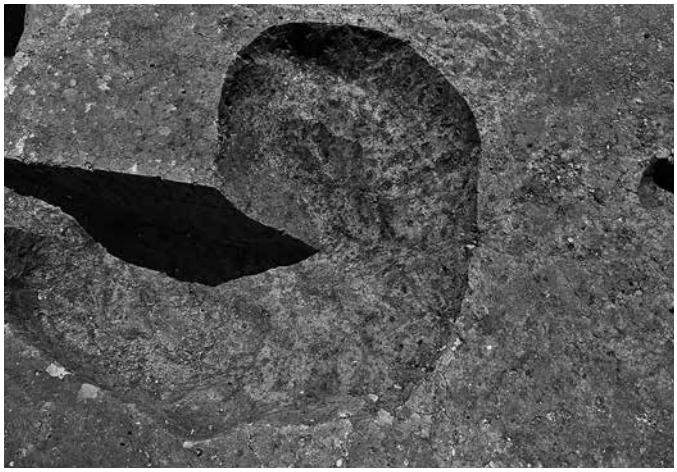
M 区 SK6147　セクション（東から）



M 区 SK6163　セクション（東から）



M 区 P6203・SK6202・6201（左から）　セクション（北東から）



M 区 SK6201　完掘（北東から）

M 区 SK6202　完掘（北東から）

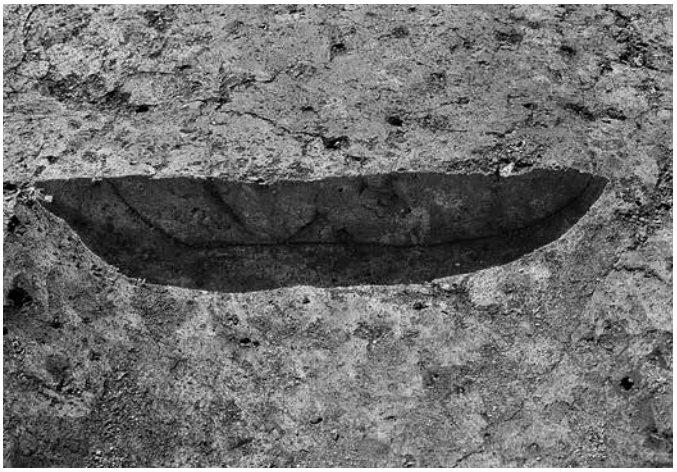
M 区 SK6207　セクション（南東から）

M 区 SK6213　セクション（北東から）

M 区 SK6213　完掘（南東から）

M 区 SK6223　セクション（北から）

M 区 SK6223　完掘（北から）

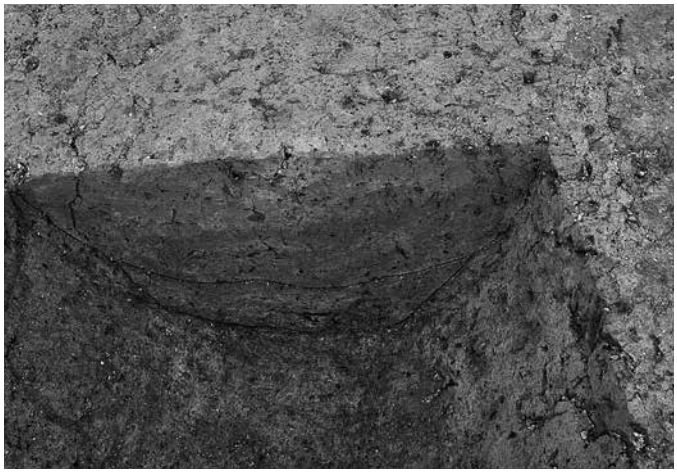


M 区 SD6111　セクション（南東から）

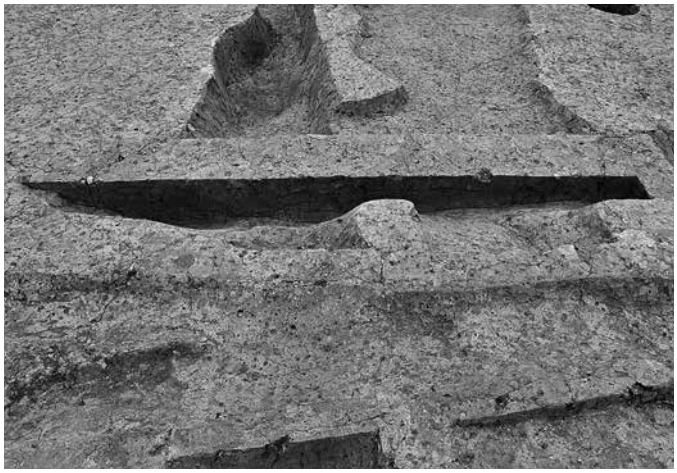
M 区 SD6113　セクション（南東から）

M 区 SD6114　セクション（南東から）

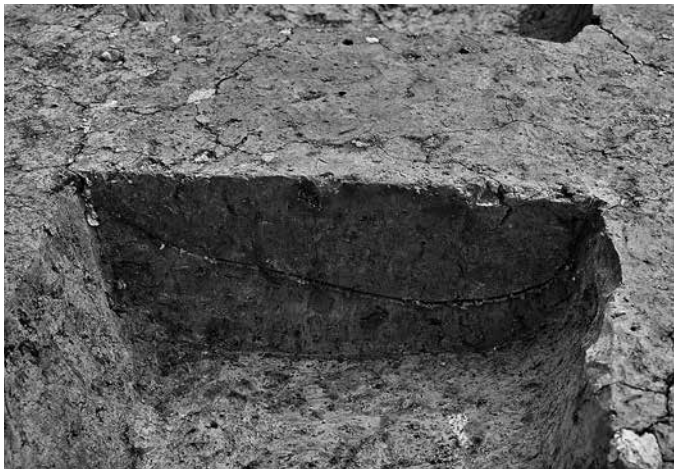
M 区 SD6115　セクション（北東から）



M 区 SD6132　セクション（西から）



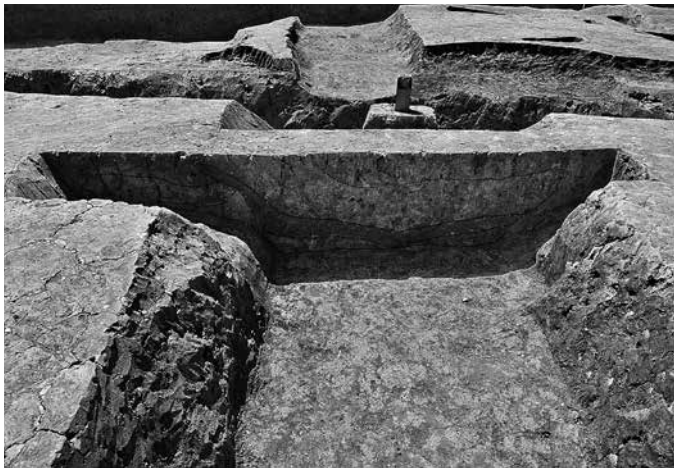
M 区 SD6177・6132・6113（左から）　セクション（南東から）



M 区 SD6164　セクション（北東から）

M 区 SD6167　セクション（北東から）

M 区 SD6177　セクション（北東から）

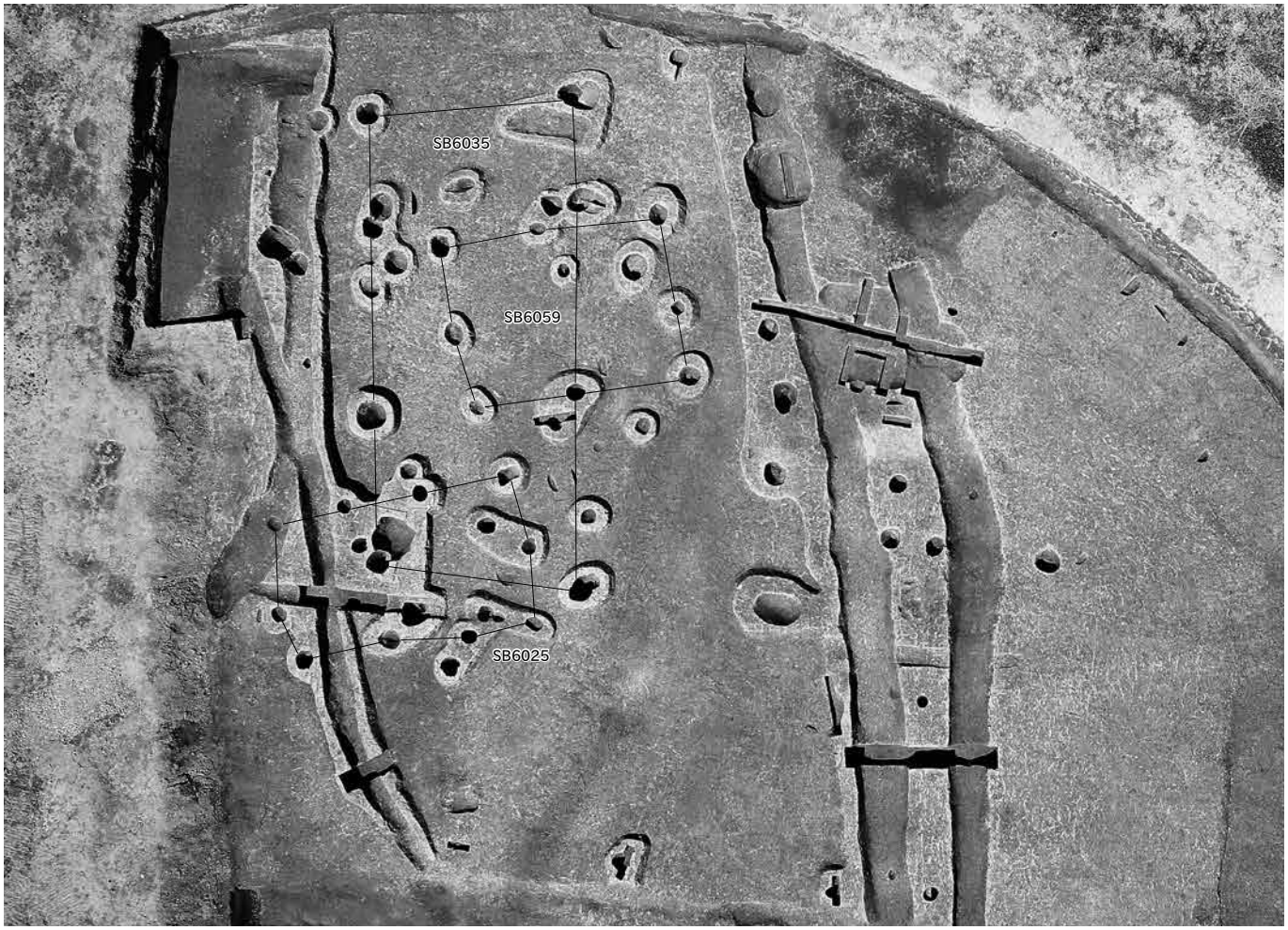


M 区 SD6186・6187　セクション（東から）

M 区 SD6186　セクション（北東から）

M 区 SD6187　セクション（南東から）

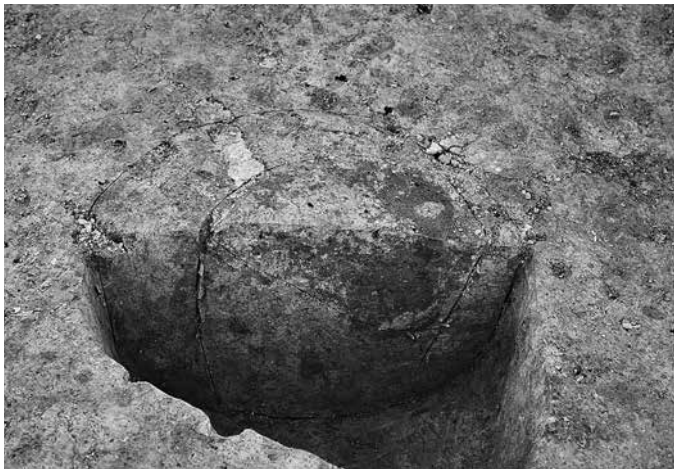
M 区 SD6209　セクション（南東から）




N 区 SB6025・6035・6059（南西から）

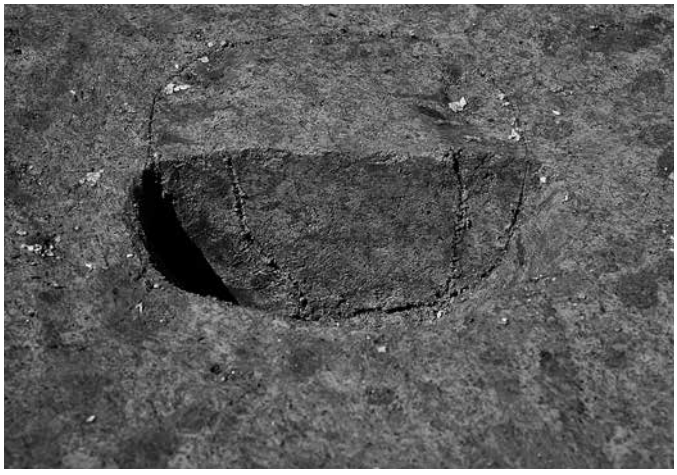
N 区東壁　基本層序（西から）

N 区 SB6025-P6072　セクション（北東から）



N 区 SB6025-P6076　セクション（東から）

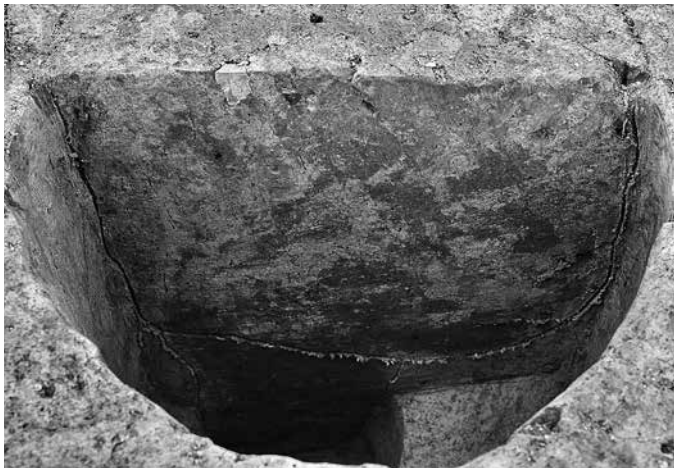
N 区 SB6025-P6042　セクション（北西から）



N 区 SB6025-P6026　セクション（東から）

N 区 SB6035-P6036　セクション（北西から）

N 区 SB6035-P6040・6037（左から）　セクション（北東から）

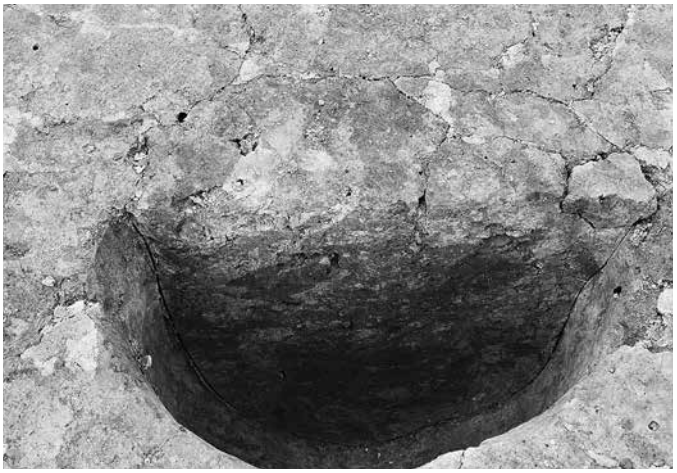


N 区 SB6035-P6048　セクション（北東から）

N 区 SB6035-P6071　セクション（南西から）

N 区 SB6059-P6050　セクション（南東から）

N 区 SB6059-P6060　セクション（西から）



N 区 SB6059-P6063　セクション（南から）

N 区 SB6059-P6064　セクション（南から）

N 区 SE6006　セクション（南西から）

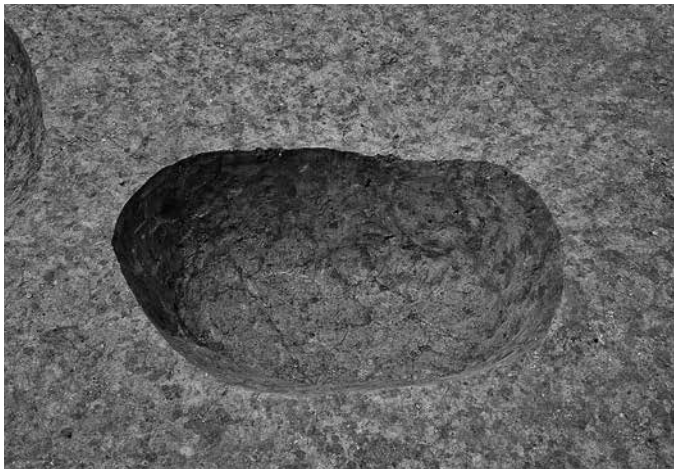
N 区 SE6006　セクション（南西から）

N 区 SE6006　遺物出土状況（南西から）

N 区 SE6006　杭検出状況（北西から）

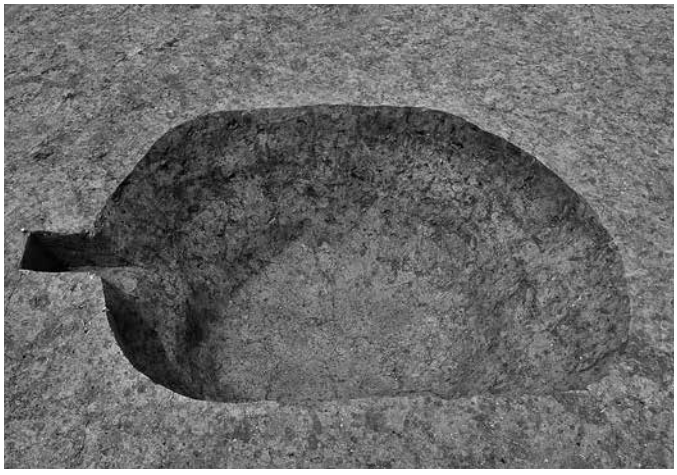
N 区 SE6006　完掘（南西から）

N 区 SK6008　セクション（東から）



N 区 SK6008　完掘（東から）

N 区 SK6009　セクション（南東から）



N 区 SK6009　完掘（南東から）

N 区 SK6010　セクション（北東から）

N 区 SK6010　完掘（北東から）

N 区 SK6024　セクション（南東から）

N 区 SK6024　完掘（南東から）

N 区 SK6077　セクション（北東から）

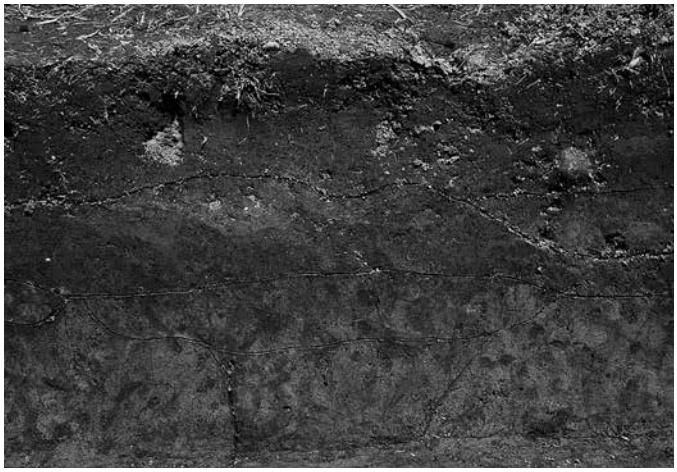
N 区 SK6077　完掘（北東から）

N 区 SK6096　セクション（北東から）

N 区 SK6096　完掘（北東から）

N 区 SD3066・SE6006（左から）　セクション（北東から）

N 区 SD3069　セクション（北から）



N 区 SD6007　セクション（南西から）

O 区南西壁　基本層序（北東から）

O 区 SD6051・6052　セクション（北東から）

O 区 SD6053　セクション（北から）

O 区 SD6054　セクション（北から）

O 区 SD6054　遺物出土状況（南西から）

O 区 SD6055　セクション（南から）

O 区 SD6056　セクション（南西から）

O 区 SD6057　セクション（北西から）

O 区 SD6058　セクション（東から）

## 古墳時代の土器

M区
SK6227（1・2）

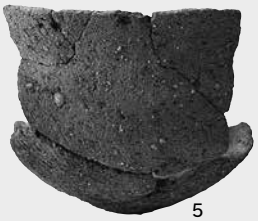
1

2

SK6231（3～16）

3

4


5

6

7

8

9

15

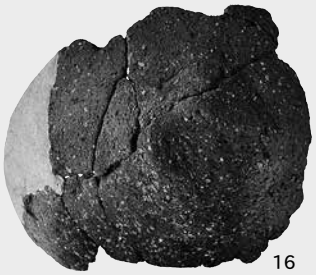
10

11

12

13

14


16

SD6187（17）

17

SD6232（18～20）

18

19

20

遺構外（21～25）

21

22

23

24

25

## 古代の土器・陶器

P6002（26）

26

SD6051（27）

27

遺構外（28・29）

28

29

## 中世の土器・陶磁器（1）

L区
SD3015（30～33）

30

31

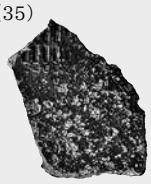
32

33

M区
SB6249-P6197（34）

34

SK6223（35）


35

SD3007（36・37）

36

37

1～37　〔1:3〕

## 中世の土器・陶磁器（2）

M区
遺構外（38～41）

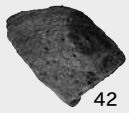
38

39

40

41

N区
SB6035-P6070（42）


42

SE6006（43～45）

43

44

45

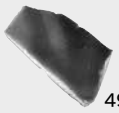
SK6009（46）

46

SD3066（47～50）

47

48


49

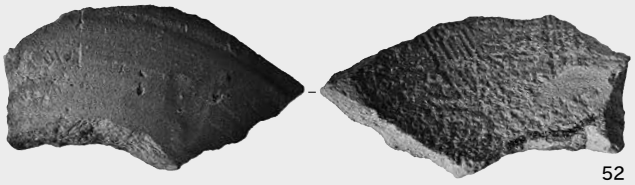
50

遺構外（51）

51

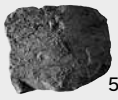
O区

SD6053（52）

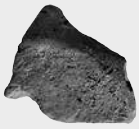

52

SD6054（53～64）

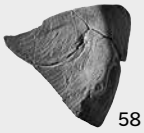
53


54

55


56

57


58

59

60

61

62

63

64

金属製品

M区　SD6187（68）　P6166（69）

68

69

木製品

N区　SE6006（70・71）

71

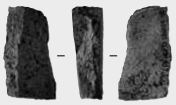
70

石製品

N区　遺構外（65）

65

O区　SD6054（67）


67

N区　SE6006（66）

66

38～69　〔1:3〕
70　〔1:6〕
71　〔1:8〕

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | さかいづかいせきよん　だいよじちょうさ |
| 書　　名 | 境塚遺跡Ⅳ　第４次調査 |
| 副 書 名 | 一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | XⅦ |
| シリーズ名 | 新潟県埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 289 集 |
| 編著者名 | 石川智紀・塩野寛人（以上、埋文事業団）、笹澤正史・松井　智・中俣　茂（株式会社吉田建設）、高橋　均・石橋夏樹（株式会社帆苅組） |
| 編集機関 | 公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 |
| 所 在 地 | 〒956－0845　新潟県新潟市秋葉区金津 93 番地１　　TEL　0250（25）3981 |
| 発行年月日 | 2021（令和３）年３月 19 日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所 在 地 | コード | | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積<br>㎡ | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 境塚遺跡（さかいづかいせき） | 新潟県阿賀野市（にいがたけんあがのし）百津字境塚（ももづあざさかいづか）・月崎字六日野境（つきざきあざむいかのさかい） | 15223 | 401 | 37°<br>49′<br>41″ | 139°<br>12′<br>37″ | 20190416～<br>20190628 | 1,119㎡ | 一般国道49号<br>阿賀野バイパス<br>建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 境塚遺跡 | 遺物包含地 | 古墳時代前期 | 土坑２基、溝１条、ピット２基 | 土師器 | |
| | 遺物包含地 | 古代 | | 土師器・須恵器 | |
| | 集落 | 中世（13 世紀後半～15 世紀前半） | 掘立柱建物７棟、井戸１基、土坑 18 基、溝 18 条、ピット 193 基（掘立柱建物の柱穴含む） | 土師質土器・珠洲焼・瓷器系陶器・瀬戸・美濃焼・青磁・砥石・石鉢・木製品 | |

| | |
|---|---|
| 要　　約 | 阿賀野川右岸の 7.0m の自然堤防上に位置する。調査の結果、古墳時代前期・古代・中世（13 世紀後半～15 世紀前半）の遺構･遺物を検出した。調査区 M 区では古墳時代前期の土坑と溝などを検出した。中世の遺構は調査区全域で確認され、掘立柱建物、井戸、溝などを検出した。掘立柱建物は遺構が重複し、少なくとも２時期以上の変遷が認められる。井戸からは、水溜施設の一部である曲物と杭などの木製品が出土した。 |


新潟県埋蔵文化財調査報告書　第 289 集

一般国道 49 号阿賀野バイパス関係発掘調査報告書XⅦ

境 塚 遺 跡 Ⅳ　第４次調査

2021(令和3)年３月 18 日印刷
2021(令和3)年３月 19 日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950－8570　新潟市中央区新光町４番地１
電話　025（285）5511

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956－0845　新潟市秋葉区金津 93 番地１
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社ハイングラフ
〒950－2022　新潟市西区小針１丁目 11 番８号
電話　025（233）0321